

北海道殖民狀況報文 根室國

7
6

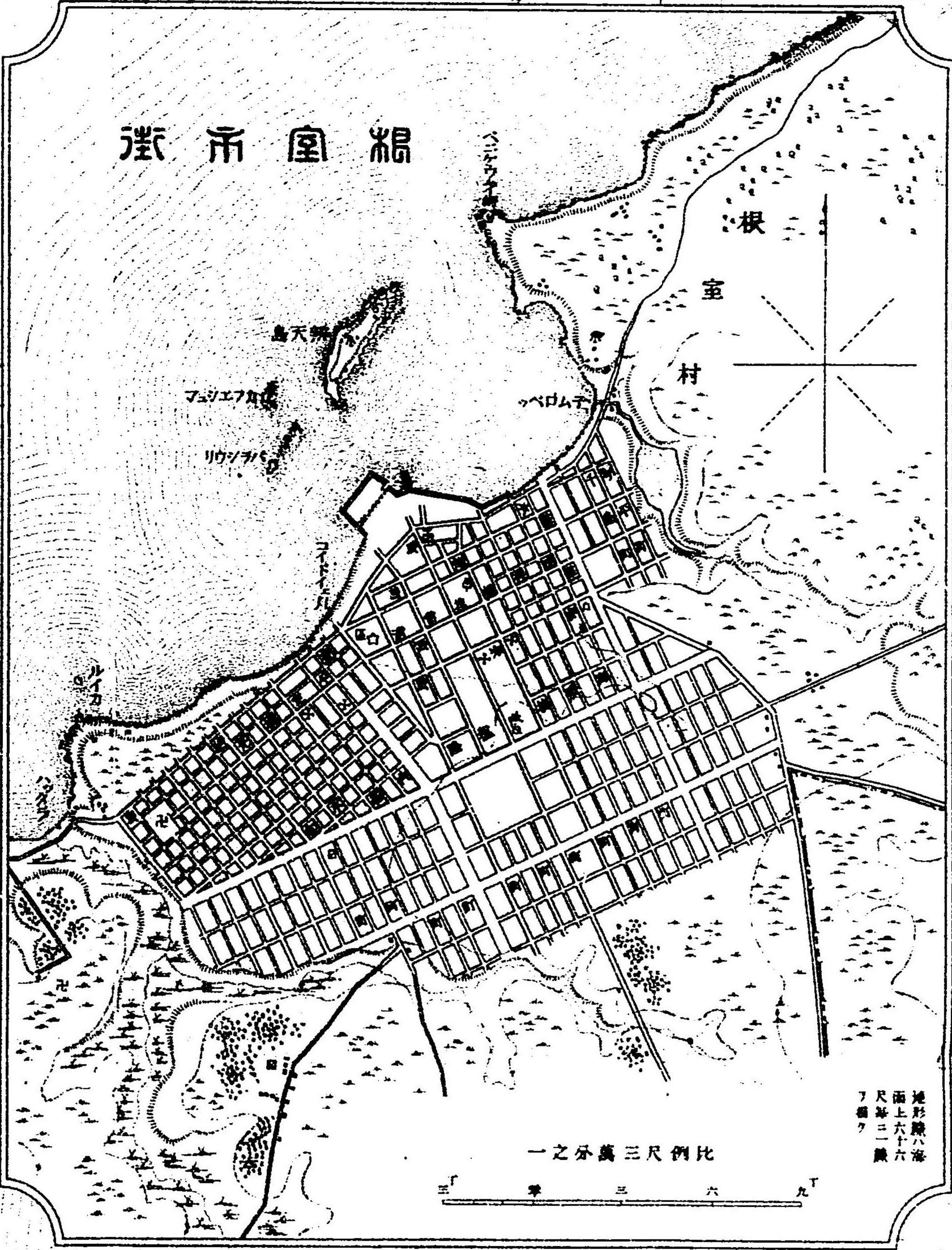
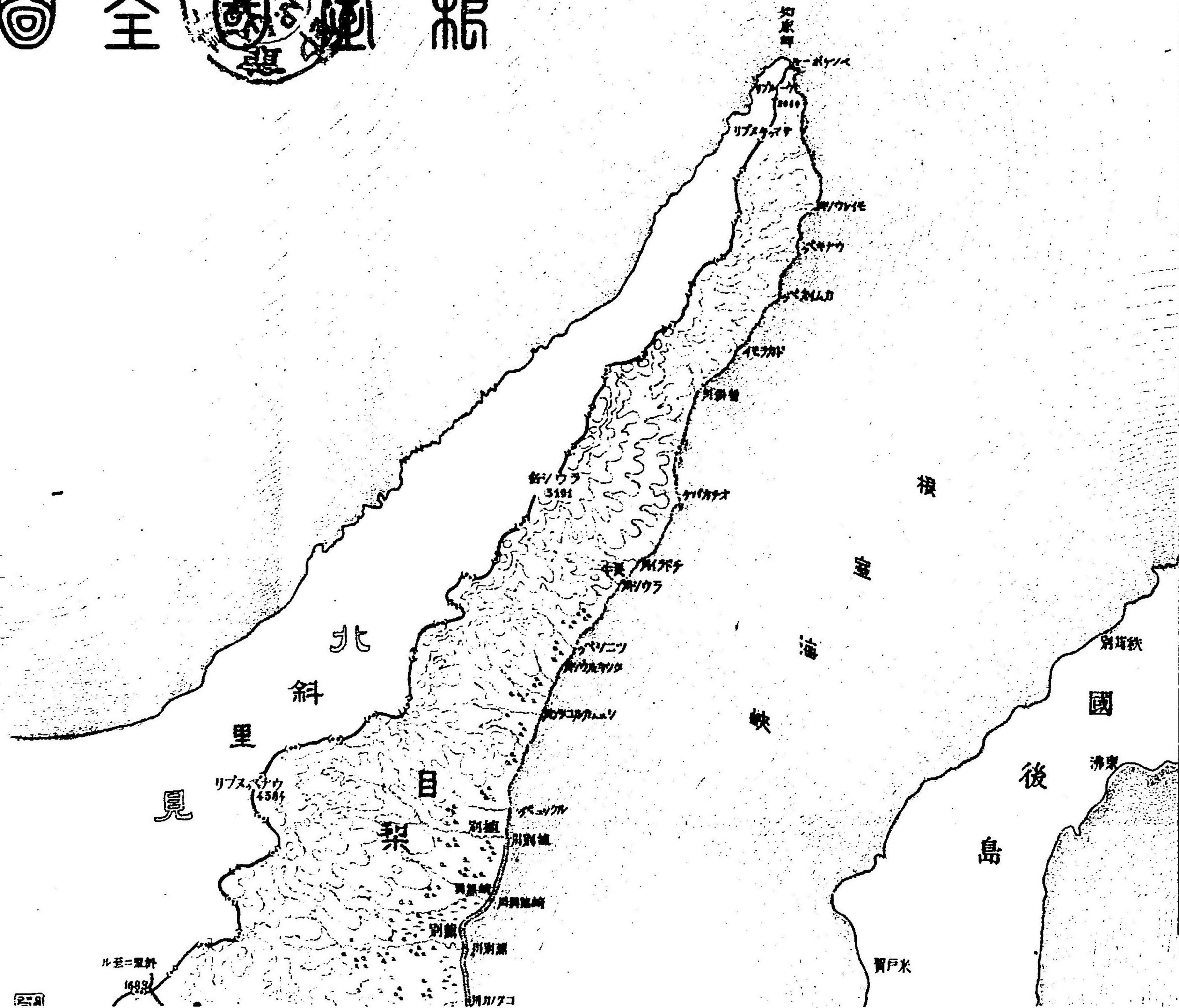
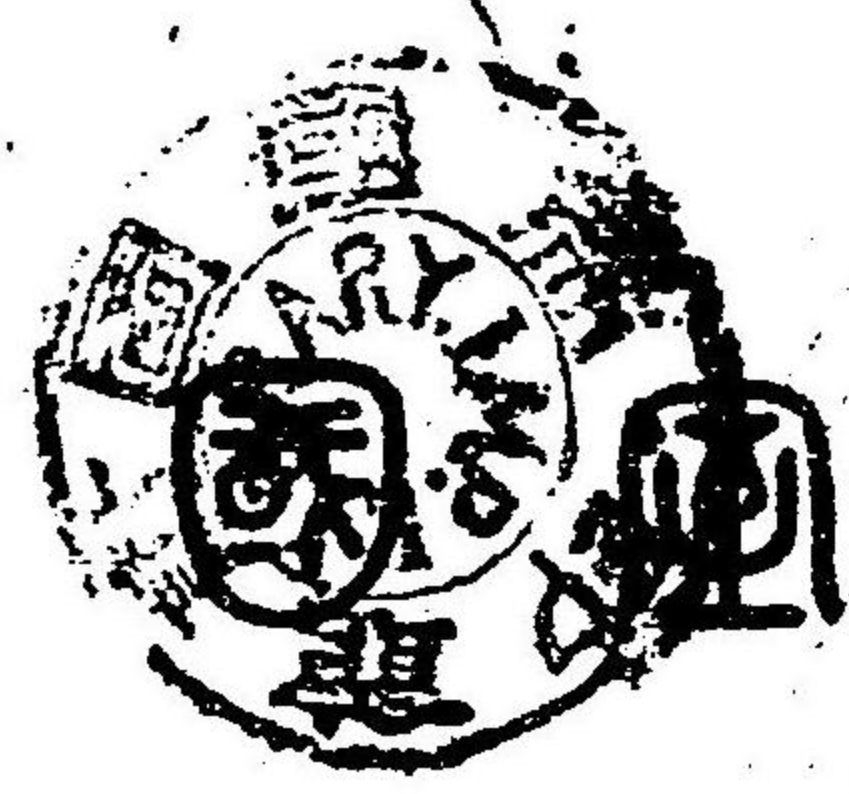
北海道殖民状況報文根室國之部正誤

頁行	誤	正	頁行	誤	正
一	五東西二十六里	東西二十六里	八三	三吳服太服	吳服太物
二	九國ノ端西	國ノ西端	八二	一〇草房	午房
三	四サマツケヌプリ(高千穂三十二尺)	サマツケヌプリ(高千穂三十二尺)	八一	一〇蕪菜	蕪菜
四	四標津岳高(高千穂三十七尺)	標津岳(高千穂三十七尺)	八〇	一〇苜蓿	苜蓿
五	三オツプナイ	オツプナイ	七九	四野菜	野草
六	一五ノツカマブニ	ノツカマブニ	七八	一〇七八十萬ニ	七八十萬坪ニ
七	一四アツケシユエト	アツケシユエト	七六	六市街ノ	市街ノ
八	三三〇町歩ニ	三十町歩	七五	一〇六百五十頭アリ	六百五十頭アリ
九	三小松楚光	小松楚光	七四	三「アリシコタン」	「アリシコタン」
一〇	九常惶寺	常惶寺	七三	一四鱒鱒	鱒鱒
一一	二昆布森	昆布盛	七二	一八賦課スルニ	賦課スルハ
一二	七三五五	一、一〇〇	七一	五刈草蕪等	刈草蕪等
一三	四昆布會社	日本昆布會社	七〇	一五盛況ヲ呈センコト	盛況ヲ呈センコト
一四	七漁業ノ中	漁業者ノ中	六九	一七北ニシテ	北ニシテ
一五	一鮭鱈類	鮭鱈類	六八	一四レッドトツ	レッドトツ
一六	七鮭鱈類	鮭鱈類	六七	一〇俗風人情	俗風人情
一七	三牛	牛	六六		
一八	四	四頭	六五		

145°

146°

根國全圖



44°

44°

一之分萬三尺例比

7尺面地
幅上六
幅三六
幅六六

三 零 三 六 九

緒言



當道拓殖事業ノ發達進歩ト共ニ之ニ伴フ利害得喪ノ發現シ來ルハ固ヨリ情勢ノ免レサル所ナリ故ニ殖民地ノ沿革ヲ考ヘ現状ニ鑑ミ以テ將來ノ計畫ヲ爲セントスルハ當ニ當局者ニ於テ必要ナルノミナラス有志者亦當ニ講究スルモノナルヘシ曩ニ長官殖民課長白仁參事官ヲシテ空道殖民ノ概況及ヒ顯著ナル殖民地ノ状態ヲ調査セシメ尋テ拓殖課長高岡參事官及ヒ普ク各地ノ地理氣候沿革戸口産業其他諸般ノ事ヲ調査シテ爲シ先ツ拓殖ノ最低度ナル本道東部ノ方面ヨリ著手セシム今ヤ根室國ノ部始テ脱稿シ將ニ鉛槧ニ附セントス其記述スル所素ヨリ完全ナラスト雖亦以テ相共ニ計畫講究ヲ爲スニ於テ裨益スル所アラシク歟聊カ其調査ノ目的及來由ヲ記シテ卷首ニ辨ス

明治三十一年一月

北海道廳殖民部

例言

- 一 當報文ハ明治二十九年九月九日ヨリ同年十月一日ニ至ル二十二日間實地ニ就テ調査シ傍ラ官廳ノ書類及ヒ舊記等ヲ參照シテ編纂ス實地調査ノ日數僅少ニシテ其精細ヲ悉ス能ハサルハ止ムヲ得サル所ナリ
- 一 當報文ハ分テ總說郡町村ノ二編トナシ總說ノ部ニ於テ一國ニ關スル概畧ヲ說キ郡町村ノ部ニ於テ郡町村各別ニ之ヲ記ス
- 一 當國郡町村ノ經界概テ明瞭ナラス因テ國郡ノ境界ハ北海道廳實測地形圖ニ據リ町村ノ境界ハ其地方人民ノ稱スル所等ニヨリテ概記ス但右地形圖ニハ從來經界不明ノ處ハ將來ノ便否ヲ考ヘ假リニ經界ヲ畫シタル所アリテ釧路國虹別村ノ如キ之ヲ根室國內ニ入レリ今國郡ノ境界ハ地形圖ニ據ルト雖モ虹別村ノ狀況ハ之ヲ釧路國ノ部ニ記シ附圖ニハ別ニ點線ヲ以テ假リニ推測ノ國界ヲ示ス
- 一 未開原野ノ調査ハ將來拓殖上甚タ重要ナレトモ實際踏査ヲナスノ時日ナシ幸ニ殖民地撰定報文ノアルヲ以テ之ニ讓リ當調査書ニハ唯其梗概ヲ記スルノミ
- 一 戶口産業輸出入其他統計ニ關スルモノハ多クハ明治二十八年年度ニ於ケル官廳及ヒ漁業組合ノ調査ニ據ル其統計中往々精確チ欠クモノアリ其一ニテ擧グレハ現在戶口數ハ官ノ帳簿ニヨリ木籍出寄留入寄留チ差引キテ算出スレトモ實際官ヘ届出チナサスシテ去來スル者少ナカラサルヲ以テ帳簿上ノ計算ト實際ノ數ト同シカラサルコトアリ又水産物ハ當業者ノ届出ニ據ルモノ多クシテ其統計ハ實際ノ收穫ヨリモ少ナキ傾アリト雖モ今俄ニ之ヲ精算スル能

ハス

一當報文ノ調査ハ當廳事業手河野常吉ニ擔當セシメタルモノナリ

明治三十一年一月

北海道廳殖民部

北海道殖民狀況報文根室國之部目次

前編 總說

地理	一
氣候	五
動植物	八
沿革	九
郡町村及ヒ官衙	一三
運輸交通	一四
戶口	一六
漁業	一九
農業	二四
牧畜	三三
製造	三六
林業	三七
商業	三九
風俗人情	四〇
町村經濟	四一
教育	四五

衛生
社寺

後編 郡町村

花 咲 郡

落石村

昆布盛村

花咲村

友知村

沖根婦村

沖根邊村

婦羅理村

齒舞村

瑠璃瑠村

根 室 郡

根室市街

根室村

和田村

穗香村

四七頁
四七

五一

五四

五六

五八

六〇

六二

六二

六三

六四

六五

六七

七〇

九〇

九六

一〇〇

一〇二頁

一〇六

一〇九

一一一

一一三

一一四

一一八

一二一

一二三

一二四

一二五

一三〇

一三一

一三三

一三六

一三八

一四〇

三

北海道殖民狀況報文根室國之部

前編 總說

地理

疆域及ヒ地勢、根室國ハ北海道本地ノ東端ニ位シ北西ハ北見國ニ接シ南西ハ釧路國ニ隣シ東ハ海ニ枕ム東西ニ十六里南北三十四里面積二百三十九方里アリ地形島ノ兩翼ヲ張ルカ如シ其左翼北ニ延長シ千島帶山脉ヲ以テ北見ノ斜里郡ト表裏シ共ニ知床半島ヲ成シオコーツク海ニ突出シ知床岬ヲ南東ベンケホール(北緯四十四度二十一分)ヲ以テ國ノ極北トナス其臀部及ヒ右翼ノ一部ハ釧路國ニ連リ原野廣漠其間毫モ天然ノ國界トナルヘキ地物ヲ存セス其尾端西別岳山脉東經百四十四度二十七分ヲ以テ國ノ端西トナス右翼東ニ延ヒテ太平洋ニ斗出シ根室半島トナル其東ノ盡頭ヲ納沙布崎(東經百四十五度四十九分)ト云ヒ南ノ極端ヲ落石岬(北緯四十三度九分)ト云フ該半島ノ東及ヒ南ニ數多ノ島嶼アリテ散在ス根室半島ト知床半島トノ間緩カナル一大灣形ヲナシ其中央ニ野付半島アリ恰モ島ノ首ニ當リ千島國ノ國後島ト相對ス國ヲ分テ花咲根室野付標津目梨ノ五郡トナス花咲郡ハ南海岸ニ位シ之レト腹背ヲ根室郡アリ此兩郡ノ東部ハ即チ根室半島ナリ根室郡ノ北ニ野付郡アリ野付郡ノ北ニ標津郡アリ最北ヲ目梨郡ト爲ス即チ知床半島ノ東側ナリ各郡東西ニ長ク南北ニ狹シ唯目梨郡ノミ南北ニ長ク東西ニ狹シ

山嶽

國中山嶽ト稱ス可キハ唯千島帶山脉アルノミ此山脉ハ北見國トノ境界ニ連亘シ釧路

國境ノ北端ニ至ル知床岬頭ニ高二千尺ノウーイヌアリ其脈南西ニ走リ良牛岳最モ高峻ヲ極メ其高五千九十一尺ウナベツ嶽之レニ次キ其高四千五百八十四尺諸山相連リテ目梨郡ノ大部ヲ占領シ瑠邊斯山道ニ至リ降テ千六百八十三尺トナリ之ヲ超テ目梨標津二郡及北見國ノ境ニサマツケヌアリ(高三千二百二十一尺)アリ之レニ續テ標津岳高(三千二百三十七尺)アリ舊斜里山道ニ至リ再ヒ低クシテ千五百六十一尺トナリ其南ニ西別岳(高二千八百六十一尺)アリ又サマツケヌアリヨリ支脈東方ニ分レ目梨標津二郡ノ境ニベクンチウシヌアリ聳立ス其高三千二百二十二尺

河川、河川ハ地勢ニ從ヒ西方ヨリ發シ東方ニ流ル唯根室半島ニアルモノハ南北ニ分流ス國ノ中部ニ在ル河川ハ曠原ノ高處若クハ千島帶山脉ノ南東側ニ發シ河身長ク水勢緩カナリ其最モ長大ナルヲ西別川トシ水原ヨリ流末ニ至ルマテ三十里アリ風蓮川(長二十四里七町)標津川(長二十一里二十六町)春別川(長十五里十八町)當幌川(長十四里二十五町)オンチヤウシユベツ川(長十里三十一町)別當賀川(長八里十九町)床丹川(長八里二十町)チアル川(長五里七町)等之レニ次ク知床半島ニ在ル河川ハ皆千島帶山脉ノ東側ニ發シ河身短ク水勢急ナリ忠類川(長十一里十八町)崎無異川(長六里三十一町)及ヒコタノカ川(葦別川)植別川(シユムカルコタン川)良牛川等是ナリ根室半島ニ在ルモノハ皆細流ニシテ記スルニ足ラス

諸川概テ其流ル、所ノ高原ヲ侵蝕シ河道低下シ兩岸多クハ段階ヲナス中部ノ大川ニ在テハ其兩岸ノ間稍々廣キ低原ヲナスモノ少ナカラス

湖沼、風蓮湖ハ根室郡ノ中部ニアリ風蓮川別當賀川等ノ注入スル海岸湖ニシテ沿岸屈曲周

回十六里三十町實ニ本道第二ノ大湖ナリ其海ニ通スルニ二口アリ遠太ト云ヒト一ハイエト云フ風蓮湖ノ南東ニオンチト一湖アリ根室半島ト本地トノ間隔ヲナス周回三里十七町亦其口ヲ海ニ開ク其他花咲郡ニ池沼數個アレトモ皆小ナリ

原野、千島帶山脉ノ外國内概テ高原ニシテ西方釧路ノ原野ヨリ漸次東方ニ傾斜ス處々ニ丘陵起伏シ又河岸及ヒ海岸ニ低原アリテ高低ヲナスト雖モ一望殆ント平衍ノ如シ殖民地撰定報文ニ據レハ明治二十二年殖民適地トシテ測量撰定シタル所ハ根室半島及ヒ二三ノ高丘地ヲ除キ其地積總計三億八千餘万坪ニシテ之ヲ十一原野ニ分ツト雖モ其實ハ皆連續シタル一大廣原ナリ其撰定地左ノ如シ

郡	原野	樹林地	草	原	丘陵	陵	濕地	泥炭地	計
厚別	三三,四八,六五〇						七,二〇,〇五〇	二,四九,四〇〇	三五,四三〇,一〇〇
風蓮	三五,七〇〇,〇〇〇						二,〇〇〇,〇〇〇		三七,七〇〇,〇〇〇
ヤウシユベツ	一四,七六,六〇〇						六,四二,七六三	九,五六,五五〇	一六,三六,一九三
オツプナイ	二,七四,二五〇						二,八三,四〇〇		二,八六,九六〇
計	七,二九,七,九五〇						六,二二,二二三	三,三五,九五〇	九,三三,六,六三三
床丹	四九三,〇〇〇						三,一六,二五〇〇	七,〇五,七六〇	四〇,五九,一〇五〇
春別							九,四〇〇,〇〇〇		三六,八八,一七五〇
當幌							一五,五四,二〇〇		七三,四二,七九〇〇

標	津		計	標	津		計	標	津		計
	中	計			中	計			中	計	
標	五、三三、四五〇	—	五、三三、四五〇	標	二八、〇八七、七〇〇	—	二八、〇八七、七〇〇	標	七、六六九、五五〇	—	七、六六九、五五〇
中	一、九〇一、六〇〇	六、五九七、一〇〇	八、四九八、七〇〇	中	三、四九六、三五〇	—	三、四九六、三五〇	中	—	—	—
計	四、八五、六〇〇	六、五九七、一〇〇	一一、四五二、七〇〇	計	三、七六七、三〇〇	—	三、七六七、三〇〇	計	四、〇九八、二五〇	—	四、〇九八、二五〇
目	七、六〇、六五〇	一、九九七、七〇〇	九、六〇八、三五〇	目	—	—	—	目	—	—	—
忠	一、九七二、三五〇	三、四九六、五〇〇	五、四六九、八〇〇	忠	—	—	—	忠	—	—	—
計	一、九七二、三五〇	三、四九六、五〇〇	五、四六九、八〇〇	計	—	—	—	計	—	—	—
合	二七、三三、九五〇	五、四六九、八〇〇	三二、八〇三、三五〇	合	二九、〇三三、一五〇	—	二九、〇三三、一五〇	合	三、三三三、三五〇	—	三、三三三、三五〇

海岸 海岸線ノ長九十一里ニ渉ル然レトモ根室半島ノ外ハ岬灣乏シ知床岬ヨリオンチト一ニ至ルノ間ハ唯野付半島ノ岬灣アルノミニテ之ヲ除ケハ其海岸一ノ弓形ヲナスニ過キス而シテ知床半島ニ屬スル所ハ山脚直ニ海ニ臨ミ又ハ高原ノ端海ニ急下シテ斷崖ヲナス標津郡以南ハ概テ砂濱ヲナシ唯平系村ノ海岸ニ高原ノ段階壁立スルヲ見ルノミ野付半島ハ悉ク砂地ニシテ其灣ハ水淺クシテ漁船ヲ入ル、能ハス根室半島ハ小岬灣多シ其高原ノ端直ニ海ニ臨ミテ所々峭壁ヲナシテ屹立シ或ハ其傾斜急ナラスシテ雜草ヲ以テ掩ヒ其下ニ間々狹キ砂濱ヲ交フ該半島ノ北岸ナル根室港ハ狹隘ナレトモ前面ニ小島アリテ風浪ヲ遮ルヲ以テ本道東部ノ要港タリ又該半島ノ南岸ナル花咲港ハ冬期根室灣ノ氷結セル際船舶ノ寄泊スル所ナルヲ以テ亦極要ノ地トナス而シテ該半島ノ南方ヨリ東方ヲ經瑤瑤水道ノ近海ハ嶋嶼暗礁多キヲ以テ夏期濃霧ノ

際航海者ノ殊ニ注意ヲ要スル所タリ

地質土性 千嶋帶山脉ハ著名ナル火山脉ニシテ留邊斯山道附近少許ノ第三紀層地ヲ除クノ外皆火山岩ナリ國ノ中部ノ高原ハ下層概テ第三紀層ニ屬スル植土ニシテ上層ハ第四紀ニ噴出セル火山灰及ヒ腐植土ヲ混シテ壤土若クハ砂質壤土トナル多クハ乾燥シ地味肥沃ナリト云ヒ難シ河流ノ沿岸ハ沖積土ニシテ最モ膏腴ノ地アリ壤土砂質壤土及ヒ泥炭等ニシテ濕地多シト雖モ泥炭地ヲ除クノ外ハ排水セハ之ヲ改良スルヲ得バシ根室半島ハ第三紀層及ヒ火山岩ヨリ成リ下層ハ大抵植土上層ハ腐植土ヲ混スレトモ薄クシテ地味良好ナラズ

氣候

國內ノ氣候ハ精細ニ調査シタルモノナシ今根室測候所ノ觀測セル所ニ基ツキ其大略ヲ説カン

溫度 溫度根室測候所ハ本道西部ナル札幌ト殆ソト其緯度ヲ同フシ宗谷ノ南二度餘ニアリ然レトモ本道東部ノ氣候ハ大ニ本道西部ヨリ劣リ殊ニ根室ハ最モ不良ナリト稱セラル該測候所全年平均溫度ハ攝氏五度七分ニシテ宗谷ト相均シク札幌ヨリ低キコト一度二分ナリ就中夏期ハ低溫ニシテ六七八ノ三ヶ月平均ハ十四度二分ノヲ札幌ニ比スレハ低キコト四度二分宗谷ニ比スレハ低キコト九分ナリ斯ク根室ノ低溫ナル原因ハ海岸一般ニ親潮ト稱スル寒流ノ爲メニ洗ハレ寒冷ナル海上氣候ノ影響ヲ受クルニヨル而シテ其夏期ノ比較的最低ナルハ此季節ニ流行スル南東風ニ依リ海上ヨリ冷氣ヲ陸地ニ吹送ルヲ以テナリ加之溫暖ナル黒潮ハ親潮ノ外海ニ沿ヒテ反對ノ方向ニ流レ之ヨリ發スル所ノ水蒸氣ハ南東風ニヨリテ親潮流域内ニ送ラレ冷却シテ霧トナリ徐々陸地ニ襲來シ日光ヲ遮蔽スルヲ以テ益々夏期ノ溫度ヲ低落セシム

右ノ影響ヲ受クルハ其衝ニ當レル根室半島最其シク國ノ中部殊ニ海ヲ距リ陸内ニ入ルニ從ヒ漸ク減シテ溫度ヲ増スハ植物生育ノ狀況等ニ徴シテ明カナリ又釧路測候所ハ根室國中部ノ原野ヲ距ルコト西方僅ニ二里ニ過キサレトモ其夏期ノ溫度ハ根室港ヨリ高キコト一度九分ナリ是ニ山テ之ヲ推セハ内部原野夏期ノ溫度ハ甚シク低カラサルヲ知ルニ足ラン根室測候所冬期三ヶ月ノ平均溫度ハ氷點下三度七分ニシテ札幌ヨリ高キコト一度宗谷ヨリ高キコト一度三分ナリ夏期ノ低溫ナルニ比スレハ冬期ハ寒冷ナラスト謂フヘシ但シ北方及ヒ陸内ニ至ルニ從ヒ漸次其寒氣ヲ増スハ地理上ニ於テ自ラ然ラサルヲ得ス根室測候所ニ於ケル年内各月ノ平均溫度ハ左ノ如シ

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
(一)四、一	(一)五、八	(一)三、二	四、〇	七、八	一〇、三	一四、一	一七、七	一四、四	九、六	四、九	一、三	五、七

風、風ノ方向ハ一月ヨリ三月ニ至ル三ヶ月間ハ北西四月五月ハ南六七八ノ三ヶ月ハ南東九月十月ハ南西十一月十二月ハ西ヲ多シトス風力ハ冬期最モ強ク春秋二期之ニ次キ夏期弱シ其農作物ニ害アル強暴風ハ南東風南風南西風トス之ヲ要スルニ當國ノ如キ風勢ヲ減削スヘキ山嶽ニ乏シキ地ニ於テハ原野開拓ノ際防風林ヲ設クルコト肝腎ナリ

濕度 濕度ハ全年平均七十九パーセントニシテ夏期ニ高ク冬期ニ低シ其七月並ニ八月ノ平均ハ各々九十一パーセント二月ノ平均ハ六十七パーセント其差二十四ニシテ本道各測候所中全年濕度高低ノ差最モ多キ地ナリ其理由ハ夏ハ南東風ニヨリテ海上ヨリ空氣ヲ送り來リテ著

シク濕潤シ冬ハ北西風流行シ數多ノ陸地ヲ經テ空氣ノ甚々乾燥シ來ルニヨル中部ノ原野ハ海上氣候ノ影響ヲ受クルコト稍々少ナキヲ以テ夏期ノ濕度之ヨリ低シト知ル可シ

雨雪及ヒ霜 雨雪ノ量ハ本道中少ナキ方ニテ一ヶ年總量九百耗内外ニ過キス中夏ヨリ秋期最多ク一月二月最少シ雨雪日數(水量一耗以上ノ日)ハ全年中百五十九日ニシテ夏秋ニ多ク冬春ニ少ク其模様ハ正ニ本道ノ西部ニ反ス根室測候所ノ觀測ニヨレハ左ノ如シ

雨雪量	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
雨雪日數	一一	九	一一	一四	一三	一六	一三	一六	一五	一三	一四	一四	一五九
雨雪量	二三	二三	五三	九四	九四	九〇	一一八	一四一	一二六	九六	一〇四	八五	一〇四七

霜ハ平年十月中旬ニ始リ翌年五月中旬ニ終ル時トシテハ九月下旬ヨリ翌年六月上旬ニ涉ルコトアリ雪ハ十月下旬ヨリ十一月初旬ニ降り始メ四月下旬ヨリ五月下旬ニ終ル積雪ハ大抵十一月中旬ニ始リ翌年一月二月ノ交ニ至リ土地ニヨリテ一尺乃至三尺ニ達シ四月中旬融解ス霧 本道東部特殊ノ現象ハ夏期ノ霧ナリ其原因ハ前ニ述ヘタルカ如ク潮流及ヒ風向ニ基ツキ毎年四月ニ始リ六七八ノ三ヶ月最モ頻繁ニシテ九月ニ至リテ終ル根室港ニ於ル濃霧日數ハ四月ニ七日五月ニ十一日六月ニ十九日七月ニ十七日八月ニ十七日九月ニ七日合計七十八日トス時トシテハ漂々咫尺ヲ辨セス點滴殆ント細雨ノ如キコトアリ頗ル冷濕ヲ極ム其太陽ノ光熱ヲ遮リ植物ノ生育ヲ妨ケ水産製造ノ乾燥ヲ惡クシ航海ノ通路ヲ閉塞スル等障害ヲナスコト少ナカラス此霧ハ根室半島最多シ該地ノ樹木ニサルオガセノ懸レル正ニ其冷濕ナルヲ證ス半島ヲ

越テ西北ニ進ムニ從ヒ漸次霧量減少シ千島帶山脉ヲ以テ其限界トナス
流水 毎歲冬期根室灣ハ流水ノ閉鎖スル所トナリ海濱濤聲ヲ絶テ船舶航行セス甚々寂寥ナ
 極ム根室港十五ク年間ノ觀測ニヨレハ流水ノ來ル早キハ一月二日、平均ハ一月中旬、其去ル遅キ
 ハ四月十九日、平均ハ三月末トス其間時々風向ニヨリテ移動ス本地ノ東岸ニ在テハ東北風東風
 ニヨリテ來リ南西風西風又ハ北西風ニヨリテ去ル根室半島ノ北岸ニ在テハ北風北西風ニヨリ
 テ來リ南風南西風ニヨリテ去ル南海岸ハ流水少ナク唯三四月頃北東ヨリ斷續流レ來ルノミ故
 ニ花咲港ハ流水ノ爲メ船舶ノ出入ヲ阻礙セラル、コト稀ナリ

動植物

動物 動物ハ本道ニ産スルモノ大抵此國ニ居ラサルナシ鹿ト赤熊トハ昔時數多棲息セシカ
 鹿ハ今日殆ント其影ヲ見ルコトナク熊ハ尙時々出没ス兎狸、狐、鼠、鷺、鳶、鳥、啄木鳥、シ、ウカラ、アオ
 シ、ホウジロ、鷓、鶉等ハ最モ能ク人目ニ觸ル、所ノモノナリ、鶴ハ秋冬ノ候標津川ノ上流蘆荻ノ地
 ニ數羽ノ遊フヲ見ルト云フ魚類中回游シ來ルハ鯨、鮭、主トシ鱒、鯉之レニ次ク常ニ近海ニ栖ム
 ハ鱈、大鰹、カスベ、鰹、鱈、カシカ、チカ、コマイ等トシ湖河ニ棲ムハ鮭、鱒、イトウ等トス介類ニハ海扇、北
 蹄貝等アリ

植物

高原ニハ樺木、檜ヲ始メトシ白楊、楓、黃蘗、刺楸、山櫻等混生シ又樺、松、蝦夷松、桂等ヲ交ル所
 アリオンチト附近及ヒ千島帶山脉並ニ其山麓ノ原野ニハ樺、松、蝦夷松、珙瑤樹等針葉樹ノ深林
 ナリ或ハ樺木、檜等ノ潤葉樹ニ混シテ蔚然繁茂シ當國建築材ノ供給地タリ河岸及ヒ其他ノ濕地
 ニハ一般ニ榆、樺、赤楊、柳等ヲ生ス笹ハ山野トモ最モ多ク叢生シ草類ニハ萩、茅、蕨、割寄奴、ヨブスマ

サウ、艾、ミソハキ、蘆等種々アリ海草ニテ最モ饒産スルハ花咲郡ノ昆布ナリ根室ニ於ケル植物季
 節左ノ如シ

- 野草ノ萌芽 五月上旬
- 潤葉樹ノ萌芽 五月中旬
- 原野山林ノ青色ヲ呈スル時 六月下旬
- 野草ノ最盛ニ生長スル時 七月下旬
- 楓ノ紅葉ヲ催ス期節 九月下旬
- 全山紅葉ヲ呈スル期節 十月中旬
- 潤葉樹ノ落葉スル期節 十月下旬

沿革

北海道ノ開拓ハ南西ヨリ北東ニ漸ス故ニ根室ハ北見ト共ニ遅ク開ケタリ舊記ヲ案スルニ元錄
 年間松前氏ノ聲教始テ根室ニ及ヒタルモノ、如シ當時船舶未タ根室ニ至ラスアイヌ等其出產ス
 ル所ノ貨物ヲ携ヘ霧多布ニ至リテ交易ス後納紗布場所ヲ置キ又改メテ根室場所トナス藩主ノ
 直隸地ニシテ請負人運上屋ヲ根室ニ建テ土人ト交易ヲナシ又漁業ヲ營ム安永年間飛彈屋久兵
 衛ナルモノ請負人トナル同七年露人ノツカマブニ來リ通商ヲ請フ寛政元年國後アイヌ請負人
 ノ處置宜シカラサルヲ怒リ亂ヲ作シ當國ノアイヌ之レニ黨ス松前藩兵ヲ遣ハシ討テ之ヲ平ク同
 年村山傳兵衛請負トナル露國漸次千島諸島ヲ併セ其版圖ヲ擴メントシ事急ナルヲ以テ寛政十
 一年幕府東蝦夷地ヲ收メテ之レカ措置ヲナス此年春幕吏富山保高、高橋一貫等官船政徳丸ニ駕

シ根室ニ來リ幕府ノ意大陳(一)アイヌヲ諭ス次テ松平信明根室ヨリ標津ヲ巡行シ知床岬ヲ測リテ歸ル是ニ於テ根室ハ東部ノ樞地トナリ野付ハ千島ニ航スル要津トナリ往來スルモノ稍々繁シ野付根室標津ノ三處ニ衙署ヲ設ケ又南部藩ヲシテ陣屋ヲ根室ニ設ケテ警衛セシム文化年間釧路國厚岸ニ通スル道路及ヒ北見國斜里ニ達スル道路ヲ開ク同七年高田屋嘉兵衛同十年材木屋七郎右衛門同十二年高田屋金兵衛相繼テ漁場ノ受負ヲナス金兵衛大ニ目梨ノ漁業ヲ擴張ス當時根室場所ノ漁業頗ル盛ナリシト云フ文政四年松前藩ノ管轄ニ復シ天保二年藤野喜兵衛同十年白鳥宇兵衛濱田兵四郎相承ケテ請負人トナリ嘉永二年復藤野喜兵衛ノ受負トナル今村垣淡路守日記其他二三ノ書ニヨリ安政初年ニ於ケル根室國內ノ概況ヲ記スレハ左ノ如シ

落石シユムシユムウシ昆布盛三處ニハ番屋及ヒ倉庫アリ當時其地ハ厚岸場所ニ屬ス
花咲ニハ番屋及ヒ倉庫七棟アリ此處ヨリ以下根室場所ニ屬ス

根室ハ東部第一ノ要地ニシテ根室場所會所松前藩勤番所ヲ始メトシ長屋一武器庫一倉庫二十一既三遠見番所一辨天社金比羅社稻荷社各一「アイヌ」戸數十一アリ鯨漁ヲ專ラトシ又蔬菜ヲ作り馬ヲ飼フ

コイトイエアツクシユトエド穂香幌茂尻ハ各々鯨ヲ漁シ番屋及ヒ倉庫アリ「アイヌ」人ハ穂香ニ十二戸幌茂尻ニ十一戸

遠太ハ鯨ヲ漁シ走古潭ハ鯨ヲ捕フ共ニ番屋倉庫アリ

厚別ハ厚岸ヘ通行スル道路ノ衝ニ當リ手廣キ通行屋一倉庫五稻荷小社一アリ又鯨ヲ漁シ畑ヲ開キ蔬菜ヲ作ル

西別ハ鯨ノ漁場ニシテ出張番屋二倉庫七稻荷小社一及ヒ献上鯨切庫アリ

別海ハ漁業西別ニ同シ殊ニ此地ノ鯨ハ品位最モ佳良ナリ番屋一献上鯨切庫一倉庫十稻荷小社二「アイヌ」戸數十六アリ

野付ハ鯨漁場ニシテ又國後ヘ渡ル要津タリ廣大ナル番屋アリテ妻ヲ伴ヘル番人常住ス倉庫五十八所々ニ持場アリ出張番屋ノ數十一ニ及フ七八年前鯨一萬石ヲ産セシカ其後收穫多カラス畑ヲ開キ蘿蔔其他種々ノ蔬菜ヲ作ルシヤムシユプト云ヘル所ニ國後島合圖ノ烽火臺ヲ設ク

茶志骨ハ鯨ヲ産ス番屋一倉庫七「アイヌ」家十四稻荷小社一アリ

ポニオイニハ標津出張番屋一倉庫四アリ鯨ヲ捕フ此地ハ追分ニテ左スレハ斜里道路ニ入り中割ト云ヘル所ニ宿泊所アリ

標津ハ鯨ヲ漁ス手廣キ番屋一倉庫二十一辨天社二「アイヌ」家二十二及ヒ國後出張番屋アリ

伊茶仁ニハ番屋一倉庫八「アイヌ」家五アリ漁業標津ニ同シ

目梨地方ハ專ラ鯨ヲ産ス忠類コタノカ、薰別、崎無異、ヨコマフ、タツカルウシ、チニシベツ、チドライ、ニハ番屋及ヒ倉庫アリ其内忠類、薰別、崎無異、ヨコマフ四所ニハ「アイヌ」五戸乃至十五戸アリ

安政二年箱館奉行ノ蝦夷地ヲ支配スルヤ仙臺藩ヲシテ陣屋ヲ根室ニ設ケテ警衛セシム同六年西別境以南ヲ臺仙藩ニ以北ヲ會津藩ニ賜フ仙臺藩ハ舊ニ依リ藤野喜兵衛ヲシテ漁場ヲ請負ハ

シメ會津藩ハ文久二年山寺權次吉川次郎助二人慶應元年山田左兵衛同三年駿河屋元三郎明治元年山田善吉ヲシテ相繼テ漁業ヲ營マシム明治二年開拓使出張所ヲ根室ニ置キ諸事漸ク面目ヲ改メ漁場請負人ノ名義ヲ廢シテ漁場持ト稱セシメ柳田藤吉等ニ根室花咲二郡ニ漁場ヲ新開スルヲ許シ農工諸民ヲ保護シテ移住セシメ又漁場持ニシテ人民ヲ移シ其業ニ就カシムルモアリ山田善吉標津野付目梨ノ漁場ヲ返納シ函館物産掛ノ管理トナシ次テ藤野喜兵衛ヲシテ之レヲ管理セシム初メ標津目梨二郡ヲ熊本藩次ニ仙臺藩ノ支配トナシ根室花咲野付三郡ヲ東京府ノ支配ト爲シタルコトアリシガ支配ノ時期短クシテ施設ノ觀ルヘキモノナシ明治五年根室支廳ヲ置キ全國其統轄ニ歸ス漁場持舊習ヲ固守シ廣大ナル場所ヲ專領シ他人ノ營業ヲ妨クル弊アルヲ以テ同九年漁場持ヲ廢シ都テ上地セシメ永住寄留ノ別ナク隨意ニ漁場ヲ出願セシム是ニ由テ漁業大ニ進歩シ各地漸ク土着ノ民ヲ増ス同十一年函館ノ廣業商會昆布採取資本ヲ貸與シ花咲郡ノ昆布業振興ス同十五年根室縣ヲ置カル、ヤ土木工事等アリ稍々景氣ヲ添フト雖モ收税ノ嚴行ニヨリ漁業者ハ一時困難ス同十九年北海道廳トナリ和田村屯田兵ノ移住アリ同二十一年水産税ノ輕減アリ翌二十二年鮭ノ大漁アリ鯨モ亦其頃ヨリ收獲ヲ加ヘ且日本昆布會社ノ設立アリテ昆布採取ノ業盛ナリ各地漁場益々増加シ形勢大ニ發達ス日清戰爭ノ起ルヤ一時障害ヲ受ケシト雖モ昆布業ノ外ハ忽チ恢復シ殊ニ近年雜漁ノ業起リテ小漁民ヲ増シ目梨郡ノ如キハ著シキ進歩ヲナス以上ハ唯根室國沿革ノ大要ヲ記スルノミ其他各一部ノ沿革ニ至リテハ後文各項ニ畧說スル所アルヘシ

郡町村及ヒ官衙

郡町村 明治二年八月始テ根室國ヲ置キ分テ花咲、根室、野付、標津、目梨五郡トナス同五年三月始テ村名ヲ定メ根室郡ハ根室、穗香、幌茂尻、厚別、西別ノ五村、花咲郡ハ花咲、友知、沖根、婦、瑤瑤、瑠ノ四村、野付郡ハ別海、平系、野付、茶志骨ノ四村、標津郡ハ標津、伊茶仁ノ二村、目梨郡ハ忠類、葦別、植別ノ三村トナス同八年根室ニ本町、花咲町、梅ヶ枝町ヲ設ク後漸ク増シテ十九町トナス新ニ根室郡ニ走古潭村、花咲郡ニ沖根邊、齒舞、婦羅理ノ三村、目梨郡ニ崎無異村ヲ設ク同十四年八月釧路國厚岸郡、落石、昆布盛二村ヲ割テ花咲郡ニ編入ス同二十一年根室郡ニ和田村ヲ設ク現今十九町二十六村アリ

官衙 各郡役所ハ根室市街ニアリ各町村戶長役場ノ所在地及ヒ其管區ハ左ノ如シ

戶長役場所在地	管轄町村名
郡役所	根室郡 根室市街(十九町) 根室村、穗香村、幌茂尻村
直轄	花咲郡 花咲村、友知村、沖根邊村、婦羅理村、齒舞村、瑤瑤瑠村
和田村	和布盛村、落石村
別海村	別海村、平系村、野付村
標津村	標津村、伊茶仁村
目梨郡	忠類村、葦別村、崎無異村、植別村

地方裁判所及ヒ區裁判所ハ根室市街ニアリ監獄署ハ根室村ニ在リ登記及ヒ浦役場ハ郡役所並

各戸長役場ニ併置ス警察ハ根室市街ニ本署ヲ置キ別海及ヒ標津ニ分署ヲ設ケ和田幌茂尻黨別ノ三所ニ駐在所ヲ置ク郵便電信局ハ根室別海標津ノ三所郵便局ハ落石良牛黨別ノ三所ニ在リ測候所ハ根室市街ニ設ク

運輸交通

海運 瑤瑤瑠水道ノ航路開ケテ和船ノ根室ニ通スルニ至リシハ寶曆四年ニ在リト云フ寛政十一年幕府ノ支配トナリシ以來航海ノ船舶漸ク増加シ根室港ハ其輻湊スル所トナリ野付ハ國後へ渡ル要津トナル開拓使ノ時官船ヲ以テ根室函館間ノ往復ヲナシ又根室港ヲ基點トシテ近海諸島ニ交通ヲナス是ニ於テ野付ヨリ國後へ渡ルノ航路自ラ廢ス明治十一年三菱會社函館根室間ノ定期航海ヲ開始ス廢使置縣ノ際官船ヲ廢シ近海ノ運輸頗ル不便ヲ極ムルヲ以テ同十六年官共同運輸會社ニ毎年金一萬二千圓ノ補助金ヲ下附シ常ニ漁船ヲ根室ニ碇繫シ國後其他諸島ノ航海ヲナシ又毎年一月ヨリ四月マテハ毎月二回函館花咲間ヲ航海セシム三菱運輸兩會社合併シテ郵船會社トナリシ後モ其航海舊ニ依ル又該社外ノ船舶ニシテ航海ヲナスモノ年々増加シ漁船ノ根室港ニ入ルモノ明治十三年ニハ五十餘艘同二十三年以後ハ每歲二百餘艘ニ達ス之レニ反シテ帆船ハ漸次減少シ明治十三年百餘艘ナリシカ同二十年以後百艘以下トナリ同二十八年ニハ唯一艘ノ入港アリシノミ此外和船ノ往來アリ明治二十八年根室港ニ入リタルモノ九百二十七艘トス

現今此國ノ輸出入ハ根室港ヲ本據トナシ遠キハ各府縣及ヒ函館ト取引シ近キハ國內及ヒ千島諸島ト交通ス而シテ海產物収獲ノ際ハ殊ニ漁船ヲ國內各海濱ニ廻航セシメテ直ニ貨物ヲ積入

シ又小廻リ船ハ常ニ根室港ト國內各海岸トノ間ヲ往復シ貨物ヲ漕運スルヲ以テ不便ヲ感スルコトナシ唯冬期ハ根室灣流水ノ閉ス所トナリ其海運ヲ絶ツヲ以テ根室港ノ輸出入ハ花咲港ニヨリ國內ノ運搬ハ悉ク陸路馬橋ヲ用フ

函館ヨリ花咲港ニ至ル二百八十海里函館ヨリ根室港ニ至ル二百九十五海里根室港ヨリ國後ノ泊港ニ至ル二十三海里網走ニ至ル百十五海里トス國內燈臺四ヶ所アリ落石花咲納紗布三岬及ヒ根室港ノ辨天島是ナリ

陸路 重要ナル陸路ハ西ハ釧路ニ連ル國道北西ハ北見ニ通スル縣道ナリ其釧路ニ連ルモノハ文化五年始テ開通シ釧路國厚岸ヨリ海岸ヲ離レ邊寒邊牛殘線別ヲ經テ當國ノ厚別ニ出テ更ニ分岐シテ根室及ヒ西別ニ至リシカ道路卑濕ノ地多ク且迂遠ナルヲ以テ明治十一年之ヲ廢シ根室ヨリ南海岸ヲ經テ釧路ニ至ル道路ヲ修造スルニ決シ現今ノ道路ヲ開ク此路線ニ沿ヒ根室港ヨリ釧路港ニ至ル三十九里札幌ニ至ル百五十四里トス其根室國ニ屬スル驛舎ハ根室落石初田牛ノ三處ニシテ一里ノ乘馬賃金九錢ナリ

北見ニ通スル道路ハ蓋シ文化七年斜里山道ノ開鑿ニ始ル標津ヨリ計根加及ヒ北見國涌生ヲ經テ斜里ニ至リシカ開拓使ノ時オンチト遠太ヲ經ル海岸道路ヲ開キ明治十八年以後瑠邊斯山道ヲ開鑿シ舊道路ヲ廢ス此路線ニヨリ根室港ヨリ斜里ニ至ル三十里餘網走ニ至ル四十里弱トス其根室國ニ屬スル驛舎ハ根室遠太別海春別標津系櫛別瑠邊斯ノ七處ニシテ一里ノ乘馬賃金平地ハ九錢山道ハ十錢トナス

國內重要ノ村落ハ大抵右二線路ニ沿ヘリ又根室ヨリ花咲港ニ至ル二里間根室港ヨリ友知ヲ經

ヲ稱瑤瑯ニ至ル六里間、伊茶仁ヨリ崎無異ニ至ル五里間ハ道路アリ近年長牛地方戸口増殖シ道路修築ノ必要ニ迫リ既ニ其測量ヲ了ヘタレハ遠カラス工事ニ着手セラル、ナラン然レトモ何レノ道路モ概テ植土ニシテ砂礫ヲ敷キ堅固ニ修築セサルヲ以テ雨天ノ際ハ泥濘膝ヲ没シ人馬ノ往來困難ヲ極ム蓋シ是レ獨リ根室國ノミニアラス北海道ノ道路皆然ルナリ

郵便電信 當國ノ郵便ハ明治八年ノ創設ニ係リ目下根室、落石、別海、標津、蘆別、長牛ノ六所ニアリ落石、長牛ノ外ハ皆爲替テ取扱フ郵便受取函ハ處々ニ備フ電信ハ明治二十三年根室標津間ニ架設シ根室、別海、標津三局ヲ設ク又同二十九年ヨリ花咲港ニ電信取扱所ヲ開キ冬期間電信ヲ取扱ハシム

戸口

移住 開拓使以前ニ在テハ舊土人ノ外漁場ノ支配人番人及ヒ官吏衛兵ノ交番在住シタルニ過キス其移住土着シタルハ明治二年以後ニ在リ其移ルヤ漸次ニ著シキモノ少ナシ明治二年開拓使判官松本十郎ノ根室ニ赴任スルヤ農夫職工百十五名ヲ東京函館等ニ募リ移住セシメシカ歸郷スル者アリ病死スル者アリ到底永住ノ見込ナキヲ以テ同四年十五名ノ外皆札幌及ヒ西部各地ニ移ス明治三年ヨリ漁場持藤野四郎兵衛柳田藤吉各々自費ヲ以テ渡島陸奥各地ノ民ヲ募リ移住セシム就中藤野ハ繼續シテ明治十年ニ至リ移ス所合計九十八戸二百九名ニ達ス根室縣ノ時廣島縣民渡航シ來リ幌茂尻村及ヒ根室附近ニ住ス明治十九年ヨリ同廿二年ニ至ルニ間屯田兵四百四十戸ヲ和田村ニ移ス其他殊ニ記スヘキモノナシト雖トモ開拓ノ氣運漁業ノ發達ニ從ヒ漁業者ハ勿論之レニ伴フ所ノ商工諸民次第ニ移住シテ今日ニ至ル其移民ハ大抵

奥羽諸州北陸諸國ノ者ニシテ一旦函館其他本道ノ南西部ニ移リ再ヒ當國ニ轉シタルモノ少ナカラス

戸口數 明治二十八年末調査ニヨレハ根室國現住戸數六千四百九十七、人口本籍一萬二千二百五十八、出寄留八百九十二、入寄留一萬五千八百九、現住二萬七千六百六十七、即チ本道現住人口ノ百分ノ四ニ當ル而シテ本道中本籍人ノ數現住人ノ半ニ達セサルハ唯根室國ト千島國トアルノミ蓋シ土着ノ心尙未ダ鞏固ナラサルモノ多キニヨル歟男女數ノ割合ハ本籍寄留ヲ併セ男百ニ對シ女七十九ナリ以上ノ現住戸口ハ官衙帳簿上ノ計算ナレトモ新開地ノ弊トシテ人ノ去來移轉少ナカラス其來リテ届出チナサ、ル者アリ其去ル者ニ至リテハ届出チ怠ル、一層甚シ又出稼人ニシテ殆ント永住ノ姿ヲナスモノアリ故ニ各地ニ就テ細ニ警査スレハ帳簿上ノ計算ト實際ト符合セサルモノ多シ

前ニ記スル現住人口ノ内「アイヌ」ノ數ハ僅ニ千分ノ十六ニ過キス之レヲ文化五年ノ數ニ比スレハ殆ンド其三分ノ一ナリ左ニ其減少ノ順序ヲ示ス

年 代	戸 數	人 員	男	女	備 考
文化五年	三三三	一、二一九	六〇六	六一三	東夷竊々夜話ニ據ル
文政五年	二五四	八九一	四四二	四四九	蝦夷雜書ニ據ル
安政元年	一四二	五八六	二九八	二八八	安政元年巡見記ニ據ル
明治五年	一二四	四七六	二四〇	二三六	開拓使調
明治二十八年	一一六	四三三	二二八	二二五	北海道廳調

是ニ由テ之ヲ觀レハ「アイヌ」ノ減少ハ實ニ急激ナリト謂フベシ蓋シ彼等ハ愚昧ニシテ常ニ劣敗ノ地位ニアルヲ以テナリ且年々雜種ヲ増加シ其數今ヤ「アイヌ」人ノ過半ヲ占メ純粹種ノモノ益々減少ス

職業別

職業別ノ調査ナキヲ以テ其詳細ヲ知ル能ハスト雖モ要スルニ當國民ハ直接間接ニ

皆水産ノ利ニヨリテ衣食スルヲ以テ漁業者ノ多キハ勿論ナリ其漁業者自ラ營業スルモノト漁夫トシテ雇役スルモノトアリテ雇役者ノ數殊ニ多シ而シテ此等漁業者ハ單ニ漁業ニノミ從事スルニアラスシテ或ハ自家用ノ蔬菜ヲ作り或ハ商業ヲ兼テ或ハ冬期伐木ヲナス等大抵多少副業ヲ營メリ又孰レカ本業ナルヤ殆ント區別シ難キモノアリ商業ハ産物ノ單純ニシテ日用品ハ概テ管外ヨリ輸出スルカ故ニ比較的發達スト雖モ其實權ハ根室港人ノ手ニ歸シ各地ニ散在スル商家ハ微々トシテ振ハス僅ニ雜貨ヲ小賣シ傍ラ他業ヲ營ムモノ多シ工業ハ殊ニ著シキモノナシト雖モ大工、木挽、鍛冶等數多アリテ其數殆ント商業者ニ匹敵セン農業ハ根室市街近傍及ヒ和田村ニ專業者アルノ外ハ大抵副業トシテ營ムニ過キス林業ハ概テ冬期ノ業ニ屬スルヲ以テ周歲之ヲ本業トスル者少ナシ其他船乘、運搬業等種々ノ職業者アレトモ殊ニ記スルニ足ラス

住民ノ配布 前ニ記スルカ如ク國民ノ大部ハ漁業ニ從事スルヲ以テ海岸ニ住居セサルヲ得ス又商工農諸民ハ漁業ニ伴フテ起リ該業ト密接シテ離ル、能ハサルカ故ニ是亦海岸ニ住シ特別ノ事情ヲ以テ移住セル和田村、屯田兵ノ如キモ亦海ヲ距ルト遠カラス而シテ國民ノ百分ノ八十三ハ根室市街ニ住シ百分ノ九ハ和田村、屯田兵ニ屬シ百分ノ五ハ標津市街ニ在リ殘ル所ノ百分ノ十三ハ他ノ廣キ海岸ニ散居ス是ニ由テ之ヲ觀レハ二三ノ地ヲ除クノ外ハ人烟寂寞ナル

漁業

カ如シト雖モ漁利ノ在ル所必ス漁舍アリテ番人之ニ住シ殊ニ漁期ハ出稼キ漁夫ノ各海岸ニ群ルヲ以テ大ニ其景氣ヲ添ヘリ故ニ始テ此海岸ヲ通行スル旅客ハ其意外ニ開ケタルニ驚カサルナシト云フ然トモ内部ノ廣原ニ至リテハ未ダ一人ノ移住者アラズ全ク禽獸ノ巢窟ニ委シテ一縷ノ炊烟タモ之ヲ見ルコト能ハサルナリ

來歴

當國漁業ノ來歴ハ沿革ノ部ニ於テ其大要ヲ知り得ヘシト雖モ尙少シク之ヲ補ハシ安

永ノ頃ニ在テハ主トシテ根室、穗香、幌茂、尻、西別等ニ於テ引網ヲ用ヒ鯨、鯨、鮭ノ三漁ヲ營ミタルモノ、如シ寛政ノ末ヨリ享和文化ノ頃ニ至リ野付、標津ニ漁場ヲ増加シ又花咲ニ於テモ已ニ昆布ヲ採取ス文化年間建網ヲ使用ス漁業大ニ進歩ス同八年根室場所ノ運上金五千五百兩以テ其漁獲ノ多キヲ知ルニ足ラン爾後收利年ヲ追テ減少シ文政五年運上金三千五百兩嘉永二年三千兩同六年二千五百兩トナル明治二年場所請負人ノ名義ヲ廢シ次テ漁場ノ新開ヲ出願スルモノハ之ヲ許可スト雖モ當時氣運未ダ熟セス漁場ノ管理ヲ再ヒ少數ナル有力者ニ委託セシヲ以テ各自廣大ナル場所ヲ占領シ其業ノ進マサル殆ント請負時代ニ異ナラス明治九年ノ大改革アルニ及ヒ人民隨意ニ漁場ノ新開ヲ出願スルヲ得テ各地漁業漸ク盛ナリ根室縣ノ時從來緩慢ナリシ收稅ヲ嚴行シ漁業者一時困難スト雖トモ亦漁業資本ヲ貸與シテ斯業ノ進歩ヲ助ケンコト少ナシトセス同二十一年ノ水産稅輕減翌二十二年ノ鮭豐漁及ヒ日本昆布會社ノ創立ハ大ニ漁場ノ新開ヲ促シ著シキ發達ヲナス且近年漁業漸次緻密ニ趣キ鱈、大鰯其外種々ノ漁業起リテ小漁民ヲ増加ス

現況 國民ハ皆直接間接ニ漁業ニ依リテ生活スルヲ以テ斯業ノ大切ナルハ言ヲ竣タス明治二十八年全國水産製品ノ惣價格ハ六十五萬餘圓ニシテ其重要ナルモノヲ舉グレハ左ノ如シ
 鯨 建網二百二十一統内就業百五十四統曳網百三十二統内就業五十一統ニシテ産スル所ヲ搾粕ニ製シ其額四萬六千四百六十六石價格二十九萬七千三百七圓ナリ根室郡總産額ノ十分ノ六チ占メ野付目梨二郡各々十分ノ二チ占ム標津花咲二郡ハ漁薄クシテ記スルニ足ラス差網ハ開拓使ノ時ヨリ之レヲ禁シテ今尙使用ヲ許サス
 鮭 建網二百六十八統内就業百九十一統曳網百五十六統内就業八十九統旋網七十二統内就業十八統ニシテ産額九千八百二十六石概テ鹽鮭トナシ又罐詰トナス總價格十六萬六千六百六十圓目梨郡殆ント其半ヲ産シ野付根室標津三郡之レニ次ク花咲郡ハ多カラス
 昆布 採取船七百四十艘内就業三百九十六艘ナリ日清戰爭ノ影響ヲ受ケ収獲價格共ニ減シタレトモ尙四萬三千四百一十石十萬六千三百四十五圓ヲ産シ二十九年ニ至リテハ殆ント舊ニ復スルノ模様アリ其產地ハ花咲郡トス
 鱈 建網百十八統内就業六十五統曳網二十二統内就業十二統ニシテ漁獲三千六百七十二石價格四萬七千五百三十九圓トス鹽鱈及ヒ罐詰ニ製ス其產地ハ略ホ鮭ニ均シ
 鱈 配繩ヲ以テ釣リ乾シテ棒鱈トナス産額千八百石價格一萬二千五百餘圓目梨郡ニ産ス花咲郡ニ於テモ漁獲スレトモ其額未ダ多カラス
 大鯿 配繩ヲ以テ釣リ概テ粕ニ製ス該搾粕二千二百十二石價格九千九百五十四圓專ラ目梨郡ニ産ス

鰈 花咲郡ヲ最トシ野付根室二郡之ニ次ク該搾粕二千九百九十一石價格一萬九百五十三圓トス

右ノ外鰹海鼠海扇北寄貝海蘿其他種々ノ魚介ヲ漁獲スレトモ其額未ダ多カラス其種類ニヨリ或ハ生ニテ販賣シ或ハ乾製シ又ハ粕ニ搾リテ輸出ス

普通ノ雜漁ニ在リテハ漁家自己ノ勞力ヲ以テ之レニ從事シ其業極テ簡易ナリト雖モ鱈大鯿ノ配繩昆布ノ採取ヨリ鯨鮭ノ建網ニ至リテハ其營業ノ組織頗ル複雜トナル因テ漁場主營業者資本主雇夫ニ區別シテ其概況ヲ説明セン

漁場主 海産干場ヲ所有シ水面ノ漁業權ヲ有スルモノヲ漁場主トナス根室國ニ於テハ漁場主ノ數他ノ地方ニ比シテ割合ニ少テシ藤野四郎兵衛ハ舊來ノ經歷ニヨリテ各郡ニ良好ナル數多ノ漁場ヲ有シ柳田藤吉佐藤久右衛門等十名内外ノ者之ニ次ク若シ此等有力者ノ所有スル所ヲ除クハ殘ル所ノ好漁場幾何モアルコトナシ而シテ此少數ノ漁場主ハ根室市街ニ住シ又ハ府縣ヨリ同處ニ出張シテ店舖ヲ置ク者ニシテ其他ノ漁業主ト雖トモ亦多クハ根室市街ニ住ス故ニ海岸到ル處漁場並列スト雖トモ土着ノ民ニシテ其地ニ漁場ヲ有スルモノ甚少シ財產ノ平均セサル甚シト謂フヘキナリ

營業者 漁場主ニシテ自ラ漁業ヲ營ムモノアリ又其漁場ヲ他人ニ貸スモノアリ而シテ借リテ營業スル者ヲ俗ニ代業者ト稱ス藤野四郎兵衛ノ如キハ其所有スル數多ノ漁場悉ク自ラ營業スト雖トモ其他ニハ貸借少カラス就中昆布場ノ貸借最多シ貸料ハ漁場ノ良否ニヨリテ二様ナラス又最良ノ場所ハ全ク之ヲ貸ス者ナキヲ以テ貸料ヲ知ル能ハスト雖トモ現ニ貸借

此場所ニ在リテハ鯉一統ニ付一漁期各々三四百圓ニ達スルモノアリ昆布場ハ胴海船一
 艘ニ要スル所普通一期間五十圓トナス
 資本主 當國漁業ヲ營ム者ノ内少數ナル有力者ヲ除クノ外ハ資本ニ乏シキヲ以テ之ヲ他ニ
 仰カサルヲ得ス鯉ノ建網ハ一統ニ付千圓乃至二千圓ヲ要シ昆布ハ胴海船一艘ニ付二百五
 十圓以上ヲ要シ鯉大鯉ノ配繩ノ如キモ亦相應ノ資本ナカル可ラス故ニ多クノ營業者ハ資本
 家ニ就テ之ヲ借ル其法ハ仕込ヲ第一トシ青田賣リ之ニ次ク仕込ハ或ハ現金ヲ以テシ或ハ物
 品ヲ以テシ一様ナラスト雖トモ多クハ漁夫ノ給料ヲ現金ニテ借リ米鹽楚繩ノ類ヲ物品ニテ
 借ル其利子ハ一ヶ月二分乃至三分ニシテ且三四ヶ月毎ニ躍リト稱スル重複ノ利子アリ現品
 ノ價モ亦一割位高キヲ常トス右資本主ハ大抵根室市街ニ住スル有力ナル漁業家又ハ商人ニ
 シテ一ケ年一萬圓以上ノ貸付ヲナスモノ七八名五千圓以上ノ貸付ヲナスモノ十名許アリ自
 己ノ資本ヲ運轉シ又ハ府縣ノ取引先キヨリ融通シ來リテ轉貸ス其他一二漁場ノ貸付ヲナス
 モノ少ナカラス

雇夫 鯉各建網一統ニ要スル所ノ漁夫ノ數ハ通常十五六名乃至二十五名昆布採取ハ胴海
 船一艘ニ付七八名鯉及ヒ大鯉ノ配繩ハ船一艘ニ付六七名ナリ故ニ國中要スル所ノ漁夫ハ實
 ニ夥多ニシテ二十八年總數一萬三千五百八十八名内南部津輕等管外ヨリ雇入ル、モノ六千
 八百九十八人トス漁夫ノ給料ハ近頃大ニ昂騰シ鯉ハ一漁期間食物ヲ供給スルノ外平均三十圓
 鯉昆布ノ漁夫ハ二十圓乃至三十圓ニシテ別ニ漁業ノ模様ニ準シテ多少ノ手當ヲ給ス有力ナ
 ル漁業者ニ在リテハ大概管外ヨリ雇入レ鯉漁ヨリ鯉昆布鯉ノ漁ニ連續シ春ヨリ秋ニ至ル迄

ノ給料凡四十圓トシ此他ニ旅費食物ヲ給シ且多クハ収獲高ノ一割ヲ配與ス又鯉及ヒ大鯉漁
 ハ或ハ給料ヲ以テシ或ハ歩方ト稱シ収獲ノ幾分ヲ分配ス茲ニ漁夫ニ關スル一大惡弊ハ其前
 金ヲ借リテ逃亡スルニ在リ此弊ハ函館其他本道各地ヨリ來ル漁夫ニ多ク年々其弊風ヲ增長
 シ二十九年最モ甚シカリシト云フ

漁業ノ前途

漁場ハ年ヲ逐テ増加シ漁法ハ漸次緻密ニ赴キ從來棄テ顧ミサリシ種々ノ魚
 介ヲモ捕獲シテ相應ノ利益ヲ得ルニ至リ一般ノ漁業ハ尙將來發達スヘキ傾向ヲ有ス然レトモ
 二三ノ漁業ニ就テハ大ニ憂慮スヘキモノアリ鯉ハ夙ニ減少シテ今日殆ント獨立ノ漁業トナス
 能ハス又當國ノ主要産物タル鯉モ亦鱒ト同様ノ運命ニ罹リ古昔ニ比スレハ著シク減少ス天明
 六年幕府ノ吏最上常矩カ西別ニ在リシ時一網ニテ大ナルモノト小ナルモノトヲ除キ其形ノ捕
 ヒタルモノ、ミ撰擇シテ九十七束千九百四十尾ヲ獲タリト云フ然ルニ今日ニ於テハ此ノ如キ
 大漁ハ夢ニモ視ル能ハス又薰別川ハ昔時鯉ノ産卵期ニハ親魚川ニ充テテ足ヲ踏ム能ハス棒ヲ
 以テ魚ヲ追ヒツ、涉リタリト云フ然ルニ明治二十八年該川人工孵化場ニテハ豫定ノ親魚ヲ獲
 ル能ハス僅ニ卵數四十萬四千粒ヲ發眼セシメタルノミ忠類川人工孵化場ニテハ全ク川ヲ遮リ
 溯上スル親魚ヲ悉ク捕獲スレトモ尙足ラス伊茶仁川ニ捕ヘテ其不足ヲ補ヒ僅ニ百萬餘粒ヲ孵
 化セシメ標津川人工孵化場モ亦親魚足ラス上下七里ノ間ニ於テ親魚ヲ漁獲スルト云フ斯ノ如
 ク親魚ノ川ニ溯上スルモノ減少スレハ從テ其産卵ヲ減シ繁殖ヲ妨ケ遂ニ一大物産ヲ失フニ至
 ルハ必然ニシテ數個ノ人工孵化場アリト雖トモ之ヲ救フ能ハサルハ明カナリ故ヲ以テ今日志
 アル者ハ數年間全ク鯉漁ヲ廢止シテ之カ恢復ヲ計ラント説クニ至ル然レトモ一般ノ漁業者ハ

目前ノ利ニ迷ヒ競テ漁具ヲ堅牢ニシ甚ダシキハ規約ニ背キテ不法ノ裝置ヲ爲シ海ニ河ニ苛酷ニ漁獲シテ毫モ顧ミス其前途大ニ憂フベキモノアリ

農業

來歴 昔時漁場ニ於テ少許ノ土地ヲ開キ蔬菜類ヲ作りシハ殆ント疑フ可ラサル事實ナリ天保年間藤野喜兵衛根室濱ニ畑五反歩ヲ墾シ蔬菜ヲ播シ能ク土地ニ適セシヲ以テ爾後年々播種ヲ怠ラス文政三年ノ調書ニ據レハ根室ニ於テ蘿蔔大角豆胡蘿蔔胡瓜蕪菁馬鈴薯(シユンキヤ)紫蘇ヲ作りシコトヲ記ス安政年間幕吏請負人ニ諭シ農作ヲ獎勵ス同五年藤野喜兵衛ノ支配人野付ノオンチニクルニ雜穀蔬菜二十七種ヲ播シ大麥小麥殊ニ豐熟シ金五十匹ヲ賞賜セラレ其他各通行屋等ニ於テ蔬菜ヲ作りシコト舊記及ヒ口碑ニ存ス開拓使ノ時ニ至リ各種穀菜ノ種子ヲ人民ニ配付シテ農事ヲ勸奨シ又明治七年根室郡萌樣穂香ニ試藝園ヲ設ケ穀菜菓木樹木ヲ栽培試験ス是ニ於テ宅地ノ近傍ヲ開墾シ耕作スルモノ稍々増加ス然レトモ皆是レ餘業トシテ僅少ノ畑ヲ作ルノミニテ專ラ之ニ從事スルモノアル無シ同十四五年頃ニ至リ始テ一二ノ專農アリ和田村屯田兵ノ移住スルニ及ヒ該地開墾ノ業俄ニ興リ根室市街ノ發達ニ伴フテ其近郊亦農家ヲ増ズ又漁業ノ豊凶定リナキヲ以テ傍ラ馬鈴薯蘿蔔等ヲ作り生活ノ安全ヲ計ルノ傾向ヲ生シ到ル處多少ノ耕地ヲ見サルナキニ至レリ然レトモ當國ノ風土普通ノ農作ニ適セス今ヤ蔬菜ヲ主トシ穀菽ハ漸次其作付ヲ減シテ殆ント絶望ノ域ニ達スルモノ、如シ

現況 明治二十八年既墾地合計千三百六十三町歩ト稱ス其内八百八十六町一反歩ハ和田村二百六十四町六反歩ハ根室村ニ在リ餘ノ二百十六町二反歩ハ各郡村ニ散在ス蓋シ斯ク既墾地

ノ和田根室二村ニ多キハ一ハ屯田兵ナルト一ハ根室市街ニ近接シテ農作物ノ販路アルトニヨル然レトモ和田村ノ如キハ一旦開墾シテ再ヒ荒蕪ニ委シタル地少カラサルヲ以テ今日實際耕作スル所ノ地積ハ之ヨリ少ナキコト明カナリ而シテ重モナル作物ハ蔬菜類ニシテ需要限リアルヲ以テ多クノ專農者ヲ要セス和田根室二村ノ外農ヲ本業トスルモノ寥寥數フルニ足ラス其他ハ皆副業トシテ自家用ノ蔬菜ヲ作ルノミ 蔬菜栽培ノ結果廣キ土地ヲ耕ス能ハス故ニ皆普通ノ鋤ヲ用ヒ未ダ「アラオ」「ハロー」ヲ使用セス農ヲ本業トナス者ト雖トモ一戸作ル所五六反歩乃至三四町歩ニシテ通常一町歩内外ナリ副業トシテ耕作スル者ニ至リテハ概テ地積狭小ニシテ甚ダシキハ一畝歩ニ足ラサルモノアリ 現今新墾スル所ノ土地ハ概テ樹木ヲ伐採シタル草原ナルヲ以テ之ヲ墾開スルコト容易ニシテ一反歩ニ付壯丁六七名ニテ足ル又之レヲ受負ハシムルモ一反歩ニ付三圓乃至三圓五十錢ナリ又根室市街附近ニ於テ未墾地ヲ小作人ニ貸與スルモノハ開墾料ヲ給セス唯三年乃至五ヶ年ノ鋤下年期ヲ與フルノミ既墾地ノ小作料ハ一反歩ニ付一ヶ年五十錢ヨリ一圓ニ至ル

農事期節

根室市街近傍ニ於ケル農作物ノ播種及ヒ收穫期節ハ大畧左ノ如シ

	播種期節	收穫期節
大麥	五月中旬旬	九月中旬旬
小麥	五月上旬旬	九月中旬旬
蕎麥	七月上旬旬	九月下旬旬

燕麥	粟	大豆	小豆	豌豆	大豆	蘿藦	馬鈴薯	午房	甘藍	蕪菁	胡瓜	南瓜
五月上旬	五月下旬	五月下旬	六月上旬	五月上旬	五月中旬	七月下旬	五月下旬ヨリ七月中旬	四月下旬	五月上旬	七月中旬	六月上旬	六月上旬
九月上旬	九月下旬	九月下旬	十月下旬	九月上旬	九月中旬	十月下旬	九月上旬ヨリ十月下旬	十一月上旬	十月ヨリ十一月	十月上旬	八月下旬	十月下旬

又標津村ニテ二三農家カ實驗ニ係ル播種收穫ノ期節ハ左ノ如シ

大麥	播種期節	收穫期節
四月中旬	八月下旬	

蕎麥	玉蜀黍	大豆	馬鈴薯	蘿蔔	甘藍
四月下旬	五月上旬ヨリ同下旬	五月	五月上旬ヨリ同下旬	七月二十日	四月下旬
八月上旬	九月上旬ヨリ同下旬	十月	九月下旬ヨリ十一月上旬	十月下旬	九月ヨリ十一月

農作物種類及ビ收穫 從來國內ニテ耕作セル所ノ農作物ノ種類作付反別及ヒ最近十ヶ年ノ平均收穫左ノ如シ

大麥 重モニ和田村ニテ作ル明治二十年頃ハ其反別七十四町步ナリシニ廿八年ニハ減シテ三十町步トナル一反歩ノ收穫五斗九升

小麥 重モニ和田村ニテ作ル明治二十二年ハ其反別百三十六町步ナリシテ漸ク減シテ二十八年ニハ僅ニ六町六反歩トナル一反歩ノ收穫六斗

裸麥 明治廿五年ニハ三十町步ニ作リシニ廿八年ニハ十一町三反歩トナル一反歩ノ收穫六斗

燕麥 廿七年作付百四十八町步廿八年作付二十四町七反歩一反歩ノ收穫一石二斗

蕎麥 明治二十一年ヨリ廿四年迄ハ七十町步乃至九十町步ヲ作リシニ廿八年ニハ減シテ五反歩トナル一反歩ノ收穫六斗六升

粟 明治二十五年ニハ二十町ナリシニ二十八年ニハ僅ニ六反歩トナル一反歩ノ収獲八斗
大豆 明治二十二年二十四町歩ナリシニ二十八年ニハ一町一反歩トナル一反歩ノ収獲三斗
四升

小豆 明治二十二年ニハ四町歩ナリシニ今ハ殆ント作ル者ナシ一反歩ノ収獲二斗

豌豆 明治二十八年作付五町六反歩一反歩ノ収獲六斗

扁豆 豆 明治二十五年二十九町歩ナリシニ二十八年ニハ十一町六反歩トナル一反歩ノ収
獲四斗四升

玉蜀黍 明治十九年三町歩餘ヲ作リタレトモ絶テ収獲ナシ根室半島ニハ成熟セサルモノ、
如シ近年別海標津等ニテ少シク作り稍々収獲アリ

大麻 明治二十三年頃八九十町歩ヲ作りシニ今ハ殆ント絶ヘタリ

亞麻 近頃試作スルモノアレトモ未タ其成績ヲ言フ能ハス

馬鈴薯 郡村到ル處之ヲ作ラサルナシ二十八年反別五十八町三反歩ト稱スト雖トモ實際ハ
之ヨリ多カラシ一反歩収獲六石

蘿蔔 各地到ル處耕作セサルナク馬鈴薯ト共ニ此國ノ重要作物タリ

胡蘿蔔 午房、甘藍、蕪菁、葱、胡瓜、南瓜等 皆之レヲ作ル

茄子 根室半島ニハ成熟セス別海標津等ニテ之ヲ作リシモノアリ少シク収獲アリト云フ

右ノ如ク適當作物少ナク概テ収獲多カラス品質亦劣レリ就中穀類ハ豊凶甚タ不定ニシテ凶
歲ニハ翌年ノ種子ヲモ獲ル能ハサルヲ以テ農家ハ之ヲ作リテ一家ノ生計ヲナスコト難シ唯蔬

菜ハ日常必要ノ品ニシテ殊ニ馬鈴薯蘿蔔ノ比較的善ク成熟スルヲ以テ一般ニ之ヲ耕作シ穀菽
ヲ作ル人少ナシ

農家經濟 特別ノ事情ヲ以テ移住セル和田村屯田兵ヲ除キ普通ノ農家ニ就テ略説セン農
家中ニハ最初ヨリ斯業ヲ目的トシテ移住シタルモノナキニアラスト雖トモ多クハ他業ヨリ轉
シタルモノニテ資本乏シク概テ先ツ假小屋ヲ造リ農隙ヲ以テ漸次修繕シ餘裕アルニ至リテ厩
屋ヲ建築ス開墾ハ前ニ述タルカ如ク容易ナリ耕作ノ法ハ極メテ集約的ナレトモ各戸作付地積
狹小ニシテ且主トシテ馬鈴薯蘿蔔ヲ作ルヲ以テ春期多忙ヲ極メス大抵短期間鰥漁場ニ出稼シ
テ生計ノ補ヒトナス多量ノ肥料ヲ要スト雖トモ近傍ノ市街部落ニ至レハ無料ニテ隨意ニ之ヲ
得ベク馬耕ヲナササルヲ以テ馬モ亦必スシモ要用ナラス斯クノ如キ有様ニテ農家ハ其經費
甚タ少ナキカ如シト雖トモ雜穀ヲ作ラサルノ結果米ヲ購求シテ常食トナサ、ルヲ得ス其米代
ハ實ニ農家支出ノ重要ナルモノナリ補食トシテ馬鈴薯ヲ用ヒ殊ニ冬期ハ之ヲ交ヘ食スルヲ例
トス通常一戸一町歩内外ヲ耕作シ稀ニハ一反歩ノ収獲二三十圓ニ達スルモノアレトモ平均自
家所用ヲ除キ販賣シテ得ル所一反歩十圓トシ一町歩ノ収入凡百圓トス此外漁業ノ手間取り等
多少ノ雜收入アリ以テ一家ノ生計ヲ維持ス今一二農家ニ就テ調査シタル收支計算ノ實例ヲ示
ス

根室郡根室村小作農 溝江 万次郎
明治二十四年農業ヲ以テ目的トナシ根室村ニ移住シ字西發足ノ土地ヲ借り開墾小作ス其地
根室市街ヲ距ル凡十町運搬便利ナレトモ地味膏腴ナラス各作物皆肥料ヲ施ス家族ハ万次郎

夫婦及ヒ子女三人合計五人ニシテ勞働者ハ万次郎夫婦ナリ耕作反別一町二反歩ニシテ明治二十九年作ル所蘿蔔七反五畝歩馬鈴薯三反歩其他ノ蔬菜類一反五畝歩トス今尙草葺小屋ニ假住シ質素ナル生活ヲナス其一ケ年内ノ收入支出概算左ノ如シ

收		入		支		出	
農作物販賣高	一一〇、〇〇	米十五俵	七一、二五				
但シ一反歩ニ付金十圓、一町二反歩ニテ前記ノ如シ		味噌三十貫	七、五〇				
鯨漁場出稼賃	一五、〇〇	石油半鐘	八〇				
但シ出稼凡二十日間ニシテ近年得ル所ノ賃錢平均前記ノ如シ		魚類	一、二〇				
		被服費	一五、〇〇				
		農具費	一、五〇				
		種子料	二、七〇				
		肥料其他運搬費	九、六〇				
		小作料	五、八〇				
		戸別割	三六				
		交際費	一、二〇				
		雜費	六、〇〇				
計	一三五、〇〇	計	一二〇、九一				

同人ノ語ル所ニ據レハ農業ハ收利多カラサレトモ堅固ナリ唯開墾ノ當初諸事意ノ如クナラス且家族多ク小兒間々病ニ罹リ醫藥ノ費ヲ要シタルヲ以テ未タ餘裕アルニ至ラス

標津郡標津村自作農 稗 貫 廣 心

明治二十三年農業ヲ以テ目的トシ當地ニ移住シ地ヲ標津川畔ニ相シ開墾シテ耕作ス其住居ハ柁屋ニシテ標津橋ノ傍便利ナル場所ニアリ耕地ハ之ヨリ溯ル凡半里ノ川畔ニテ地味沃壤ナリ最初雜穀ヲ目的トナシタレトモ凶歲ニ種子ヲ失ヒ今ハ蔬菜ヲ主トス蘿蔔ハ肥料ヲ用ヒ馬鈴薯ハ新墾地ニ作りテ施肥セス二十九年作付反別一町一反六畝歩家族ハ四人コテ勞働者ハ廣心ト六十三歳ナル父ト二人ナリ善ク農事ニ精勵ス其一ケ年ノ收入支出概算左ノ如シ

收		入		支		出	
農作物販賣高	一四五、〇〇	米十六俵半	八二、五〇				
但シ一反歩ニ付金十二圓五十錢、一町一反六畝歩ニテ前記ノ如シ		味噌三十貫	七、五〇				
鯨漁場出稼賃	一五、〇〇	醬油一樽	一、八〇				
但シ鯨漁多忙ノ際十五日間出稼		石油二鐘	三、二〇				
草鞋、ツマコ	一二五、〇〇	烟草十二玉	一、六八				
但シ冬期製造シテ販賣ス		菓子	三、六〇				
		家屋費	二、五〇				
計	一三五、〇〇	計	一二〇、九一				

家具費	五〇
被服費	二〇、〇〇
農具費	二、〇〇
種子料	三、〇〇
戸別割	一一、
交際費	三、〇〇
雜費	六、〇〇
計	一四七、四〇
計	一八五、〇〇

右ノ如キ計算ナレトモ明治二十六年百五十圓ニテ現在ノ家屋ヲ購ヒ即時金五十圓ヲ支拂ヒ
 殘百圓ヲ一ヶ年三割五分ノ利子附キニテ年賦支拂ヒテナシタルヲ以テ未タ貯金ヲナスニ至
 ラス

農作ノ前途 前ニ述ヘタルカ如ク根室國ハ其風土普通ノ農作ニ適セストハ該地一般ノ興
 論ニシテ今日耕作スル所ハ唯其地需用ノ蔬菜ヲ主トシ他ノ作物ニ至リテハ殆ント之ヲ顧ミス
 是レ從來ノ經驗之ヲ教ヘタルナリ果シテ斯クノ如クナラン歟蔬菜ノ需要ハ限リアリ將來發達
 ノ程度知ル可キノミ當國農作ノ前途決シテ望チ屬スルニ足ラサルナリ然レトモ其普通農作ニ
 適セストノ説未タ俄ニ首肯シ難キモノアリ何トナレバ從來經驗シタル農作地ハ重モニ根室半
 島ニシテ地味氣候共ニ最モ劣等ナリ次ハ各地海岸漁村ニシテ風害アル疲瘠ナル砂土ナリ加之

其農作者ハ此業ニ不熟練ナル士族ノ屯田兵及ヒ漁業等ヨリ轉シタルモノニシテ熟練熱心ナル
 者甚タ稀ナレハ未タ以テ根室全國普通農業ノ適否ヲ判定スルニ足ラス更ニ内部ノ廣野ニ入り
 テ視察スレハ其地味遙ニ從來ノ農作地ニ優リテ膏腴ナル處乏シカラス農作季節ノ氣候亦漸ク
 良好ニシテ今日ノ農作地ト同シカラス或ル農家ノ實驗シタル説ニ據レハ内部ノ原野ニ入レハ
 米ヲ除クノ外大抵ノ穀物成熟ス唯農家少ナキ現在ノ場合ニ於テハ凶歲ニ逢テ種子惡變スルモ
 容易ニ佳良ナル種子ヲ求ムルノ道ナク數多ノ禽獸ハ少許ノ畑場ニ群集シテ之ヲ害シ到底十分
 ノ收穫ヲ得ル能ハスト雖トモ若シ農家増殖セハ此等ノ障害ハ皆消滅スベシト此說頗ル味フベ
 シ現ニ原野ノ西端ニ接近スル釧路國標茶ニ於テハ年々雜穀ヲ播種シテ相應ノ收穫アルニアラ
 スヤ之ヲ要スルニ根室國ノ原野ハ最モ牧場ニ適當セルハ勿論ナリト雖トモ其内膏腴ノ地ハ普
 通ノ農耕地トナスヘキ望ナキニアラス釧路以西ノ原野悉ク開拓シタル曉ニハ根室國ノ原野亦
 處々麥浪ノ風ニ靡クヲ見ルニ至ルモ知ル可ラス單ニ從來一部ノ經驗ヲ以テ當國ノ全地皆穀菽
 ニ適セスト判定スルハ輕躁ノ嫌ナキニアラス姑ク記シテ疑ヲ存シ尙十分ノ研究ヲ竣ツ

牧畜

來歴 根室地方ニ馬アルハ蓋シ文化年間ニ始ル爾後官吏ノ往來ニ間々馬ヲ用ヒタルコト舊
 記ニ見ユ明治五年官馬ノ外人民ノ所有ニ係ルモノ根室郡百頭野付郡二十七頭標津郡三十頭ア
 リ同六年國後ヨリ官馬四十八頭同九年五十頭ヲ根室ニ移シ廉價ヲ以テ人民ニ斤賣シ又官馬ヲ
 驛遞ニ貸與ス明治十一年官根室ニ一大牧場ヲ設ケテ牛馬ノ改良蕃殖ヲ謀ル此等ニ原因シテ民
 間牛馬ヲ飼フモノ漸ク増加ス而シテ原野廣大到ル處隨意ニ放牧スルヲ得テ飼養甚タ容易ナル

ヲ以テ意外ニ蕃殖シテ多數トナリ殊ニ近頃牛馬ノ價格漸次騰貴セルヲ以テ之レカ改良ニ心ヲ傾クル者アルニ至レリ

現況 農作ノ不振ニ比シテハ牛馬ノ飼養甚タ盛ナリ明治二十八年ノ調査ニ據レハ馬ハ四千四百八十六頭ニシテ全道惣數ノ千分ノ八十五ヲ占メ牛ハ五百五十六頭ニシテ全道惣數ノ千分ノ九十三ヲ占ム馬所有者ノ數ハ詳カナラサレトモ少數ノ馬匹ヲ畜ヒ運搬乗用ニ使役スルモノヲ除キ一人二十頭以上ヲ有スルモノ數十人其内初田牛驛舍玉熊重吉ハ一人ニテ數百頭ヲ所有ス牛所有者ハ凡十名ニシテ山縣牧場ニテハ三百餘頭アリ馬ハ普通内國種ニシテ西洋種ハ僅ニ數頭雜種ハ數十頭ニ過キス牛ハ「シヨルトホーン」「アイシヤ」及ヒ内國種ナリ

牛馬數ノ多キニ比シ牧場ノ少ナキ亦驚クベシ現今四萬坪以上ノ牧場ハ唯五ヶ所アルノミ其内山縣牧場ハ幾多ノ來歴ヲ有シ地積九百萬餘坪牧柵ヲ繞ラシ場内ノ一部ヲ開墾シテ牧草燕麥等ノ飼料ヲ耕種シ周歲牧場内ニ飼養シ種類ノ撰擇管理ノ方法等ニ注意シ北海道中屈指ノ牧場ナレトモ他ノ四ヶ所ハ何レモ十萬坪以下ノ小牧場ニシテ規模狭小且未タ其事業ヲ成功セサルモノアリテ牛馬ハ概テ牧場外ニ放飼ス牧場ナキモノニ至リテハ官有原野ヲ以テ自然ノ牧場トナシ日常使役スルモノ、外ハ適宜放牧シテ唯其簡易ナルニ任セリ然レトモ近年漸ク牧畜ト農作トノ衝突ヲ増シ且根室半島ノ如キハ放牧スヘキ土地乏シク何レモ牧場ノ必要ヲ感シ土地ノ貸下ヲ希望スルニ至レリ唯彼等ノ中ニハ資産薄クシテ牧場ヲ完全ニ經營シ得ルノ望ナキモノ少ナカラサルニ似タリ

馬ヲ原野ニ放牧スレハ其老巧ナルモノ統領トナリ各自適宜ニ群ヲ成シ草ヲ尋テ水ヲ求メテ隨

意優游二里三里ノ奥ニ入ルト雖且離散スルノ憂ナシ故ニ之レカ所有者ハ時々見廻リ若クハ招集シテ點檢スルノミ當國第一ノ馬持ナル玉熊重吉ハ多年放牧セル結果漸次蕃殖シ數多ノ馬群ニ分レ瀾莖シテ其區域數里ノ廣キニ跨リ數年前調査シタル時ニハ凡五百頭アリシカ今ハ其現在ノ頭數ヲ知ラスト云フ冬期ハ或ハ雪少ナキ海岸ニ移シ或ハ每朝呼集メテ少許ノ刈草及ヒ水ヲ與ヘ或ハ衰弱甚タシキモノ、ミテ伴來リテ舍飼ス甚タシキハ嚴冬全ク放牧シテ顧ミス是ヲ以テ疲勞ノ餘春寒料峭ノ際大雪ニ逢ヒテ間々斃死スルヲ免レス交尾ハ自由ニ任セ胤馬ヲ撰擇シテ改良ヲ圖ル者ノ如キハ寥寥數フルニ足ラス從テ其體格概テ不良ニシテ駄馬ノ蕃殖ト云フニ過キス蓋シ從來其價格甚タ低廉ナルヲ以テ人々之カ改良ニ力ヲ盡サ、リシナリ然ルニ近時馬匹ノ價格漸ク騰貴シ從テ之カ改良ニ心ヲ傾クルモノアルニ至リシハ甚タ喜フヘキト謂フヘシ

從前馬ノ賣買ハ概テ國內ニ止マリ明治二十七年頃ハ一頭ノ價通常十圓内外ナリシニ日清戰爭ニヨリ馬匹ノ徵發アリ又本道西部開拓ノ進歩ニ從ヒ農馬ノ需要増加シ價格俄ニ騰貴シテ一頭二十圓許トナリ仲買人來リテ之ヲ購求シ二十八年ヨリ二十九年ニ跨リ凡三百頭ヲ西部ニ送ル其經路ハ常國ヨリ留邊斯山道ヲ超ヘ北見國ニ出テ中央道路ニヨリテ石狩國ニ入レリト云フ牛ハ馬ニ比スルハ其管理飼養稍々丁寧ニシテ普通牛ハ夏期放牧シ牧丁ヲシテ巡視セシメ冬期ハ舍飼シ刈草燕麥幹等ヲ給シ乳牛ハ周歲舍飼シ野草燕麥馬鈴薯等ヲ與フ交尾ハ乳牛ノ外皆自由ニ任ス其生育甚タ佳良ニシテ其肉量殆ント青森岩手諸縣ニ飼育スルモノニ倍スト云フ從來搾乳並ニ屠殺ニ供シテ相應ノ價格ヲ保テリ明治二十八年山縣牧場ヨリ東京へ輸出シタル乳牛

ハ平均一頭百二十五圓當地ニテ販賣セル屠牛ハ平均一頭三十五圓ナリ
 牧畜ノ前途 當國牧畜ノ現況ヲ觀レハ尙幼稚ナリト雖モ其前途ヲ察スレハ頗ル多望ナリ
 ト謂ハサルヲ得ス夫レ北海道ハ西方ヨリ開拓シ農作地ハ牧場ヲ追テ漸次東方ニ進メリ是レ其
 地味氣候ノ上ニ於テ自ラ然ラサルヲ得サルナリ然ラハ則チ今後ト雖モ亦當ニ此順序ヲ追フヘ
 キハ必然ニシテ其極根室國ハ最終ノ牧場タルヘキコト疑テ容レス尙之レヲ細説スレハ本道ノ
 西部ハ膏腴ナル低原多ク氣候亦暖カニシテ牧畜ヨリモ寧ロ農作ニ適シ東部ハ廣漠タル高原ニ
 富ミ氣候亦冷涼ニシテ農作ヨリモ寧ロ牧畜ニ利アリ本道ノ數所ニ於テ此業ニ從事シ今根室ニ
 在ル某氏ノ談話ニヨレハ此地牛馬ノ生育意外ニ良好ニシテ殊ニ夏期疲瘦スルコト少ナキハ風
 土ノ全ク牧畜ニ適スルニヨルト云フ而シテ西部ハ農家益々増加シ牛馬ノ需要益々増加シ其供
 給ヲ東部ニ仰クヘキヲ以テ販路自ラ廣マリ價格騰貴シ從テ之レカ改良蕃殖ニ盡力セハ根室國
 曠野ノ大部ハ好牧場トナリ牛馬嘶到ル處ニ相和シ遂ニ本邦ノ冀北トナルコト期シテ俟ツヘ
 シ既ニ近年數百頭ノ馬ヲ西部ニ輸出シ其所有者ヲシテ稍々改良ニ心ヲ用ルノ傾向ヲ生セシメ
 マルヲ以テ其形勢ノ一斑ヲ推察スルニ足ラン又府縣ハ牧畜ヲナスヘキ餘地乏シク牛馬ノ需要
 年ヲ追テ増加スヘキヲ以テ終ニハ之ヲ府縣ニ輸出スルモ相應ノ利益アラシ現ニ山縣牧場ニテ
 ハ乳牛數十頭ヲ東京ニ輸出シ高價ニ販賣シタルノ例アリ當國牧畜ノ前途多望ナリト謂フヘシ

製造

明治十一年官根室ニ漁鱈ヲ据付ケ魚粕製造ヲ試ム翌十二年其漁鱈ヲ利用シ木挽機械ヲ裝置ス
 魚粕製造ハ規模大ニ過キ收支相償ハサルヲ以テ三年ノ後之ヲ廢シ木挽所ハ同十九年拂下ケシ

ニ二十一年火災ニ罹リテ燒燼セリ明治十一年官雇米人アストリートヲ別海ニ派シ鐘詰所ヲ設
 ク同二十年藤野辰三郎ニ拂下ケ今尙其業ヲ繼續シ二十九年更ニ標津ニ鐘詰所ヲ設ク其外開拓
 使ノ時鮭薰製所製草所ノ設アリシガ其事業記スルニ足ラス
 今日根室國ニ於テ觀ルヘキ製造業ハ藤野鐘詰所トナス鱈鮭ヲ原料トナシ漁鱈ヲ用テ盛ソニ製
 造シ品質佳良聲價アリ次ハ山縣牧場ノ牛酪及ヒ煉乳ニシテ將來頗ル望ヲ屬スルニ足ル其外目
 梨郡各村ノ小船製造根室市街其他數所ノ清酒釀造根室市街ノ精米等アレトモ何レモ規模小ニ
 シテ其製造スル所ハ僅ニ國內ノ需用ニ供スルニ過キス

林業

來歴 古老ノ語ル所ニヨレハ開拓使以前ニ於テハ嚴ニ海岸ノ樹木ヲ伐採スルヲ禁シタリト
 云フ明治五年以來或ハ伐木許否ノ區域ヲ定メ或ハ濫伐及ヒ放火ヲ禁スト雖トモ移民ノ増殖ス
 ルニ從ヒ開拓ノ爲ニ伐採シ薪材建築材其他諸用ノ爲ニ濫伐シ且野火屢々行ハレ法令アリト雖
 トモ之ヲ嚴制スル能ハス又開拓使ノ時試藝園ニ於テ樹木ヲ栽培シタリシカ其成績ヲ觀ルニ至
 ラスシテ止メリ明治十九年根室縣事務引繼書ニ曰ク山林ニ害ヲ加フルハ野火ヨリ慘烈ナルハ
 ナシ本縣ニ於テハ其取締ノ方法未タ充分ナラズ云々ト亦以テ山林取締ノ困難ナルヲ知ルニ足
 ラン其後復々屢々野火アリ殊ニ二十年野付郡ニ於テ九千四百町歩ヲ燒キ二十二年根室郡ニ於
 テ二千町歩ヲ燒キタル等ハ最モ慘狀ヲ極メリ之ヲ要スルニ山林ハ年々荒廢スルノ傾アリ殊ニ
 根室半島ノ如キハ昔時針葉樹モ少ナカラサリシニ今ハ一良材ヲ得ル能ハサルニ至レリ

現況

建築材ハ根室郡オンチト西部及ヒ千島帶山脉附近ヨリ出タス其他ノ地ニハ良材甚

乏シク其供給ヲ此ニテ所ニ仰ク就中根室市街及ヒ別海ノ如キハ遠距離ノ間ヲ輸送セサルヲ得ス薪材ハ尙到ル處ニ多シ唯根室半島ハ欠乏ヲ告ケ根室市街ノ需要ハ概テ之ヲオノチト一湖風蓮湖ノ近傍ヨリ海路輸入シ他ノ諸村モ亦遠カラスシテ半島以西ニ仰カサル可ラサルニ至ラ

ン炭ハ厚別村平系村等ヨリ出タシ根室市街ノ需要ニ充ツ
樹木ノ伐採ハ此地重要ノ冬期業ナリ人民各自其需要ニ應シテ拂下ヲ受テ又ハ漁業者等ノ需要ヲ受負ヒテ伐採ス近年官大ニ拂下ヲ嚴シシ民間亦切ニ山林愛護ノ必要ヲ説クモノアリト雖モ一般ノ人民ハ甚ダ冷淡ニシテ幹ノミヲ採テ薪トナシ枝ハ捨テ顧ミサルカ如キ尙今日ノ常態ナ

明治二十九年當國ノ野火ハ十五回ニシテ千九百三十四町歩ヲ延焼シ用材五千百十四尺縮薪炭材五萬九千八百七十二棚及ヒ副産物ヲ損失シ其被害價格一萬二千百八十二圓トス

森林ノ前途 森林ノ前途ハ大ニ憂フヘキモノアリ僅少ノ居民カ僅少ノ年間ニ伐採シ並ニ野火ニ罹リタル形迹ハ今日人ヲシテ一見酸鼻セシムル者アリ根室半島ノ事ハ既ニ前ニ述ブ其外オノチト一附近ノ針葉樹モ手々著シク減少シ有名ナル目梨郡忠類藩別ノ官林モ今ヤ海岸ヨリ二里三里ノ奥ニ入ラサレハ良材ヲ得ル能ハサル景況トナレリ若シ既往ヲ以テ將來ヲ推セハ今後先ツ欠乏ヲ告グルハ建築材ニシテ次ニ薪炭ニ及ホシ價格騰貴シテ困難ヲ訴フルニ至ルコト必セリ樹木ノ減少スヘキ理由ヲ列擧スレバ左ノ如シ

一、山嶽ハ樹林ヲ永遠ニ保存スルニ最モ適スレトモ當國ニハ山嶽少ナキコト
二、一望平潤ノ原野ニシテ野火ノ慘害ヲ逞フシ易ク殊ニ樅松ノ如キ建築材ノ火ニ逢フテ枯

損シ易キコト

- 一、氣候冷涼ニシテ樹木ノ成長甚ダ遅緩ナルコト
 - 一、居民概テ目前ノ利ニ走リ森林ヲ愛護スルノ念薄キコト
 - 一、今後戸口ノ増殖スルニ從ヒ益々多量ノ樹木ヲ消費スルコト
 - 一、數多ノ漁場アリテ魚粕製造等ノ爲メ多クノ樹木ヲ要スルコト
 - 一、農牧ノ業進歩スルニ從ヒ原野ノ樹木ハ開拓ノ爲メ漸次伐採セララル、コト
- 開拓ノ業ト森林ノ保護ト相衝突スルハ今日免ル可ラサル勢ナリ然レトモ其衝突ヲ或ル程度ニ制限シテ其弊ヲ防キ豫メ完全ナル計畫ヲ立テ之レカ取締ヲ嚴ニシ永久必要ノ森林ヲ養護保存スルハ一大急務ト謂ハサルヲ得ズ

商業

來歴 開拓使ノ初期マテハ根室國ノ商業ハ専ラ漁場持ノ取扱フ所タリシニ其後戸口ノ増殖スルニ從ヒ漸次商店ヲ増シ根室市街ノ商人ハ輸出入品トモ皆函館ト取引シ各郡村ノ商人ハ又悉ク根室市街ノ商人ト取引セリ明治二十年頃ニ至ル迄ハ根室商人ノ基礎鞏固ナラス時々興廢アリテ其業觀ルニ足ラザリシカ爾後漸シ内外ニ向テ信用ヲ博シ從前函館商人ニ掌握セラレタル商權モ今ヤ當港人ノ手ニ收メ輸出輸入トモ其過半ハ直接ニ府縣ノ諸港ト取引ヲナスニ至レリ
現況 根室港ハ當國ハ勿論千島國後島ノ大部樺捉島ノ少部ノ中心市場ニシテ此各處ノ水産物ハ根室港ニ集リ又ハ同港商人ノ手ヲ經由シテ之ヲ府縣及ヒ函館ニ輸出ス而シテ其需要スル所ノ米穀吳服太物漁網繩筴等一切ノ諸物品ハ亦根室商人ノ手ヲ經テ府縣及ヒ函館ヨリ根室

港ニ輸入シテ更ニ各處ニ分配輸送セラルル明治二十八年根室花咲兩港ニ於ケル管外輸出品物價格七十七萬八千八百六十九圓管外輸入物品價格七十四萬四百四十二圓此外函館へ輸出シタルモノ凡二十二萬圓函館ヨリ輸入シタルモノ凡五十一萬圓トス根室市街ノ外ニハ有爲ノ商人ナク皆貨物ヲ根室ニ仰キ其地ニ於テ小賣ヲナスニ過キス

物價ハ近年府縣ト直接取引ヲナスノ結果大ニ低落シ目下根室港ニ於ケル米穀吳服太物ノ價格ハ函館ニ比シテ少許ノ差違ヲ見ルノミ其他ノ荒物類ニ至リテモ僅ニ一割内外高價ナルニ過キス根室港ヨリ野付標津目梨へ貨物ヲ送クルニハ船ヲ以テシ米一俵ノ運賃拾錢ノ割合ナレハ此各地モ亦甚ダ高直ナラス標津ニ於テハ根室港ニ比シ高キコト平均一割ナリト云フ唯冬期ハ航海杜絶シ運輸不便ナルヲ以テ一般ニ價格騰貴スルヲ常トス

金融ハ春鍊收獲ヨリ秋鍊終業ニ至ルマテノ間最モ圓滑ナリ是レ其收金ノ一般人民ノ手ニ配付セラル、ニヨルナリ次テ冬期需用品ノ購入、漁業資本ノ貸借頻繁トナリ翌年二月ヨリ四月ニ至ルノ間大ニ閉塞ス金利ハ一ヶ月ニ付二分乃至四分ニシテ小口ノ高利貸ニ至リテハ五分以上ニ至ルモノ珍ラシトセス

風俗民情

住民ハ各府縣人ノ集合ニシテ各種ノ風習相雜糅ス就中陸羽諸州及ヒ北陸道諸國ノ移民最モ多數ヲ占ムルヲ以テ此諸國ノ風習ヲ見ルコト多シ然レトモ純然タル故國風ヲ保守スルノ不便ナルヲ以テ互ニ融和混合シテ更ニ共通ノ風俗ヲ成ス故ニ津輕人ニシテ津輕言語ノミ使用スル者ナク南部人ニシテ南部風習ノミ固守スル者ナシ國民ノ多數ハ從來漁業ニヨリテ生活シ租家活

潑ニシテ冒險進取ノ氣象ニ富ムト雖トモ之ニ伴フノ弊ハ往々着實ノ風ヲ欠クニ在リ又當國ハ財産ノ分配甚ダ不平均ニシテ多數ノ人民ハ鞏固ナル資産ヲ有セサルヲ以テ永住土着ノ心確カラス已ニ失敗シテ國後擇捉北見等ニ赴キシモノ少ナカラス斯ノ如キ有様ナルヲ以テ其土ヲ愛スルノ念乏シキヲ免レス然レトモ近年戸口次第ニ増シ收利次第ニ減シ且漁業ノ豊凶定ラス間々凶漁ニ逢フテ困難シ漸次勤儉貯蓄ノ重ンスベキヲ悟リ從來棄テ顧ミザリシ魚介ヲ採取シ又漁業ノ傍ラ馬鈴薯蘿蔔ヲ耕作スル等稍々着實ノ計ヲナスニ至レリ

右ハ一般ノ情况ナレトモ更ニ各町村人民ノ特質ヲ舉クレハ根室市街人ハ機敏ニシテ善ク商業ニ従事シ又資産ノ裕ナルニヨリテ公共事業等稍々觀ルヘキモノアリ廣島縣團結移民及ヒ根室近郊ノ農民ハ質素ニシテ勤勉シ標津別海ノ如ク早ク開ケタル村邑ハ人氣稍々穩カナリ和田村屯田兵ハ生計困難ニシテ士氣振ハス花咲郡東部諸村ハ昆布ノ價格下落セルニヨリ疲弊シテ尙恢復セス

「アイヌ」ハ昔時頗ル樸直ニシテ場所受負人ノ爲メ苛酷ニ使役セラレ憫ムヘキ境遇ニ在リシカ開拓使以來彼等ハ自由ヲ得ルト共ニ和人ニ接スルコト繁ク漸次之ニ習ヒテ大ニ風俗ヲ改メ今ヤ衣食言語殆ント和人ニ異ナルコトナク別海村土人ノ外ハ悉ク普通ノ衽屋ヲ建テ、之ニ住シ復タ昔時ノ茅舎ヲ見ル能ハス然レトモ亦和人ヨリ惡風ヲ感染シ甚ダ狡猾トナリ全ク樸直ノ性ヲ失ヒ約束ヲ破リ虚言ヲ吐ク如キ毫モ意ニ介セス殊ニ酒ヲ嗜ミ勤怠定ラス貯蓄ノ念乏シキハ嘆スヘキノ至リナリ

町村經濟

町村費 現在ノ町村ハ其地域狹ク人口寡キカ爲メ全ク獨立シテ教育衛生土木等該町村公共ノ經濟ヲ維持スル能ハサルモノアリ又地域廣大ナルモ人口尙乏シキカ爲メ未タ獨立シテ其公共ノ經濟ヲ立ツル能ハサルモノアリ是ヲ以テ各町村適宜聯合シテ以テ公共ノ事ニ從ヒ其聯合十餘村ニ亘リ或ハ三郡ニ跨ルモノアルニ至ル其全ク獨立シテ一村ノ經濟ヲ維持スルハ唯和田村ノミ明治二十九年各町村費豫算左ノ如シ但シ圓位以下五拾六入

明治二十九年各町村費支出豫算

町村	根室市街		十九町聯合		根室郡種香		幌茂尻二村		根室郡根室村外三村 花咲郡花咲村外六村		和田村	
	經常費	臨時費	計	經常費	臨時費	計	經常費	臨時費	經常費	臨時費	計	計
會議費	五三	—	五三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
土木費	一、一九〇	—	一、一九〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
教育費	六、三〇三	六、〇七五	一、二、三七八	—	—	—	—	—	—	—	—	—
衛生費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
病院費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
村醫費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
警備費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
諸稅及負擔	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
公債費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
區町村費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
基本財産	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雜支出	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	一、〇〇七	九、一七七	一〇、一八四	—	—	—	—	—	—	—	—	—

町村	經常費	臨時費	計
野付郡別海村外二村	七	—	七
根室郡西別村外一村	—	—	—
標津郡日梨郡各村	—	—	—
野付郡茶志骨村	—	—	—
合計	七	—	七

明治二十九年各町村費收入豫算

町村	賦課		財產ヨリ生		雜收入		前年度繰越金		補助金		寄附金		借入金		合計	
	賦課	課	収入	生	収入	生	繰越金	前年度	補助金	生	寄附金	生	借入金	前年度	合計	
根室市街十九町	七、五三四	—	三、一三九	—	九、〇一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九、二二四	
穗香幌茂尻二村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四一六	
根室郡根室村外三村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六八	
花咲郡花咲村外六村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六八	
和田村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二、三五八	
野付郡別海村外二村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、〇五二	
根室郡西別村外一村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
標津郡日梨郡各村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
野付郡茶志骨村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	七、五三四	—	三、一三九	—	九、〇一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三〇、五五二	

右ノ表ニ據レハ根室市街ハ公共事業ノ種類金額共ニ多シト雖トモ其他ノ諸村ハ事業ノ種類並ニ金額甚タ少ナク其經濟ノ極テ簡易ナルヲ知ルヘシ是レ諸村ノ未タ十分發達セサルニ由ル概シテ言ヘハ費途ノ首位ヲ占ムルモノハ教育費ニシテ次ハ病院村醫其他衛生ニ關スル經費ナリ收入ハ町村民ニ賦課スルモノ比較的少ナク過半ハ基本財産ヨリ生スル收入其他諸收入ニ係ル基本財産 基本財産ハ町村經濟上最モ必要ナルモノニシテ之ヨリ生スル收入ハ町村費收入ノ要部ヲ占ムルコト前表ニ掲グルカ如シ其外日梨郡ニ在ル三個ノ私設小學校モ實ニ基本財

産ニヨリテ維持セラル明治二十九年四月ノ調査ニヨレハ基本財産額左ノ如シ但シ其土地ノ價格ハ實價ヨリ低シト知ルベシ坪及ヒ圓位以下ハ五拾六入

普通基本財産

土地坪數	建物坪數	公債證書	現金	其他物品價格	合計
根室市街 二四、四七三	一五、四二七		三、四八三	八三	一八、九九三
幌茂尻村 一、〇〇〇					二〇
厚別村 一、〇〇〇					二〇
沖根婦村 七〇〇					一四
齒舞村 七〇〇					一四
別海村 一、〇〇〇		三〇〇	一〇		四一〇
標津村伊茶仁村 三、二〇〇	一、六〇〇				三、三六〇
茶志骨村 一、二五〇	一、二六〇				一、三七六
目梨郡各村 一、二〇〇					一、二〇〇
薫別村 一、二〇〇					一、二〇〇
咲無異村 六〇〇					六〇〇

特別基本財産

目的	土地坪數	建物坪數	公債證書	現金	其他物品價格	合計
根室市街	二二〇、六七一	五、四七八		二、〇二二		二二九、七四七
同 病院	三三、八二五	三、八〇四				九、八三四
同 消防	六、〇三〇	三、〇四六			九五〇	一、二五〇
根室郡根室市街外四村			二、九〇〇	二〇九		三、一〇九
花咲郡花咲村外六村			八〇〇	八三		八八三
和田村落石村						五、四九四
昆布盛村			三、二〇〇	八五〇		三、一八八
和田村		一、四〇四				三、四三二
穂香村幌茂尻村	二、四二二	七〇五		七九〇		七六一
別海村	一、〇五〇	三七八	五〇〇	五五二		一、二八六
野付郡別海村外二村			七〇〇	六一		九五二
根室郡西別村外一村						
標津村伊茶仁村	一、五二〇	八二〇				
茶志骨村	四〇六	八八〇				
標別郡目梨郡各村			八五〇	一〇二		
野付郡茶志骨村						

前記基本財産ノ内最モ重要ナルハ土地ニシテ目下收入ノ多キハ海産干場ナリ尙其收入アル土地ハ各町村ノ部ニ記スル所アルヘシ

教育

當國ノ教育ハ明治七年根室ニ於テ學校ヲ私設シ官吏公務ノ餘暇ヲ以テ教授セシニ始マリ爾來漸次各地ニ設ク明治二十八年調査ニ據レハ學齡兒童ニ對スル修學兒童ノ數ハ百分ノ五十一ニシテ之ヲ全道修學兒童平均百分ノ四十九ニ比スレハ多キ方ナリ同年現在ノ學校表左ノ如シ

所在地	校名	創立年	男生徒	女生徒
根室市街	花咲高等尋常小學校	明治九年	三九〇人	一六一人
同	彌生尋常小學校	同	一八八	八九
幌茂尻村	幌茂尻尋常小學校	同	四二	一三
和田村	第一和田尋常小學校	同	八三	五二
同	第二和田尋常小學校	同	五三	一四
別海村	別海尋常小學校	同	三一	一八
標津村	標津尋常小學校	同	四四	三六
伊茶仁村	伊茶仁分校	同	二〇	九
根室市街	私立根室女子尋常小學校	同	—	九六
備考、和田村第一第二ノ小學校ハ廿九年合併シテ一校トナリ高等尋常二科ヲ並置ス				

右ノ外落石昆布盛花咲忠類燕別良牛ノ六ヶ處ニハ各々私設ノ小學校アリ有志者ノ寄附金又ハ村費ノ補助及ヒ授業料ニヨリテ教員ヲ雇ヒ若クハ僧侶ニ依托シテ兒童ヲ教育ス其外數所ニ昔時ノ所謂寺小屋ノ如キモノアリ周歲若クハ冬期間近傍ノ兒童ヲ集メテ讀書習字等ヲ教フ斯ノ如ク小學教育ハ普及セルカ如シト雖トモ仔細ニ觀察スレハ一般ニ教育ノ程度甚々低ク且花咲郡友知村以東六ヶ村ノ如キハ毫モ教育ニ關スル設備ナシ

前記ノ公立小學校ハ概テ相應ノ基本財産ヲ有スルヲ以テ之ヲ維持スル容易ナリ授業料ハ高等科六十錢尋常科五錢乃至二十錢トス幌茂尻別海二校ハ基本財産ヨリ生スル收入其經費ヲ支辨シテ餘リアルヲ以テ全ク授業料ヲ廢ス

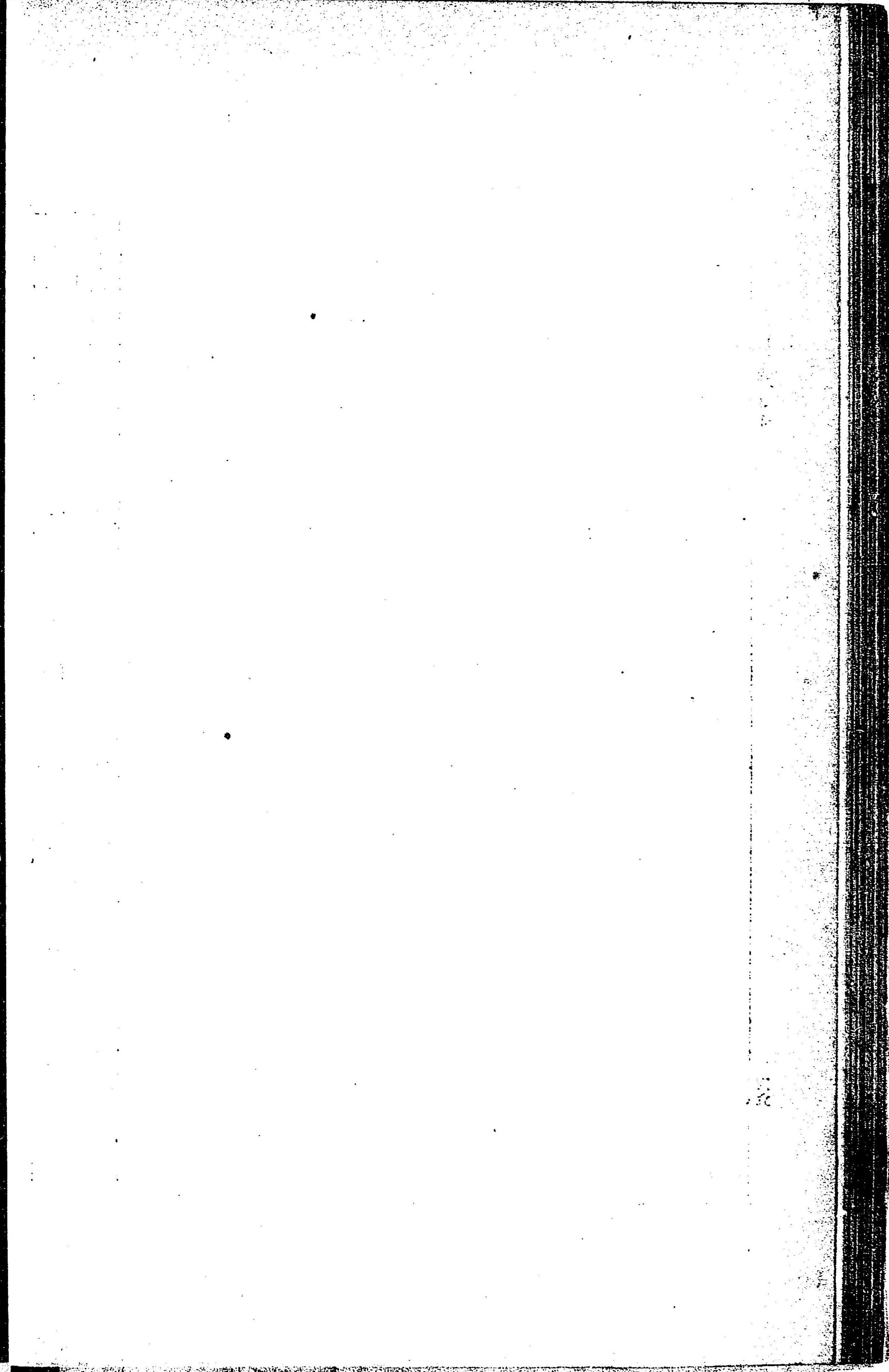
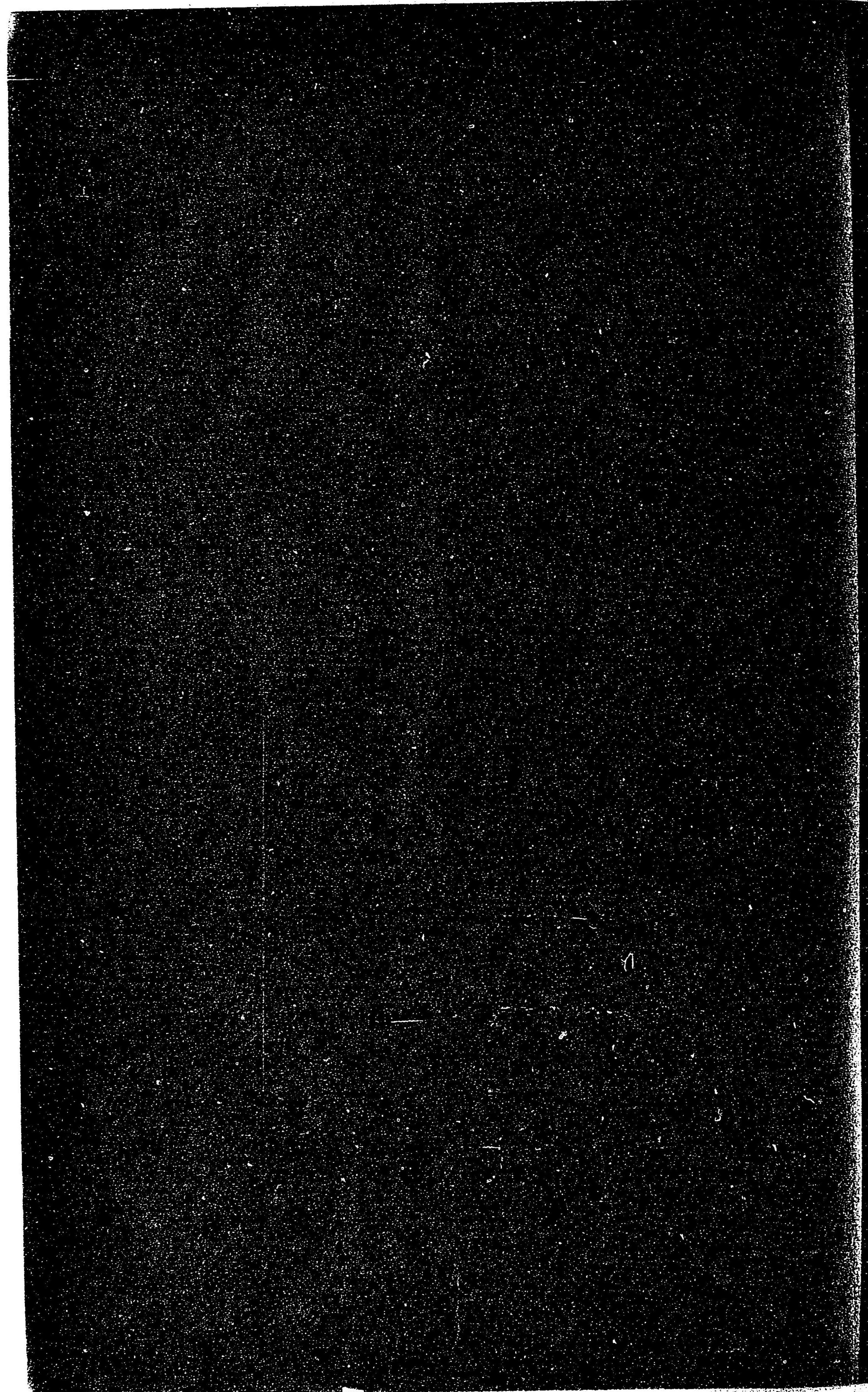
衛生

古昔南部藩及ヒ仙臺藩ノ根室ヲ警衛シタル時醫師ヲ伴ヒ來リタリト云フ明治二年十月官醫師二名ヲ東京ヨリ雇ヒ一名ヲ根室ニ置キ一名ヲ別海ニ派シ患者ヲ治療セシム同十三年標津日梨兩郡人民公立病院ヲ標津ニ設ケシニヨリ官醫一名ヲ遣ハス後悉ク官醫ヲ廢ス現今根室市街ニ公立病院一ヶ所開業醫七名別海標津燕別三ヶ所ニ村醫各々一名和田幌茂尻伊茶仁三ヶ所ニ開業醫各々一名アリ人口ノ割合ニヨレハ醫師ノ數敢テ少ナキニ非レトモ土地ノ廣キニ比スレハ醫員ハ尙欠乏セリ

流行病ハ元來多カラス明治十二年虎列拉病傳染シタレトモ死者僅ニ數名ニ過キヌ同二十五年二十六年天然痘流行死者八十餘名アリ根室市街ノ一部ニ腸窒扶斯病行ハルレトモ大害ヲナスニ至ラス風土病ハ花咲郡ノ離島ニ於テ出稼キ漁夫ノ水腫病ニ罹ルノ外未タ之アルヲ聞カズ

社寺

神社 文化年間高田屋嘉兵衛根室場所請負タリシ時漁業満足ノ爲メ運上屋ノ近傍ニ琴平神社ヲ建テ又辨天島ニ市杵島神社ヲ設ク是レ當國ニ神社アル嚆矢ナリト云フ現今琴平神社ハ郷社ニ列シ市杵島神社ハ村社トナル其外各地ニ氏神ト仰キ禮拜尊崇スル神社アレトモ社格未タ定マラス又各漁場ニハ大抵小祠ヲ祀リテ豊漁ヲ祈リ漁獲多キトキハ數旒ノ幟ヲ建テ、之ヲ祝



北海道殖民狀況報文根室國之部

後編

郡町村

北海道廳事業手

河野常吉調査

花咲郡

地理 花咲郡ハ根室國ノ南東海岸ニアリ西ハ釧路國厚岸郡ニ境シ北西ハ根室郡ニ接シ南及ヒ東ハ海ニ瀕ス地形狹長ニシテ東西十六里半南北狹キハ六里廣キハ二里ニ出入ス面積凡十方里アリ郡ノ過半ハ根室郡ノ一部ト腹背シテ根室半島ヲ成ス郡内友知村ノ一部ヲ除クノ外悉ク高原ニ屬シ其段階海ニ臨ミテ斷崖ヲナシ或ハ其傾稍々緩カニシテ草ヲ以テ掩ヒ其下ニ間々狹キ砂濱ヲ通ス處々小岬灣出入シ落石灣落石岬ボクキリセフ灣花咲灣花咲岬友知灣友知崎及ヒ納沙布崎アリ納沙布崎ハ北海道本地ノ東端ヲナスヲ以テ其名殊ニ著ハル屬島數多アリ南ニアルチ緩島小緩島友知島イソモシリ島等トシ東ニアルチ水晶島勇留島志發島多樂島等トス昆布森ト緩島トノ間ヲウリ、海峽ト云ヒ納沙布崎ト水晶島トノ間ヲ瑤瑤瑠水道ト云フ共ニ船舶ノ航路ニ當リ且此近海航行ノ困難ナルヲ以テ世ニ知ラル河流ハ皆細小ナレトモ高原ヲ侵蝕シテ谿谷ノ狀ヲナス湖沼數個亦悉ク小ナリ土性ハ埴土ニシテ薄ク壤土ヲ覆ヒ膏腴ナラス東部ニハ雨水停滯シテ濕洳ノ地多シ氣候ハ夏期濃霧屢々襲來シテ冷濕ヲ極メ冬期ハ温暖ニシテ海岸氷結スルコト少ナシ積雪ハ平均二尺ヲ超ヘス樹木ハ半島部ハ海岸悉ク伐採シ内部僅ニ檜樺木等ノ雜木ヲ存ス半島以西ハ其北境根室郡ノオンチト一米當賀ノ山林ニ連リ針葉樹闊葉樹共ニ多シ

ラン風土農作ニ適セス唯僅ニ自家用ノ蔬菜ヲ作ルノミ畑ノ周圍ニハ悉ク垣ヲ繞ラシ以テ馬ノ侵害ヲ防ク馬數ハ同年ノ統計ニヨレハ千四百八十六頭ナレトモ實際ノ數ハ之ヨリ多カラン一人ニテ數百頭ヲ有スル者アリト雖トモ皆林野ニ放牧シ之レカ改良ニ力ヲ盡サズ駄馬ノ繁殖ニ止マレリ

半島部ハ樹木既ニ欠乏シ數年ノ後ニ至ラハ半島以西ノ地ヨリ薪ヲ輸入セサル可ラス目下薪一棚ノ價一圓乃至一圓五拾錢ナレトモ之ヲ半島以西ニ仰カハ其價ハ倍加スルニ至ラン是レ居民ノ憂慮シ居ル所ナリ

昆布ハ明治二十六年迄ハ昆布會社ヘ賣却セシカ二十七以後ハ隨意ニ販賣ス然レトモ多クハ仕込ヲ受クルノ結果之ヲ仕込主ノ手ニ渡セリ日用品ハ根室市街ニテ購求シ又ハ仕込ヲ受ケテ各自駄送ス故ニ各村概チ一二ノ商家アレトモ其賣ル所ハ酒菓子其他僅少ノ雜貨ニ過キス

落石村

地理 西ハ釧路國厚岸郡後靜村ニ隣シ北ハ根室郡厚別村ニ境シ東ハ昆布盛村ニ接シ南ハ海ニ枕ム其南東殊ニ斗出シテ小半島ヲナシ半島ノ端ヲ落石岬トス西ニ落石灣アリ東ニボクキリセフ灣アリ落石ノ原名「オクチシ」ハ地首凹ミタル處ノ義蓋シ地形ニヨリテ名ツケシナリ村ノ西部ハ地勢北ニ向テ漸昇シ東部ハ中央隆起シ左右ニ漸降ス北ニオンチベツ川アリオンチト一湖ニ注ク

沿革 當村ハ原厚岸場所ニ屬シ番屋及ヒ倉庫アリ明治十一年道路新設ノ議決シ落石初田牛二郵便局(後初田牛郵便チ廢ス)ヲ置キ十二年落石驛十三年初田牛驛ヲ設ク十四年厚岸郡ヨリ分レテ花咲

郡ニ編入ス二十三年燈臺ヲ建設ス

運輸交通

落石驛ハ根室ヲ距ルヲ南西六里初田牛驛ハ落石驛ヲ距ルコト西方三里三十五町明治十九年道路ヲ修築セシ以來運搬ノ便可ナリト雖モ間々泥濘馬脚ヲ沒シテ往來困難ナリ兩驛共多數ノ驛馬ヲ備ヘ繼馬ノ便宜シ

戶口及ヒ部落

明治二十八年現住戶數三十七人口百六十六岩手秋田二縣ノ移民其過半ヲ占ム首要ノ部落ハ村ノ東部落石トス其他ハ海岸各處ニ散點ス初田牛ハ明治十一年青森縣人玉熊重吉ナルモノ一戶移住シ爾來驛遞ニ從事ス

生計

村民概チ漁業ニ依テ生活シ甚々貧窮ナルモノナシト雖モ亦餘裕アルモノ稀ナリ

漁業 村内ニ海産干場ヲ有スル者十八名内數名ハ根室市街ニ住ス干場面積ハ總計九町五反歩餘ニシテ一反歩ノ價平均四十圓トス產物ハ昆布ヲ主トシ鱈鮭鯨鯨等種々アリ或ハ之ヲ根室ニ送り或ハ漁船ニ由テ直ニ函館ニ輸出ス漁船ノ數ハ胴海十艘持符十一艘アリ明治二十八年產額左ノ如シ

種	類	石	數	單價	總價
				(百石付)	
鯨	搾粕		八二	七〇六	五七九
雜魚	搾粕		一五五	四八一	七四五
鹽	罇		四三〇	三五三	一、五一六
昆	布		一、六三二	二五〇	四、〇七九

鹽	計	七、八四三	七〇〇	一、一四九	八九六
干	計	二、三八一	四	七〇〇	二八

農作 農ヲ専ラトスルモノナシ僅ニ自家用ノ蔬菜ヲ栽培スルニ過キス

牧畜 村内馬數凡千二百頭アリ皆林野ニ放牧シテ費用ヲ要セス其交尾ノ如キモ自由ニ委

スルヲ以テ良馬ト稱スヘキモノ稀ナレトモ其蕃殖甚盛ナリ就中玉熊重吉ハ當國第一ノ馬持ニ

シテ數里ノ間ニ數百頭蔓延シ調査困難ニシテ自ラ其現在數ヲ知ラスト云フ

商業 小賣商二戸アリ需用品ハ概テ根室市街ニ仰グ

森林 當村ハ厚別村ノ山林ニ連リ樹林ニ富ム將來花咲郡半島部諸村ノ需用ハ重モニ當村ヨ

リ輸出スルニ至ラン

教育 落石ニ私設小學校アリ教師一名生徒十九名アリ低度ノ小學教育ヲナス

燈臺 落石岬ニ在リ第二等回轉白色ニシテ三十分時毎ニ一閃光ヲ發ス南五十四度三十分西

ヨリ南六十度三十分西マテ紅光ヲ以テ異ノ瀨ヲ示シ又北四十八度東ヨリ北七十度三十分東マ

テ紅光ヲ以テ昆布瀨ヲ示ス

昆布盛村

地理 南西ハ落石村ニ接シ北西ハ根室郡和田村ニ堺シ又オンチト一湖ニ臨ミ北東ハ花咲

村ニ隣シ南東ハ海ヲ隔テ、緩小緩ノ二島ト相對ス一小村ナリ北東ニチエブウシ沼アリ昆布盛

ノ原名ハ「コンブモイ」ニシテ灣ニ昆布多キヲ以テ名ツクト云フ

沿革 昔時番屋及ヒ倉庫アリ厚岸場所ニ屬ス明治十四年割テ花咲郡ニ合ス

戶口 明治廿八年現住戶數三十七人口百八十九南部及ヒ渡島國茅部地方ノ移民多數ヲ占ム

生計 村民擧テ漁業ニ從事スト雖トモ其獨立シテ業ヲ營ムモノハ僅ニ二戸ノミ餘ハ皆漁場

ヲ借リ資本ヲ他ニ仰ク然レトモ其生計ノ度ハ割合ニ宜シクシテ貧苦ニ迫ルモノ無シ農工商共

ニナシ蔬菜ハ餘業トシテ之ヲ作ルニ過キス

漁業 海産干場數十一ヶ所其面積七町步アリ一反歩ノ價平均四十五圓トス漁船ハ洞海十二

艘持符十七艘ナリ産物ハ昆布鮭ヲ最トス明治二十八年産スル所左ノ如シ

	石	數	單	價	總	價
鯨	榨	粕	一	五七三	六二	
雜	魚	榨	二〇	四四五	八九	
鹽	魚	鱈	五〇	三一八	一五九	
昆	布	一、九八〇	二五〇	四、九四九		
鹽	鮭	一八九	一、二六七	二、三九四		
干	鱈	一二	八〇〇	九六		
計					七、七五〇	

海濱ハ一月末ヨリ三月ニ至ルマテ結氷スルヲ以テ漁業ヲナス能ハス伐木ノ外適當ノ冬期業ナ

キヲ以テ村民概チ空シク手ヲ拱スルノミ

此地ニ昆布盛漁業組合事務所アリテ昆布盛落石二村ヲ管ス

森林 當村ハ樹林ニ富ミタレモ海岸ヨリ漸次伐採シ年ヲ逐テ薪木ノ欠乏ヲ告クルニ至レリ

教育 私設小學校アリ名ツケテ長盛ト云フ生徒僅ニ九名其經費ハ漁業組合ヨリ補助ス

花咲村

地理 西ハ昆布盛村ニ接シ北ハ根室郡和田村根室村ニ隣シ東ハ友知村ニ境シ南ハ海ニ面シ

テ緩小緩ノ二島ニ對ス小村ナリ花咲岬東方ニ斗出シ其西ニ花咲灣アリ灣ノ北岸ニ砂地アリ他

ハ皆高原ニ屬ス根室ニ比スレハ冬期暖カニシテ灣内根室港ノ如ク流水ノ爲ニ密閉セラル、コ

トナシ

沿革 昔時ヨリ漁場アリ文化年間色丹島ノ「アイヌ」ヲ此地ニ移シテ漁業ニ從事セシメ後之ヲ

穂香ニ移ス安政元年漁小屋二棟倉庫七棟アリ明治十二年船見改所ヲ置ク同十六年廣島縣人十

四戸移住ス此年共同運輸會社冬期間函館花咲間ノ航海ヲ開始ス同十八年一萬千九百餘圓ヲ以

テ埠頭ヲ築ク同二十三年燈臺ヲ建設ス追年雜漁ノ業興リ漸次戸口ヲ増ス

戸口 明治二十八年現在戸數三十三人口百六內男五十九女四十七トス灣ノ北岸砂地ニ部落

ヲナス明治十六年移住セル廣島縣人ハ其後離散シ今日存スルモノ僅ニ四戸ノミ

運輸交通 花咲港ハ根室港ノ副港トモ稱スヘキ地位ニ在リ風浪稍々穩カニ且流水ノ憂少

ナキヲ以テ根室港ノ航海杜絶スル間ハ船舶此處ニ來リテ旅客貨物ヲ出入セシム明治二十八年

管外輸入物品價格十一萬三千九百九十五圓管内輸入物品價格五萬三千百十四圓管外輸出物品

價格六千六百五十四圓管内輸出物品價格千四百四十一圓船客ノ數ハ出七十二人入五百三十六人トス此貨物旅客ハ皆當港ヲ經テ根室市街ニ出入ス當地ト根室トノ間ハ陸路二里ニシテ車馬ヲ通スルヲ得ヘシ明治廿九年十二月ヨリ電信取扱所ヲ設ケ毎歲冬期間通信ヲ取扱ハシムル豫定ナリト云フ

生計 村民ハ概チ漁業ニヨリテ生活シ冬期ハ短艇運搬等ニ從事ス周歲相應ノ業アルヲ以テ

極貧ノモノナク花咲郡中生計最モ容易ナリ概シテ冬期ハ入稼人ノ増加スルヲ常トス

漁業 著シキ海産物ナシト雖トモ鯨、昆布、鱈、鱈、北寄貝「アラコ」等種々ノ魚介海藻アリ製造

シテ輸出シ又ハ生ニテ根室市街ニ販賣ス明治二十八年水産製造品左ノ如シ

品目	産額	單價 (百石)	總價
鹽 鱈	一〇〇	三五	三五
鹽 鮭	一一	一、三〇五	二七四
昆 布	一〇五	二五〇	二六二
干 鱈	〇、四	九〇九	四
雜 魚	五	六〇〇	三〇
計			九二一

農業

農ヲ以テ本業トナスモノ二戸

商業

小賣商三戸アリ些少ノ物品ヲ賣買ス花咲港輸出入ノ貨物ハ皆根室商人ノ取扱フ所ナ

ルヲ以テ當村需要ノ品ハ却テ之ヲ根室市街ニ仰カサルヲ得ス
森林 村内樹木ハ既ニ伐盡シテ森林ヲ存セス薪炭ハ悉ク和田村ヨリ購求ス然レトモ和田村モ亦遠カラスシテ樹木ノ欠乏ヲ告グルハ明了ナルヲ以テ遂ニハ半島以西ヨリ輸入セサルヲ得サルニ至ラン

教育 明治二十九年私立小學校ヲ設ケ教員一名ヲ雇ヒ十餘名ノ兒童ヲ教育ス其經費ハ檢潮器檢測手當ノ一部ヲ其擔當者ヨリ寄附シテ之ヲ補助スト云フ
燈臺 花咲岬頭ニ建設ス不動白色燈ニシテ毎歲十一月ヨリ翌年三月マテ點燈ス

友知村

地理 西ハ花咲村ニ接シ北ハ根室郡根室村ニ境シ東ハ沖根婦村ニ隣シ南ハ海ニ瀕ス西ニ花咲岬アリ東ニ友知岬アリ其間緩カナル灣形ヲナシ灣ノ東部ニ友知地友知ノ二小嶼アリ村ノ中部ヨリ友知岬ノ西濱ニ至ル間ハ卑濕ノ低地ニシテオンチトイタマシトイナムブトイノ三沼アリ餘ハ高原地ナリ

沿革 明治二年佐渡ノ民高田惣五郎ナルモノ此地ニ土着シ昆布ヲ採取シ連年勉勵遂ニ部落ヲ成ス同十年頃ヨリ昆布ノ採取盛ンニシテ移住者ヲ増シ近年ニ至リ土着スル者多シ

戶口及ヒ部落 明治二十八年現住戶數五十三人口二百八十内男百六十九女百一トス重モナル居住地ハ東方ノ海岸字友知トシ次ハ西方ノ海岸字カンサラモイトス

運輸交通 根室市街ヲ距ル南東一里乃至一里半道路アリ運搬容易ナリ
生計 村民概テ昆布ノ採取ニ従事ス富裕ナル者ナシト雖トモ亦極貧ノ者ナシ花咲村ニ次キ

テ生計容易ナル方ナリ

漁業 昆布ヲ最トス鮭鱈鯨北寄貝等ヲ産スレトモ多カラス明治二十八年水産製品左ノ如シ

品目	産額	單價	總價
鯨 搾 粕	四四 _五	六七三	二九六 _四
雜 魚 搾 粕	六四	五〇二	三二一
鹽 鱈	一〇五	三五五	三七三
鹽 鮭	一三七	三五五	一、五〇七
昆 布	二、九六六	二四〇	七、二七〇
計			九、七六七

明治二十九年昆布採取船三十九艘アリ干場ハ根室市街入ノ所有ニ屬シ村民ノ之ヲ有スルハ僅ニ數名ノミ其他ハ代業者ナリ且一二名ノ外ハ悉ク仕込ヲ受クルヲ常トス干場ノ價ハ最下ハ殆ント價值ナク最高ハ一坪六七圓ニ達ス通常胴海船一艘ニ要スル干場賃料一ヶ年五十圓トス北寄貝ハ數年前茨城縣ノ漁民來リテ始テ採收シ二十八年ニハ之ニ従事スル船數凡二十艘ニ達セシカ濫獲ノ結果忽チ産額ヲ減スルニ至レリ

農作牧畜 村民概テ自家用ノ蔬菜ヲ作り過半ハ馬ヲ所有ス和泉庄藏ナルモノ八萬餘坪ノ牧場賃下ヲ得テ目下着手中ナリ

商業 小賣商三戸アリ日用品ハ皆根室市街ニ仰グ

沖根婦村

地理 西ハ友知村ニ隣シ北ハ根室村ニ境シ東ハ沖根邊村ニ接シ南ハ海ニ面ス小村ナリ高原ニシテ樹木ハ概テ斧斤ニ罹リ草原トナル海岸纔ニ砂地アリ是レ即チ昆布ノ干場ニシテ村民ハ皆砂地ノ近傍ニ住ス小川アリオケネベツト云フ此川名ヲ以テ村ニ名ツケリ

沿革及ヒ戸口 明治二十年頃ハ僅ニ數戸ニ過キサリシカ昆布會社ノ資金貸與以來移住者ヲ増シ明治二十八年ニハ現住戸數二十七人口九十七人アリ

運輸交通 根室市街ヲ距ル南東二里友知ヲ距ル東半里

生計 村民ハ昆布採取ヲ以テ業トナス其收穫豊カナラサルヲ以テ當郡各村中最モ貧困ナルモノ、如シ

漁業 明治二十八年昆布産額千六百四十四石此價二千七百八十三圓トス二十九年昆布採取船胴海二十八隻持符一隻ニテ胴海船一隻ノ收穫平均八十石内外ナリト云フ

農業 大抵蔬菜ヲ作リテ自家ノ用ニ供ス馬ノ所有者五人馬數二十五頭アリ

沖根邊村

地理 西ハ沖根婦村ニ接シ北ハ瑤瑤瑠村ニ境シ東ハ婦羅理村ニ隣シ南ハ海ニ枕ス小村ナリ小川アリオビチベツト云フ川尻大ナル川ノ義以テ村名トナス其他地理凡テ沖根婦村ニ似タリ

沿革及ヒ戸口 沿革モ亦沖根婦村ニ均シ明治二十八年現住戸數十五人口五十七南部地方ノ移民最モ多シ

運輸交通 根室市街ヲ距ル東南東二里半ニ在リ

生計 生業ハ昆布採取ヲ以テ主トス貧困ナル状態ヲナセリ

漁業 明治二十八年水産製品左ノ如シ

品目	産額	單價 (百石付)	總價
雜魚	一四	六四三	九〇
鹽	六〇	三五〇	二一〇
昆布	一、一〇七	二四五	二、七一五
鹽	二八	一、二四三	三四八
計			三、三六三

明治二十九年昆布採取船胴海十九隻持符三隻トス村民ニテ干場ヲ有スルハ三名ノミ

農業 蔬菜ハ每戸之ヲ作ル馬ハ所有者ナシ

製造 沃度製造所一ヶ所アリ昆布灰ヲ以テ「ヨチユーム」ヲ製ス

商業 小賣商一戸アリ

婦羅理村

地理 西ハ沖根邊村北ハ瑤瑤瑠村東ハ齒舞村ニ境ス小村ナリ南ハ海ニ瀕シ西ニ小岬斗出シ東ニ小島アリ其間灣ヲ成ス灣名ヲフラリモイト云フ臭氣灣ノ義蓋シ昆布腐リテ臭氣アルヲ以テナリ灣名ヲ以テ村ニ名ツク高原ニシテ樹木乏シ

戸口 明治二十八年現住戸數三十二人口九十三アリ灣ノ北西岸ナル砂地及ヒ之ニ接スル高

臺ニ住ス

生計 村民ハ昆布採取ニ從事ス生計ニ餘裕ナシト雖トモ甚タシク困スルニ至ラス

漁業 明治二十八年昆布産額千三百七十七石此價三千百二十八圓トス鱈海羅等アレトモ産額少ナシ二十九年昆布採取船胴海十八隻持符一隻ニシテ胴海船一隻ニ付凡百石ノ收穫アリ

齒舞村

地理 西ハ婦羅理村ニ接シ北東ハ瑠瑤瑠村ニ境シ南東ハ海ニ瀕ス小村ナリ高原ニシテ埴土及ヒ泥炭濕地ニ屬ス樹木ハ概テ伐採シ盡セリ海濱僅ニ砂地アリ居民又砂チ海岸ノ高臺地ニ敷キテ昆布ノ干場トナス

沿革及ヒ戸口 廣業會社ノ昆布採取資本ヲ貸與セシ以來移住者アリ日本昆布會社以來増加ス明治二十八年現住戸數三十一人口百三十八内男八十五女五十三トス其外出稼人ニシテ殆ント永住ノ姿チナス者數十名アリ村民ノ十分ノ四ハ岩手縣人トス

運輸交通 根室市街ヲ距ル東方四里半一駄ノ運賃金三十錢

生計 村民ハ昆布ニヨリテ生活ス鱈海羅等ヲ産スレトモ其量多カラズ生計ハ裕ナラスト雖トモ亦困難スルニ至ラス

漁業 明治二十八年産スル所昆布三千二百二十二石此價七千八百五十一圓雜魚搾粕五十三石此價三百十五圓外ニ若干ノ海羅ヲ産ス二十九年昆布採取船胴海三十八隻持符十一隻營業者二十名内十四名ハ干場ヲ借リテ營業ス又仕込ヲ受ケサルモノハ僅ニ數名ノミ平均收穫胴海船一隻ニ付百石餘持符船一隻ニ付凡五十石トス

農業 村民ノ十分ノ七ハ各自食用ノ蔬菜ヲ作ル又村民ノ三分ノ一ハ馬ヲ所有シ馬數百餘頭内十頭乃至四十頭ヲ有スルモノ三名アリ

商業 小賣商三戸アリ其價根室市街ニ比スレハ平均二割ヲ増スト云フ

風俗人情 沖根婦ヨリ瑠瑤瑠ニ至ル五村中ニ在テハ當村ハ人氣穩カナル方ナリ然レトモ未タ學校ナク寺社ナシ有志者之ヲ憂ヒ婦羅理齒舞瑠瑤瑠三村中兒童ヲ持テタル者等ヲシテ毎月金二十五錢ヲ醸出セシメ三年ノ後小學校ヲ設ケント計畫シ四十餘名ヲ結合セシガ僅カ三ヶ月ニシテ瓦解セリト云フ亦以テ此地方ノ人情ヲ察スルニ足ル

瑠瑤瑠村

地理 瑠瑤瑠村ハ花咲郡ノ東北端ニ位ス南ハ齒舞婦羅理沖根邊諸村ニ接シ西ハ根室村ニ隣シ北東ニ方海ニ枕ム高原ニシテ埴土及ヒ泥炭濕地ヨリナリ海岸樹木ナシ東端ヲ納沙布崎トシ其東ニ瑠瑤瑠水道アリ之ヲ隔テ、水晶アキロロ、勇留志發多樂等ノ嶋嶼アリ志發嶋最大ナリ俚俗之ヲ總稱シテ離嶋ト云フ

沿革 船舶ノ瑠瑤瑠水道ヲ通航シテ北ニ往來セシハ實曆四年以後ナリト云フ明治十年納沙布崎ニ燈臺ヲ設ク廣業會社昆布資本ヲ貸與セシ以來漸次移住者アリ昆布會社ノ資本ヲ貸スニ至リテ部落チナセリ

戸口及ヒ部落 明治二十八年現住戸數五十人口百九十五ト稱ス然レトモ周歲居住スルハ二十戸内外ニシテ餘ハ出稼ノ姿ナリ其部落ハ村ノ南部齒舞村ニ接シタル所ニ在リ其他ノ海岸ニハ干場ニ適スル砂地極テ乏シキヲ以テ數ヶ所ノ漁場アルノ外人ノ常住スルモノナシ又離嶋

ハ昆布及ヒ雜魚ヲ産シ夏期根室ヨリ數多ノ人出稼スレトモ冬期ハ僅ニ二三ノ番人ヲ置クニ過キス

運輸交通 宇瑤瑤瑠ハ根室市街ヲ距ル六里餘トス一駄ノ運賃三十五錢ナリ離嶋ノ交通ハ總テ根室ヨリノ船便ニ依ル

生計 村民ハ昆布採取及ヒ雜漁ニヨリテ生活ス生計ノ度ハ齒舞村ニ劣ル
漁業 明治二十八年ノ當村水産製品ハ左ノ如シ

地	名	産物	總價	備	考
	鯨	搾粕	五 _百		
	雜魚	搾粕	四八二		
	昆布		二五、八〇三		
	鹽	鮭	二八八		
	干	鱈	六		
	海	蘿	六		
	計		六九、七五七		

又之ヲ産地ニヨリテ區別スレハ左ノ如シ

地	名	産物	總價	備	考
瑤	瑤	瑤	一一、二九四	昆布一万三千三十四圓 鹽鮭千六百五圓	
水	品	嶋	一一、七六八	昆布一万一千五百六十八圓 及ヒ雜魚搾粕	
勇	留	嶋	八、三〇一	昆布七千四百三十圓、及ヒ雜魚搾粕、鹽鮭	
志	發	嶋	二〇、四五二	昆布一万八千五百五十二圓、鹽鮭千五百八圓及ヒ	
多	樂	嶋	一五、九四二	昆布一万五千八百五十四圓及ヒ	
	計		六九、七五七		

離嶋ヲ除キ瑤瑤瑠ニ於ケル二十九年昆布採取船ハ舩海五十隻持符十一隻營業者二十四名内村民ニテ干場ヲ所有スルハ唯一名ノミ代業者ハ十三名トス營業者ノ重モナルハ柳田藤吉七隻藤野四郎兵衛六隻ナリ離嶋ニ至リテハ悉ク根室市街ヨリ出稼ス

農業 土着者ハ概テ各自需要ノ蔬菜ヲ作ル馬ヲ所有スル者七名馬數二十一頭瑤瑤瑠原野ハ根室市街人ノ牛馬ヲ放牧スル所ニシテ數多ノ牛馬群ヲナシテ規律ナク奔走スルヲ見ル

商業 小賣商三戸皆漁業ヲ兼ヌ僅ニ昆布採取時期ニ當リ酒菓子等ヲ賣ルニ過キス

衛生 瑤瑤瑠ハ飲用水稍々可ナリ離嶋ハ水質頗ル不良ニテ出稼人ノ水腫病ニ罹ルモノ多シ

燈臺 近海ハ暗礁多ク且夏期屢々濃霧ノ鎖ス所トナリテ航海甚々危險ナリ明治四年暗礁標ヲ設置セシニ尋テ流失ス同五年納沙布崎ニ白色燈標ヲ築造シ同十年燈臺ニ改築ス第五等不動白色ニシテ別ニ霧鐘ヲ設ケ霧雪其他溟濛ナル天候ニハ一分時間十二度ノ割合ヲ以テ打鳴ス毎年二月中ハ全ク航海ナキヲ以テ點燈及ヒ鳴鐘セス

根室郡

地理 根室郡ハ南西ハ釧路國厚岸川上二郡ニ接シ南東ハ花咲郡ニ隣シ北ハ海ニ瀕シ又野付郡ニ境ス東西二十二里南北半里ヨリ七里ニ出入ス地積五十七方里アリ海岸線ノ長十三里十四町其中部南ニ窪ミテ灣ヲナシ灣底ニオンチト一湖アリ此湖ヲ以テ地理ヲ兩分ス其東部ハ根室半島ニ屬シ地勢氣候總テ花咲郡ニ均シク唯冬期花咲郡ヨリモ寒冷ニシテ沿海流水ノ閉鎖スル所トナル海岸小屈曲多クノツカマフ崎根室港辨天島等アリ昔時ハ樹林多カリシガ今ハ概テ伐採シ盡セリオンチト一以西ノ地ハ當國廣野ノ一部ニシテ殖民地撰定報文ニ所謂厚別風蓮ヤウシユベツ三原野ノ全部及ヒオチフナイ原野ノ半部ヲ含ム地勢概テ高原ニ屬シ米當賀風蓮オンチヤウシユベツ等ノ諸川西ヨリ東ニ流レ其水滙シテ風蓮湖トナル湖ト海トノ間ハ沙嘴ヲ以テ隔テト一バイエ遠太ノ二口ニヨリテ相通ス故ニ湖水鹹味ヲ帶ブ河川ノ沿岸ニハ平地ノ地アリ膏腴ナル壤土沮洳タル濕地相交ハルオンチト一ヨリ米戸賀ニ至ル邊ハ針葉樹ニ富ミ其他到ル處雜樹多シ氣候ハ半島部ニ比スレハ夏期稍々暖カニシテ霧漸ク減シ冬期ハ寒クシテ積雪稍々多シ

郡ヲ分テ十九町七村トナス其十九町ハ合シテ根室市街ヲ成シ根室和田穗香幌茂尻ノ四村ト共ニ根室半島ニ在リ厚別走古潭西別ノ三村ハオンチト一湖以西ニアリ

運輸交通 根室港ハ本道東部ノ要港ニシテ國內各地交通ノ便否ハ皆當港ヲ基トシテ計算スルヲ常トス郡内道路二條アリ一ハ當港ヨリ和田村ヲ經過シ一ハ海ニ沿テ他ノ諸村ヲ經過ス又海岸及ヒ風蓮湖内ニハ根室港ヨリ小船ノ往來便ナルヲ以テ内部ノ原野ニ住民ナキ今日ニ於

テハ運搬ノ不便ヲ感スルコトナシ

沿革 當郡ハ根室國中最早ク開ケ安永年間飛彈屋久兵衛請負ノ時已ニ根室穗香幌茂尻西別ニ於テ鯨鯨鮭ヲ漁獲セリ殊ニ根室ハ運上屋ノ所在地ニシテ當國ノ中心トナリ又寛政ノ末年ヨリ陣屋ヲ設ケテ警衛ヲ開拓使以來根室ハ政治産業商業等ニ於テ本道東部ノ中樞トナリ年々逐テ繁華ナル都會トナル從テ其近傍諸村モ亦發達シ根室縣ノ時廣嶋縣民移住シテ幌茂尻村ニ入リ北海道廳ノ初期屯田兵移住シテ和田村ヲナス且漁業ノ進歩ニ伴ヒ戸口増殖シ明治二十八年ニハ現住戸數五千五百八十一人口二萬二千四百四十一トナル尙總說沿革ノ部ヲ參照スベシ

重要産物 産物ノ重モナルハ鯨ニシテ郡ノ沿海到ル處ニ其漁場アリ一ケ年平均二萬八千石ヲ收穫ス鮭ハ西別川風蓮湖及ヒ其近海ニテ漁シ明治二十八年千六百六十四石ヲ産ス雜漁ハオンチト一附近ヲ主トス厚別村ハ木材薪炭ヲ出シ和田村根室村ハ蔬菜ヲ作り牧畜ハ山縣牧場殊ニ著名ナリ

概況 當郡ニハ都會アリ屯田兵村アリ團結移民アリアイヌ部落アリ其職業モ亦漁商農樵等一樣ナラス根室市街ハ繁華ナル都會ニシテ商業漁業其他諸般ノ事業ニ於テ殆ント國內ノ全權ヲ掌握シ富豪多シ根室村ハ漁ト農トヲ主トシ市街ニ隣接スルヲ以テ便宜アリ和田村ハ農業衰ヘテ漸次雜業者トナリ最モ貧究ナリ穗香村及ヒ幌茂尻村宇幌茂尻ハ素トアイヌ部落ニシテ之レニ烏合ノ移民ヲ交ヘ漁業ニ從事シ生計裕ナラス幌茂尻村廣嶋縣移民ハ漁業其他雜業ヲ營ミ勤儉ニシテ生計稍々裕ナリ厚別村ハ漁ト樵トヲ主トシ數箇ノ部落ニ分レ村況未タ發達セサレトモ原野廣漠且樹木ニ富ミ將來有望ノ地ナリ走古潭村ハ漁民ヨリ成リ西別村ハ唯漁舍ノミト

云フモ可ナリ之ヲ要スルニ郡ノ主要産物ハ魚類ニシテ海濱漁場並列スト雖モ其所有者及ヒ營業人ハ概テ根室市街人ニシテ各村ノ居民ハ單ニ漁業雇ヒトナリ又ハ各自雜漁ニ從事スルノミニテ其重モナル利益ハ皆根室市街ニ吸收セラル、ヲ以テ未タ富裕ナル有力者ヲ生スルニ至ラス然レトモ漁業ノ傍ラ伐木ヲナシ或ハ蔬菜ヲ作ル等種々ノ業アリ和田村ヲ除クノ外糊口ニ窮スルモノ稀ニシテ勤勉節儉ナル者ハ既ニ相應ノ資産ヲ蓄積スルヲ見ル

全郡既墾地千八百七十二町七反歩ト稱スレトモ其過半ハ荒廢ニ委シテ顧ミス是レ和田村ノ農業衰退セルニ由ル今日農ヲ本業トスルハ根室市街ノ近郊及ヒ和田村ノ一部ニシテ概テ蔬菜ヲ作リテ市街ニ販賣シ穀菽ヲ作ルモノ稀ナリ其他ハ皆自家用ノ蔬菜ヲ作ルノミニシテ大抵畑ノ周圍ニ柵ヲ設ク放馬ノ侵害ヲ防ク等花咲郡ニ均シ馬數ハ千八百二十二頭牛ハ四百九十八頭アレトモ山縣牧場ノ外ニハ牧場ト稱スヘキモノナク概テ遠隔セル地ニ送リテ放牧シ改良ニ力ヲ盡ス能ハス樹木ハ半島部ハ漸ク欠乏シ根室市街ノ需要ハ多クハ厚別村ヨリ出タス厚別村ハ建築用材並ニ薪材ニ富ミタレトモ濫伐ノ爲メ急速ニ減少スルモノ、如シ嘆スベキ哉

前ニ陳ルカ如ク當郡ハ各町村其情況ヲ異ニシ之ヲ概説スルコト難キヲ以テ餘ハ各町村ノ部ニ於テ之ヲ記セシ

根室市街

地理 北西ノ一方ハ海ニ瀕シ他ノ三方ハ根室村ノ包擁スル所トナル根室半島高原ノ北側ニ位シ東ニチムロベツ川中央ニコイドイエ川西ニハツタラ川アリ皆小流ナリ地勢高低一ナラス街路概テ坂ヲナス海岸ハ巖石多ク北東ニベニケウムイ岬斗出シ北ニ辨天嶋横ハリ其間港ヲナ

ス港口港内共ニ廣カラスト雖トモ波濤極テ穩カナリ根室ノ原名「ニムオロ」ハ樹木繁鬱ノ義ニテ昔時檜松等蔚然繁茂シタルニヨリテ名ツクト云フ

沿革

根室場所設置以來常ニ運上屋ヲ此地ニ置ク寛政元年國後「アイヌ」ノ亂後根室村字ノツカマツブ「アイヌ」ヲ此地ニ移シテ部落ヲナス幕府ノ蝦夷地ヲ管スルニ及ヒ前ニハ南部藩後ニハ仙臺藩其陣屋ヲ構テ警衛ス斯クノ如ク根室ハ要地タリシヲ以テ家屋倉庫其他建設物少ナカラス安政六年松浦竹四郎ノ巡回日誌ニ根室ハ東部第一繁昌ノ地ナリト記セリ然レトモ「アイヌ」ノ外ハ未タ永住ノ民アラズ明治二年開拓使出張所ヲ置キシ以來官募保護移民漁場持自資移民及ヒ單獨自費移民アリ次第ニ人烟繁殖ス因テ同七年市街區畫改正ノ議ヲ決シ翌八年始テ本町花咲町梅枝町ノ名ヲ命シ市街ヲ豎六十間横二十八間ニ區畫シ每區二十戸トナシ每戸宅地八十坪ト定ム同九年字コイドイエ鯨漁場ヲ藤野喜兵衛ヨリ上地セシメテ市街ヲ擴ム次テ新ニ鳴海有磯松枝彌榮常盤綠ノ六町ヲ設ク同十年彌生町ヲ設ク漁場大改革以後各地漁業ノ進歩ニ伴ヒ市況發達ス同十三年港内築地ノ舉アルヤ恰モ函館大火ノ後ニテ該地ヨリ移住スルモノ多ク戸口頓ニ倍蕪ス根室縣ノ時諸官衙ノ建築工事等アリ又漸ク繁榮ス十八年市街ノ區域ヲ擴メ清隆平内定基松本光和ノ五町ヲ設ク十九年根室別ヲ分割シテ千嶋琴平ノ二町ヲ置ク同年縣ノ廢セラレ、ヤ一時稍々衰況ヲ呈スト雖トモ忽チ恢復シ同二十一年根室別ヲ裂キ辨天汐見ノ二町ヲ設ク全市街十九町ト爲ル爾後年々戸口増殖シテ繁華ナル都會トナレリ

戸口 明治二十八年現住戸數四千五百七十八人口本籍六千四百四十出寄留七百五十七入寄留一萬一千九百七差引キ現住一萬七千五百九十トス男ト女トノ割合ハ五ト四トノ如シ右ノ内無

届ニテ他方ニ移轉セル者少ナカラサルヲ以テ實際當市街ニ住スルハ旅客及ヒ出稼人ヲ除キ凡一萬人内外ナラント云フ明治二十九年六月根室警察署ノ調査ニ據レハ住民ノ職業別ハ大略左ノ如シ

職 業	戸 數
官 吏	九四
農 業	二八
漁 業	二二七
商 業	四三五
工 業	四七一
鍛 冶 屋	一九
辨 護 士	五
代 書 人	一一
醫 師	八
產 婆	四
藥 店 藥 劑 師	五
鍼 灸 按 摩	六

筵 卜	四
古 物 商	八二
質 屋	一七
銃 砲 商	一
火 藥 商	一
屠 肉 販 賣	一三
牛 乳 搾 取 業	四
料 理 屋 飲 食 店	八四
貸 座 敷	一一
藝 妓	一一
娼 妓	六九
遊 藝	二
宿 屋	一一
雇 入 口 入	二〇
雇 業	五二五
湯 屋	一三
人 力 車	三

人力車挽	一〇
船乘	八五
通船	二
通船船夫	四
備考	右戸數ハ一營業ヲ以テ一戸トナス

是ニ由テ之ヲ觀レハ住民中最モ多數ヲ占ムルハ被雇業者ニシテ商業工業漁業ノ諸民之レニ次
 ヲ其内資産アリ勢力アルハ商業者漁業ノ中ニ在リ

住民ハ各府縣ヨリ集合シタル者ニシテ奥羽地方及ヒ北陸道諸國ノ人殊ニ多シ就中最モ多數ヲ
 占ムルハ石川縣人最モ勢力ヲ有スルハ南部人トス

市街 市街ハ十九町ヨリ成リ北海道都會中函館小樽札幌ニ次キテ第四位ニ居ル就中本町花
 咲町ハ最モ樞要ノ場所ニ在リ大買豪商檐ヲ駢ヘ頗ル繁華ナリ郡役所警察署地方裁判所區裁判
 所郵便電信局憲兵屯署測候所日本銀行出張所第二十銀行出張所郵船會社支店漁業組合事務所
 及ヒ學校病院神社佛寺等市街ノ各處ニ散在シ海產物米穀荒物類吳服物ノ諸商店廻漕店旅人宿
 料理屋ノ類悉ク整備ス蓋シ此地ハ根室全國及ヒ千嶋國大部ノ中心トシテ諸官衙ハ當市街ニ在
 リテ各地ヲ統轄シ水産業ハ概テ當市街人ノ掌裡ニ歸シ輸出入ノ貨物皆當港ヲ經ルヲ以テ其般
 賑ヲ致スナリ

運輸交通

根室港ハ狹隘ニシテ數隻ノ汽船ヲ容ル、ニ過キスト雖トモ極テ安全ニ碇繫ス

ルヲ得ヘシ明治五年辨天島ニ燈竿ヲ設ク其光六海里ニ達シ每歲二月ヲ除クノ外常ニ點燈シテ
 船舶ニ便ス同十三年藤野喜兵衛外五名自費凡四万圓ヲ以テ荷物積卸且倉庫建築ノ爲メ港内左
 方ノ海岸ヨリ八十餘間ノ築出ヲナサント出願シ其工事ニ着手シニテ年ノ後中止セシニ同
 二十六年再ヒ經費凡六萬圓ノ豫算ヲ以テ起工シ今尙工事中ナリ
 當港ハ實ニ根室國輸出入ノ咽喉タリ開拓使ノ頃ニ在テハ其附屬船ヲ以テ函館ヲ始メ千島諸嶋
 及ヒ北見國東部ノ航海ヲナシ次テ三菱會社共同運輸會社ノ船舶航海ヲ開キ又社外船ノ往來漸
 次増加シ明治二十三年頃ヨリ頗ニ船數ヲ加ヘ運賃ノ低減ヲ來セリ目下重要ナル航海線路ハ函
 館トノ間ニシテ府縣諸港ト直接取引ノ貨物モ大抵函館ニ於テ積換ヘテナス數年來東京橫濱ヨ
 リ根室ヘ數回ノ直航ヲ試ミシカ若シ好結果ヲ得ハ大ニ利便ナラン又近海ノ航海ハ當港ヲ以テ
 基點トナシ國後島其他諸嶋ヘ時々漁船ノ往復アリ北見國網走及紋別ヘハ毎月平均一回郵船會
 社船ノ航海アリ當國各海岸トノ間ニハ日本形船ノ往來頻繁ナリ明治二十八年入港ノ商船左ノ
 如シ但シ出港ノ船舶亦之ニ同シ

船形	種類	船數	積載量
日本形船	五百石未満	九二七	一〇一、四九九
西洋形船	蒸氣	一一二	一一一、二四三
	風帆	一	九〇

運賃ハ米百石ヲ輸入スルニ新潟秋田ヨリ當港マテ六十五圓函館ヨリ當港マテ四十圓又鍊榨粕

百石ヲ輸出スルニ四月市東京マテ凡百圓函館マテ凡六十圓トス旅客ノ乘船賃ハ函館ヨリ當港マテ上等八圓七十五錢下等三圓五十錢當港ヨリ國後嶋泊港マテ上等二圓五十錢下等一圓紗那マテ上等七圓五十錢下等三圓網走マテ上等六圓二十五錢下等二圓五十錢ナリ

商業 開拓使ノ初期ニ在リテハ當地ノ商品ハ専ラ漁場持ノ取扱ニ係リ藤野喜兵衛ノ商店ニ於テ米穀吳服荒物ヲ販賣ス明治十二年頃ヨリ漸次商店ヲ開クモノアリシカ商業ノ盛衰定マラス時々興廢アリテ信用甚々薄カリシニ明治二十年頃ヨリ商家ノ基礎漸ク鞏固トナリ内外ニ向テ信用ヲ博シ從前悉ク函館商人ノ手ヲ經タリシ貨物モ今ヤ當港人ノ手ニ收メ輸出輸入トモ過半ハ府縣諸港ト直接ノ取引ヲ爲スニ至レリ蓋シ當港商人ハ多クハ函館ヲ經テ當地ニ移リタルモノニテ能ク各地ノ商況ニ通シ機敏ナルコト略ホ函館商人ニ似タリ

商業區域ハ管内ニ在テハ根室全國千嶋諸島及ヒ函館トシ管外ニ在テハ東京横濱四日市名古屋大坂神戸新潟秋田青森等トス明治二十八年當港輸出入物品及ヒ價格左ノ如シ

明治二十八年 輸 出 表

品 目	管 外		管 内	
	數 量	價 格	數 量	價 格
身 欠 鯨	三一	二八〇	四八	四四三
胴 鯨	二〇二	一、〇一三	一	一
鯨 筋	一七	一六二	一七二	一、六三五
鯨 粕	三九、三九七	三五五、二六一	五五四	四、四二八

其他魚粕	一、五〇〇	一三、八一五	二、五八五	一八、〇九五
鹽 鯨	一一、六六一	二二九、三四八	四、四三五	七九、八三〇
鹽 鱈	三、六六六	二四、三四一	五、〇六七	三、五六〇
鹽 鱈	九四	一、一八〇	六	七二
鹽 鱈	三	三〇	一	一
鹽 鱈	一二	一六三	五七	七四一
其他鹽魚	四七	八八〇	一五九	一、二七二
鯨 筋 子	四六八	七、九九八	一二四	一、六一二
鯨 干 物 類	一	六	一	一
干 鱈	一、五八六	一九、四五七	七二〇	八、六四〇
其他干魚	九、七二二	四、七六七	一、二八四	六四二
煎 海 鼠	二、九九〇	一、三〇〇	二、一七〇	八六八
干 海 扇	三五、三四六	一〇、一三七	一〇、六四〇	二、八七三
干 貝 類	六、九一三	一、一六〇	一〇、〇八〇	一、六一三
昆 布	一一、八一二	三一、八五二	三六、七二九	九五、四九五
海 藻	一一、一四四	三、四三二	三、一四八	七八九

蠟	其他	石	漆	陶	烟	蔬	乾	果	菓	菜	砂	茶	酢	西	日	醬
燭	油	油	器	磁	草	菜	物	實	子	糖	糖		酒	酒	油	
二九五	一一	八三九八	一一二	一六一四	四、一五四	二、四〇六	一、二五二	二、八〇一	六、八三二	一四六、五八四	二〇、六〇〇	六三	一、〇二四	二二二	六〇四	
四五五	三一六	二〇、九五二	一六二	三、九〇三	一一、〇〇四	三、六三九	三五五	三、一五二	七、四四一	一〇、五二八	五、四六〇	三三二	二、一六六	四、一七五	八、三三二	
二、八九八	二五〇	四、三九一	一五〇	四五九	三、六四六	二、七六五	三、七五三	一、八五一	三、三三二	一三六、七九七	三、九〇〇	一四四	六九二	六九〇	八二八	
四、九二七	八、八一〇	一三、一七三	二、一〇〇	一、三七七	一〇、九四〇	四、四一七	一、二〇一	二、四〇六	三、九八六	一〇、二六〇	一、〇五三	二、四四八	一、三八四	一五、二四四	一一、四二〇	

疊	吳服太物類	和洋小間物類	麻及綿類	金物類	木材類	銅鐵類	藥種	繩	越	漁網及網糸類	鷄卵	鑑節	其他海產物	種物	雜貨
三、二一一	一、〇六〇	三一九	六、一九二	二七、八〇七	四〇	二〇、四八七	三〇〇	七三、一三〇	二二、六七七	二一、五一六	七四	三七〇	一	一七	六、六〇〇
一、五五五	九五、七二九	一〇、五五二	一四、八八八	二一、七三九	三三二	八、九七六	四、四〇四	一三、二二七	一四、二七九	二八、四〇六	六〇四	九六三	五四	四三五	五九、三三七
三、五〇七	二二三	八八	五六〇	一六、九二九	七、〇六三	一、三二二	六九	八三、四一一	三二、一六五	四三、一八九	四〇四	四二〇	四七、一一九	二〇	二九、二五七
一、七五四	二、一二八	三二七	一、五六八	一一、八四九	四、一五一	五九〇	一、〇三三	一五、八四八	二〇、九〇八	七三、四二一	三、五一五	一、〇五〇	二五八、一五九	三四〇	一五六、四三〇

紙類	船具類	牛	計
五、三三二	七六	四	六二六、四四七
七、九九八	一、一四〇	八二	七六四、三四三

備考 管内輸出中函館ニ出ス二十一萬六千餘圓ハ概テ該港ヲ經テ更ニ管外ニ輸出ス又管内輸入中函館ヨリ入ル四十五萬六千餘圓ハ概テ管外産ニシテ該港商人ノ手ヲ經テ更ニ根室港ニ輸入ス故ニ間接管外輸出入ト見做ス可トス

前表示ス所ノ外花咲港輸出入ハ皆根室港商人ノ取扱フ所ナルヲ以テ之ヲ根室港輸出入ノ一部ト見做ス可トス

貨物輸出入ノ模様ハ根室國及ヒ千嶋諸島一部ノ水産物ハ當港ニ集リ更ニ當港ヨリ釧路ハ東京四日市名古屋鹽釜ハ東京函館荻ノ濱青森ニ昆布ハ函館兵庫ニ干鰯ハ東京神戸大坂函館ニ海扇ハ横濱青森ニ罐詰ハ函館ニ輸出ス而シテ米ハ秋田新潟青森諸港ヨリ吳服太物ハ東京大坂四日市ヨリ小間物ハ東京大坂ヨリ麻及ヒ綿類ハ大坂東京四日市ヨリ漁網及ヒ網糸ハ函館大坂新潟名古屋ヨリ味噌ハ青森ヨリ醬油ハ東京函館ヨリ酒ハ大坂函館ヨリ茶ハ東京大坂ヨリ砂糖ハ横濱大坂函館ヨリ烟草ハ大坂函館ヨリ石油ハ横濱函館ヨリ蠟燭類ハ新潟ヨリ繩纒ハ新潟青森ヨリ金物類ハ東京函館ヨリ蠟燭及ヒ紙類ハ函館ヨリ當港ニ輸入シ更ニ當港ヨリ根室全國及ヒ千嶋諸島ニ分配ス

近年府縣ト直接取引ノ進歩スルニ從ヒ管外輸出品ハ其價ヲ増シ管外輸入品ハ其價ヲ減セリ例ヘハ米ノ如キハ函館ヨリ購求スルト管外ヨリ購入スルトハ一石ニ付其價格殆ソト一圓ノ差ヲ生ズト云フ亦以テ管外直接取引ノ利益アルヲ知ルニ足ラン是ヲ以テ今日米穀吳服太服等ハ函館ニ比シテ格別ノ差異ナク普通ノ荒物類ニ於テ平均一割ノ高價ナルヲ見ル但シ冬期ハ根室港氷結シ輸出入共花咲港ヲ經ルヲ以テ價格ノ騰貴ヲ免レス明治二十七年當港商人協議シテ同業者ノ交誼ヲ厚フシ營業上ノ福利ヲ計ルノ目的ヲ以テ商業協和會ナルモノヲ組織シ現今會員七十四人之ヲ水産物商米穀荒物商吳服太物小間物商瀬戸物金物商酒造商ノ五部ニ分テ毎月二回集會シテ商品ノ時價ヲ評定シ印刷シテ配布ス

根室市街ノ盛衰ハ専ラ漁業ノ豊凶ニ關係スレトモ通例一ケ年内ノ市況ヲ記スレハ商業ノ最モ活潑ナルハ十一月十二月ナリ是レ雇漁夫ノ歸國スル者各地ヨリ引上ケテ一時當市街ニ集マルト地方人民一般ニ冬期需要ノ物品ヲ買入ルハトニヨル越テ二月三月ハ諸業沈靜シ最モ閑暇ヲ極メ四月ニ至レハ漁夫等復々當地ニ集リ來リ各漁場ニ赴クヲ以テ其際再ヒ景氣ヲ添ヘ鯨漁ノ始ヨリ鯨漁ノ終マテハ時々多少ノ繁閑アレトモ概シテ常況ヲ維持セリ

金融 根室全國及ヒ千嶋國一部ノ重モナル資本金ハ根室市街ノ有力者ニヨリテ融通セラル其資本ハ即チ漁業ニ要スルモノニシテ當地ノ有力者ハ自己ノ資力又ハ東京名古屋等水産物取引先キヨリ融通シ來リテ更ニ之レヲ運轉ス而シテ鯨收穫ヨリ鯨收穫ニ至リテ漸次其放下セル資金ヲ回收スルヲ以テ此間ハ金融圓滑ナルヲ常トス次テ越年ノ準備漁場ノ仕込等頻繁トナリ翌春鯨收穫マテハ漸次閉塞ス金利ハ金額ノ多少其他種々ノ事情ニヨリテ一様ナラサレトモ月

利二分五厘乃至三分位ノモノ最多シ又小口ノ高利貸ニ至リテハ五分乃至一割ニ達スルコト珍
ラントセズ明治二十八年ハ金融必迫ノ年ナリシガ其金利概テ左ノ如シ

年 利	抵當種類	一萬圓以上	五千圓以上	千圓以上	五百圓以上	百圓以上	百圓未滿
月 利	公債證書	一分三厘	一分四厘	一分四厘	一分六厘	一分七厘	一分八厘
	土地	一分八厘	二分〇厘	二分五厘	三〇〇	三六〇	四〇〇
	家屋其他	二分〇厘	二分四厘	三〇〇	三六〇	四二〇	四八〇
	無抵當	一分六厘	一分八厘	二分〇厘	二分二厘	二分五厘	三〇〇

日 步 (抵當附)	月 月	一萬圓以上	五千圓以上	千圓以上	五百圓以上	百圓以上	百圓未滿
月 月	一	一分三厘	一分五厘	一分六厘	一分八厘	二分一厘	二分三厘
	六	一分六厘	一分八厘	二分〇厘	二分二厘	二分五厘	三分〇厘

月 月	一萬圓以上	五千圓以上	千圓以上	五百圓以上	百圓以上	百圓未滿
一	四分五厘	五分〇厘	五分五厘	六〇〇	七〇〇	一〇〇〇
六	五分五厘	六〇〇	六五〇	七五〇	一〇〇〇	一二五〇

金融機關ハ日本銀行出張所第二十國立銀行出張所アリテ遠地ノ爲替ハ第二十國立銀行出張所
ヲ經ルヲ常トス然ルニ同出張所ハ遠カラズ閉店スルトノコトニテ當地人ハ新ニ一ノ銀行ヲ設
立スルカ若シクハ有力ナル銀行ノ支店ヲ設ケント目下協議中ナリ

漁業 當市街人ハ商業ニ於テ此地方ノ全權ヲ握ルト共ニ漁業ニ於テモ亦殆ント其全權ヲ握
レリ根室全國及ヒ千島國一部ノ漁場ハ概テ當市街人又ハ府縣ヨリ出張シテ當市街ニ店舗ヲ有
スル者ノ所有ニ歸シ其所有者ハ或ハ自ラ漁業ヲ營ミ或ハ漁場ヲ他人ニ貸シテ營業セシム而シ
テ漁業資本モ亦多クハ當市街ノ有力者ニヨリテ融通セラレ其結果水産物ノ多クハ此有力者ニ
引渡サル、ナリ漁場所有者ノ重モナルモノハ藤野四郎兵衛柳田藤吉佐藤久右衛門吉村ヲヨ野
村新一阿知波相馬等トシ漁業資本仕込者ノ重モナルモノハ柳田藤吉吉村常吉野田爲右衛門山
縣勇三郎八木安太郎長野與平赤井幾藏内田齊二郎野村新一等トナス

農業 市街末端ノ地ハ概テ開墾シテ畑トナリ之ニ蘿蔔馬鈴薯其他種々ノ蔬菜ヲ耕作シテ自
家用ニ供シ又ハ之ヲ販賣ス

牧畜 市街中馬ヲ所有スルモノ百四五十名牛ヲ所有スルモノ五六名アリ山縣牧場ハ根室村
ノ部ニ記スルヲ以テ之ヲ省キ其他ニ於テ數十頭乃至百頭ヲ有スルモノ十餘名何レモ牧場ナリ
且近郊已ニ放牧スヘキ餘地ナキヲ以テ日常使役スルモノ、外ハ根室村ノ東部及ヒ花咲郡納紗
布ノ原野ニ送リテ放牧シ又間々自己所有ノ漁場ニ送リ其近傍ニ放牧スルモノアリ管理飼養周
到ナラサルヲ以テ良種ヲ得ル能ハス徒ラニ駄馬ヲ蕃殖セシムルト云フニ過キス近時馬ノ所有
者ハ其放牧地ナキニ窮シ花咲道路ト友知道路トノ間凡百二十万坪根室村ヨリ瑠璃瑠村ニ渉ル

海岸原野凡二百萬坪ノ貸下ヲ得テ共同牧場トナサントノ議アリト云フ
 製造 開拓使ノ頃經營セラレタル魚粕製造木材引割及ヒ製革鮭葷製ノ業ハ其後或ハ廢シ或
 ハ拂下ケ今日觀ルベキモノナシ酒造業ハ稍々盛ンニシテ數年前ハ釀造者二十三戸アリ明治二
 十九年ハ十三戸ニ減セシモ清酒三千二百五十石濁酒三十八石焼酎六十三石白酒四石餘ヲ釀造
 シ此地方ニ需要スル酒ノ大部ヲ供給ス其他鮭鱈罐詰所一ヶ所精米所二ヶ所醬油製造業一戸酢
 製造業一戸アリ

木材薪炭 市街附近ハ已ニ樹木欠乏セルヲ以テ木材薪炭皆之ヲ數里以上ノ遠地ヨリ輸入
 ス即チ木材ハオンチト一近傍及ヒ目梨地方薪ハオンチト一及ヒ風蓮湖畔炭ハ風蓮湖畔等ヨリ
 ス幸ニ海路ノ便アルヲ以テ船ニ積ミ又ハ筏トナシテ輸入シ其價未ダ高カラス薪ハ一棚一圓二
 十錢炭ハ五貫匁一俵二十五錢木材ハ檜松百石六十圓ナレトモ漸次騰貴スヘキ景勢ナリ
雇賃 明治二十九年諸種ノ業務ニ従事スル雇賃錢ハ左ノ如シ

種別	日給月給ノ別	上	中	下
農作 _リ 年雇男	一ヶ月ニ付	一、五〇 <small>十</small>	二、〇〇 <small>十</small>	一、五〇 <small>十</small>
農作年雇女	同	一、五〇	一、〇〇	八〇
農作日雇男	日給	四〇	三五	三〇
農作日雇女	同	二五	二〇	一五
飾職	同	七五	七〇	六〇

和服仕立職	同	六五	五〇	三五
洋服仕立職	同	一、〇〇	七〇	五〇
木挽職	同	六〇	五五	五〇
大工	同	六〇	五八	五〇
左官	同	六五	五五	五〇
家根職	同	六〇	五八	五〇
指物師	同	七〇	六〇	五〇
疊刺	同	七〇	六〇	五〇
建具職	同	六〇	五五	五〇
石工	同	七五	六五	六〇
鍛冶職	同	七五	六〇	五五
船大工	同	七〇	六〇	五〇
酒造稼人	同	五〇	四〇	三〇
日雇人夫	同	四五	四〇	三五
漁夫	一ヶ月ニ付	一〇、〇〇	八、五〇	六、五〇
下男	給	三、〇〇	二、〇〇	一、五〇

下

女 同

1,100

1,500

1,000

地價 本町一丁目及ヒ之ニ接スル花咲町一部ノ地ハ市街中最上ニ位シ目下一坪ノ價格凡二十圓次ニ花咲町梅ヶ枝町ノ二丁目三丁目ハ一坪ノ價格凡拾圓降テ綠町一丁目乃至四丁目彌生町松ヶ枝町有磯町一丁目二丁目ハ一坪ノ價凡六圓トス

町經濟 明治二十九年年度根室各町聯合經費豫算ハ二萬四千七百圓弱ニシテ病院費其三分ノ一強教育費其三分ノ一弱ヲ占メ警備費土木費之レニ次ク別ニ彌生學校新築費水道改築繼續費等九千七百七十七圓ノ臨時費アリ支出合計二萬九千二百二十三圓トス巨額ナリト謂フベシ然レトモ之ニ對スル收入ハ基本財産收入國庫補助金寄附金借入金及ヒ學校授業料病院等ノ雜收入アルヲ以テ町民ニ賦課スルハ七千五百三十三圓餘即チ總收入ノ四分ノ一ニ過キス其賦課法ハ戶別割ニシテ等級ヲ二十三ニ分チ最下級一最上級二百ノ割合ヲ以テ徵收ス負擔戶數ハ二千二百五十九戸ナリ

基本財産中現ニ收入アルハ市街ノ各處ニ散在スル土地及ヒ花咲郡齒舞村ニ在ル海産干場ニシテ一ヶ年ノ收入凡三千圓トス之ヲ區別スレハ普通基本財産五千六百三十九坪七合ノ貸料八百四十六圓餘學校基本財産海産干場千九百九坪宅地七千六百六十三坪ノ貸料千六百九圓餘病院基本財産一萬三千五百十五坪ノ貸料四百七十六圓ナリ貸附法ハ以前ハ惣代人ノ評決シタル價格ヲ以テセシカ近年新ニ貸スモノハ皆入札ニ附シ契約年限概チ五ヶ年トナス

風俗人情

當地ハ北海道本地ノ東隅ニ僻在スト雖トモ其住民ハ函館其他本道各地ヲ經テ

當地ニ來リタル者多クシテ能ク北海道ノ生活ニ慣熟セリ殊ニ函館トハ交通最モ頻繁ナルヲ以テ其影響ヲ受クルコト少ナカラス商人ノ機敏ナルハ殆ント函館商人ニ讓ラスト云フ敦厚ノ氣風ヲ欠クト雖トモ居住ノ久シキニ從ヒ資産ヲ増シ土着ノ念ヲ固フシ近時公共事業ノ如キ稍々觀ルヘキモノアリ

教育 當地ノ教育ハ明治七年限室支廳ノ官吏公務ノ餘暇ヲ以テ兒童ヲ教授セシニ始マル同九年花咲小學校ヲ設ケ明治二十二年私立根室女子小學校ヲ設ケ同二十四年彌生尋常小學校ヲ設ク二十八年就學兒童高等小學男百五十六名女五十七名尋常小學男三百六十九名女二百七十七名授業料ハ十錢廿錢三十錢六十錢ナリ外ニ二十七年設置ニ係ル花咲幼稚園アリ入園兒童二十名トス又私立實修學校アリ素英語ヲ教授セシカ二十八年組織ヲ改メ高等小學二年ノ課程ヲ終リタルモノヲ入學セシメ修學期ヲ三ヶ年ト定ム

衛生 昔時警衛ノ士當地ニ勤番シタリシキ醫師ヲ伴ヒ病者ヲ治療セシム明治二年官醫師ヲ東京ヨリ雇入レ松前藩舊官舎ヲ以テ事務所ニ充テ患者ヲ取扱ハシメ同八年病院ヲ彌榮町ニ新築ス後官立ヲ廢シ市街ノ公立病院トナス目下醫師四名藥劑員三名本道東部第一ノ病院ナリ此外市街ニ開業スル醫師七名アリ飲用水ハ水道ノ外概チ良好ナラス市街ノ東部字根室別ニハ腸室扶斯患者稍々多シト云フ

社寺 琴平神社ハ高田屋嘉兵衛ノ創建ニ係ルト云フ初メ今ノ松枝町ノ地ニ在リ天保三年以來場所請負人時々社殿ヲ修築シ來ル明治十年協議ノ上根室郡ノ産土神トナシ出願シテ郷社トナシ根室別ノ東ナル高臺ニ遷坐ス境內廣潤樹木アリ樹間根室港ヲ臨ミ風光佳ナリ同二十五年

社地ノ近傍三萬四千二百坪ノ貸下ヲ出願シテ公園トナス市杵嶋神社ハ辨天島ニ在リ是レ亦高田屋嘉兵衛ノ創建スル所ナリト傳フ明治十年市街ノ民協議シ村社トナス根室ハモト佛寺ナク厚岸國泰寺ノ支配ニ屬ス開拓使ノ初メ信濃國ノ産兼吉ナルモノ柳田藤吉ノ漁夫トシテ雇ハレ來ル兼吉ハ曾テ該國善光寺ノ一末寺ノ雜僧タリシモノニテ病者ノ看護死者ノ埋葬ニ巧ミナリ因テ亡者取扱小屋ト云フヲ設ケ兼吉ヲシテ埋葬ヲ掌ラシム明治六年官許ヲ得テ吊祭場ト改ム國泰寺ヨリ屢々故障ヲナシ甚々困難ナリシカ同十三年兼吉函館曹洞宗高龍寺ノ弟子トナリ小松梵光ト稱シ許可ヲ得テ吊祭場ヲ改メテ根室山開法寺ト稱ス是レ當地ニ寺院アル濫觴ナリ同十四年淨土宗大徳寺ヲ建立ス次テ日蓮宗説教所ヲ設ケ後常惺寺ト號ス其後曹洞宗耕雲寺眞宗白毫寺大谷派東本願寺支院ノ建立アリ其他神道各派教會所耶蘇教會等數テ所アリ

水利 市街ニハ堀井數多アリト雖トモ清良ナル飲料ニ乏シ花咲町舊監獄署構内ニ眞質ノ湧水アリ明治二十年官費ヲ以テ花咲彌榮梅枝各町ニ亘リ延長三百三十間餘ノ木造水樋ヲ敷設シ飲料ニ兼テ防火用ニ位ス同二十九年木樋ヲ改メテ鐵管トナス一晝夜ノ水量凡六百石未タ以テ徧ク全市街ニ供給スル能ハス且冬期ハ氷結シテ殆ント防火ノ用ヲナサスト云フ

根室村

地理 根室郡ノ東端ニ在リ東ハ瑤瑤瑠村ニ接シ南ハ沖根婦友知花咲三村ニ交リ西ハ和田穂香二村ニ隣シ北ハ根室市街ヲ包ミテ海ニ瀕ス全村高臺地ニシテ海岸處々ニ岩石アリノツカマブ崎ベニケウムイ岬及ヒノツカマブ川コマンケシ川テムロベツ川ハツマラ川ノ小流アリ表土

淺ク地味長カラスハツタラ川沿岸ノ地稍々可ナリ

沿革 ノツカマブニハ古昔「アイヌ」ノ部落アリシニ寛政國後亂ノ後之ヲ根室運上屋元ニ移ス明治十一年根室牧場ヲ設ケ同十九年根室監獄署ヲ當村ニ移ス開拓使以來根室市街ノ發達ニ伴ヒ漁業農業等漸次進歩セリ

戶口 明治廿八年現住戶數二百十人口九百十一アリ根室市街ノ近傍及ヒ東部ノ海岸ニ住ス

運輸交通 市街ニ近キヲ以テ運輸甚マ便ナリ

生計 職業ハ漁業農業トス又雜業ニ從事スル者アリ市街ニ接近シ諸事便利ナルヲ以テ生計容易ナリ

漁業 鯨ヲ以テ主トナス鮭、鱈、鰯、海鼠其他雜魚ヲ産ス漁場ハ鯨二十一ヶ所鱈八ヶ所鮭十六ヶ所概テ根室市街人ノ所有ニ係ル明治二十八年水産製品左ノ如シ

品目	産額	單價	總價
鯨 搾 粕	五、二〇八	五五八	二九、〇三九
雜 魚 搾 粕	四九	四四七	二一九
鹽 鱈	八〇	四二九	三四三
鹽 鮭	二〇九	一、三三五	二、八三二
計			三二、四三四

農業 根室地方ニ於テハ從來僅ニ自家用ノ蔬菜ヲ作ルニ過キサリシカ明治十四年岩手縣ノ

民岩崎織之助ナルモノ始テ當村字西ハツタラノ地ヲ相シ專ラ農業ニ從事シ爾來屢々失敗スルモ毫モ屈セス溝ヲ設ケテ排水シ從前府縣ノ耕作法ニ倣ヒタル平畦ヲ廢シテ高畦トナシ且善良ナル種子ヲ遠地ニ求メ遂ニ燕麥小麥大麥蕎麥粟大豆等皆稍々收穫アルニ至ル實ニ根室國專農ノ始祖ナリ斯クテ數年ヲ經テ根室市街繁榮シ蔬菜ノ販路開クルニ從ヒ漸次農家ノ數ヲ増シ目下數十戸ニ達ス

主要ナル農作地ハハツラタニシテ市街ノ西ニ接シ現在農家凡ソ三十戸アリ大抵五六年以來移住セル者ニシテ多クハ草葺ノ假小屋ニ住シ其景況本道普通新開地ノ農家ニ異ナラス然レトモ其一戸耕作スル所ハ六七反歩乃至三町歩ニシテ平均一町歩ヲ出テス是レ其專ラ蔬菜ヲ作リ極テ集約的ノ農業ヲナスニヨル右農作地ハ概テ根室市街人ノ所有ニ歸シ自作者少ナクシテ小作者多シ土地ノ貸借ハ通常未墾地ニ在リテハ開墾料ヲ給セス唯三年又ハ四年ノ繳下年期ヲ與ヘテ開墾耕作セシメ又地味便利共ニ良キ地ニ於テハ初年ヨリ少額ノ小作料ヲ附スルモノアリ既墾地ニ在リテハ一ケ年一反歩ニ付七十錢乃至一圓ノ小作料ヲ徵收ス作物ノ重ナルモノハ蘿蔔馬鈴薯ニシテ午房胡蘿蔔葱甘藍蕪菁漬菜菜豆等之レニ次キ又間々雜穀ヲ作ルモノアリ地味一般ニ佳良ナラサルヲ以テ肥料ヲ要スルコト多ク皆市街ヨリ人糞ヲ運搬シ來リテ之ヲ施ス作物ノ收穫ハ耕耘ノ精粗氣候ノ適否等ニヨリ一様ナラズト雖トモ蘿蔔ハ一反歩ニ付二千本乃至四千本平均三千本ニシテ一圓ニ付二百五十本ニ見積リ一反歩十二圓ノ收入アリ馬鈴薯ハ一反歩ニ付二十俵乃至五十俵平均三十五俵ニシテ一俵四十錢ニ見積リ一反歩十四圓ノ收入アリ但シ明治二十九年ハ氣候不順ニシテ收穫ヲ減セシト諸物價ノ騰貴トニヨリ農家一同協議シテ蘿蔔

ハ一圓ニ付百八十本乃至二百本馬鈴薯ハ一俵五十錢ト定ム之ヲ要スルニ農家カ販賣シテ獲ル所ハ一反歩ニ付平均十圓餘ニシテ一町歩ヲ耕作セハ百圓餘ノ收入アリ且農家ノ多クハ短期間鯨漁場ニ出稼シ又農隙ヲ以テ他ノ雜業ヲ營ムモノアリ而シテ收入ニ對スル支出ノ重モナルモノハ米ニシテ雜穀ヲ作ラサルノ結果米ヲ購フテ常食トナサ、ルヲ得ス之レニ次ク食料ハ自家作ル所ノ馬鈴薯ニシテ皆多少之ヲ交ヘ食スルモ尙普通四五口ノ家族ニテ米十五六俵其價七八十圓ヲ要ス之ニ味噌石油衣類器具等ノ諸費ヲ合スレハ一歲間ノ支出百圓以上ナリ故ニ勤儉從事セハ收支計算シテ多少ノ餘裕ヲ生スヘキモ糊口ニ窮スル憂ナシト云フ

監獄署 根室監獄署ハ明治十九年根室市街ヨリ當村ニ移ス同二十四年改テ北海道監獄署根室支署ト稱ス市街ヨリ南西海岸ニ通スル國道ノ傍ニアリ已墾地二十四町歩餘ニシテ二十九年耕作スル所ハ燕麥蘿蔔馬鈴薯各々五町歩乃至六町歩牧草二町九反歩大麻草房胡蘿蔔葱菜蕪菜甘藍各々一反歩乃至六反歩ナリ

牧畜 山縣牧場ハ根室市街ノ南東端ヨリ花咲郡ニ跨リ地積九百十七萬三千三百九十七坪蓋シ本道民業ニ屬スル牧場中第一ニ位スルモノナリ其沿革ヲ尋ナルニ明治八年根室支廳ニ於テ牧草數種ヲ播種セシニ東察加産ヲモセ一箇畜ノ能ク生育セルヲ以テ此地ノ牧場ニ適スルヲ知リ厚岸其他數所ヨリ馬ヲ移シテ放牧ス同十一年根室花咲二郡ニ跨ル曠野ヲ劃シ根室牧場ト稱シ各所ヨリ牛馬ヲ取寄セ改良ヲ謀ル明治二十年鹿嶋萬兵衛ニ貸下ケ二十三年和田村屯田兵ニ讓渡シ其共同牧場トナシ其後屯田兵ヨリ一萬八千圓ニテ山縣勇三郎ニ讓渡セリ事務所ヲ市街ニ近キ處ニ置キ出張所ヲ東方コマンケニ設ケ役員三名常雇二十名臨時雇平均七名牧柵畜舍等

略ホ整備シ牛馬ノ改良蕃殖ヲ計リ且牛酪煉乳ヲ製造ス牛ノ飼養ハ夏期ハ乳牛ノ外悉ク場内ニ放牧シ日々牧丁ヲシテ巡視セシメ冬期ハ一切舍飼シ乳牛ニハ燕麥馬鈴薯胡蘿蔔燕青牧草等ヲ與ヘ其他ニハ牧草燕麥幹野草等ヲ給ス交尾ハ乳牛ノ外皆自由ニ任ヌ馬ハ胤馬ヲ除クノ外周歲放牧シ冬期積雪ノ際野菜ノ刈リタルモノヲ所々ニ堆積シ置キ以テ飢餓ノ患ナカラシム牛馬共其成育甚タ佳ナリ左ニ數個ノ表ヲ掲ケテ事業ノ景況ヲ示ス

現在牛馬表

品目	種別	頭數
牛	アイシヤ	一七〇
同	シヨルトホン	一四〇
同	ゲルンジ	二
馬	西洋種	三
同	雜種	四〇
同	内國種	二二〇

明治二十八年耕作表

品目	播種反別	一反步收穫	備考
牧草	一二〇〇〇	四五	平作

燕麥	四二、一〇	一	平作
馬鈴薯	一一、三〇	一五六	凶作
ビト	〇、六一	一二五	平作
燕	一一、〇〇	一二〇	平作
胡蘿蔔	〇、四七	一五〇	平作

明治二十八年生産物販賣表

品目	販賣數	單價	販路
乳牛	三〇頭	一二五	東京
屠牛	五〇頭	三五、〇〇	當地方
生馬	三五頭	三〇、〇〇	當地方及陸軍
生乳	五五升	二五	當地方
牛酪	四八〇斤	六〇	當地方及函館東京
煉乳	若干	二七	同

備考 目下乳牛三十五頭一ヶ年産乳三百八十石内七分ノ一ヲ生乳ニテ販賣シ餘ハ牛酪煉乳ノ製造ニ供ス

明治二十八年牧場ノ經費四千百十圓資本金ノ利子二千百二十三圓收入七千八百六圓ニシテ差

引キ千五百七十三圓ノ純益アリ

地價 當村ノ畑地ハ收穫ノ多少ヨリモ寧ロ市街ニ接近スルノ故ヲ以テ價值アリ一反歩ノ價十圓乃至三十五圓ニ至ル牧場ハ一反歩概價九圓ナリ

教育其他 當村ニハ學校醫師社寺等ナシト雖トモ其大部ハ根室市街ニ接近スルヲ以テ不便ヲ感スルコトナシ

和田村

地理 北西ハ穂香、幌茂尻二村及ヒオンテト一湖ヲ隔テ、厚別村ニ境シ南東ハ昆布盛花咲根室三村ニ隣接ス根室半島中海ニ瀕セサルハ唯此一村ノミ地勢高隆南北ノ海ヲ臨視スルヲ得ヘシ土性ハ上層ハ壤土下層ハ埴土ニ屬シ乾燥ニ過キ肥沃ナラヌ夏期ノ濃霧ハ花咲郡ノ海面ヨリ當村ニ襲來シ甚タ冷濕ナリ

沿革 明治十九年諸縣ノ士族二百二十戸ヲ募リ屯田兵トナシ此地ニ移住セシム是ヲ第四大隊第一中隊トナス同二十一年百二十戸ノ屯田兵ヲ移ス此年始テ村トナシ大隊長和田正苗ノ姓ヲ以テ村名トナス同二十二年復タ百戸ノ屯田兵ヲ移ス此兩年移ス所ヲ合セテ第四大隊第二中隊トナス

戸口 明治二十八年現在戸數四百八十三本籍人二千七百六十八出寄留人三百十三入寄留人百十三差引キ人口二千五百六十八トス近年出寄留ヲ増スノ傾アリ屯田兵ハ皆士族ニ屬シ本籍人ノ男女別ハ男千五百六十一女千二百七ナリ第一中隊ハ新瀉福井石川外數縣ノ士族第二中隊ハ鳥取廣嶋福岡外數縣ノ士族ヨリナル

部落

第一中隊ハ村ノ東部ニ居リ第二中隊ハ西部ニ位ス共ニ數條ノ道路ヲ縱横ニ開キ其兩側ニ家屋ヲ設ク家屋ハ長五間幅三間半ノ瓦屋ニシテ各戸ノ敷地間口四十間奥行百二十五間其配列ノ整正ナル他ノ屯田兵村ニ異ナラス兩隊ノ中間ニ第四大隊司令本部ヲ設ク又市街地百區畫ヲ存シ目下小賣商雜業者三十五戸アリ戸長役場小學校巡査駐在所亦此處ニ設ケラル

運輸交通

根室市街ヲ距ル近キハ一里遠キハ三里ニシテ國道村ノ中央ヲ貫クヲ以テ運輸便ナリ

生計

屯田兵ハ素農業ヲ以テ生計ヲ爲ス目的ナリシニ風土農作ニ適セス今ヤ農ヲ以テ本業トナスモノ僅ニ十中二三ニ過キス餘ハ皆轉シテ雜業ニ從事シ農ハ副業タル有様トナレリ一般ニ生計困難ニシテ貧困ノ狀憫レムヘキモノアリ

農業

屯田兵ハ最初家屋ノ周圍ニ於テ五千坪次ニ村内ニテ五千坪厚別村ニテ五千坪ノ地ヲ給セラレ而シテ移住ノ當初家屋家具及ヒ三年間食料ヲ給與セラレ諸事保護監督ヲ受クシテテ開墾ノ業進歩シ既ニ家屋ノ周圍ヲ開墾シ了リテ追給地ニ着手シタルモノ少ナカラス數年ヲ經テ毎戸平均二町歩ヲ墾成シ大小麥蕎麥ヲ播シ大小豆ヲ試ミ大麻ヲ作り諸種ノ穀菽類ヲ耕作シタルトモ何レモ豫期ノ結果ヲ收ムル能ハス遂ニ農ヲ專ラトシテ一家ノ生計ヲナシ難キヲ以テ耕地ノ大部ヲ放棄スルノ止ムヲ得サルニ至レリ明治二十八年ノ調査ニ據レハ從來ノ既墾地總計八百八十六町一反歩ニ達スルトモ實際耕種スル所ハ其一部分ニシテ一旦開墾シタル追給地ハ勿論屋敷地ノ過半モ亦荒蕪ニ萎シテ願ミス乃チ同年耕作スル所ヲ示セハ左ノ如シ

品	目	作	付	反	別	收	獲	高

大	麥	二八、三	二五五
小	麥	一一、〇	九八
裸	麥	六一	四九
燕	麥	二四、〇	二八八
大	豆	〇、九	五
豌豆	豆	三、六	三六
扁	豆	一一、六	三五
馬	鈴	三六、〇	六一二〇

右ノ如ク穀菽ノ耕作衰微シテ振ハサルヲ以テ農民ハ蔬菜ヲ作り根室市街ニ搬出シテ販賣ス殊ニ第一中隊ハ市街ニ近キヲ以テ蔬菜ノ販賣ヲナスモノ多シ

雜業 農業ノ外村民ハ或ハ木材薪ヲ伐採シ或ハ漁場ニ出稼シ或ハ運搬ヲ業トシ或ハ他ノ町村ニ赴キ種々ノ職業ヲ求メテ生活ス甚々シキハ一家舉テ出稼キシ常ニ五十戸内外ノ空屋ヲ見ルト云フ漁場ノ出稼ハ兩隊ヲ合シテ凡百名以上アリ鱈漁ヨリ昆布採取ニ赴キ又ハ鱈漁ト鮭漁トニ雇ハレ二漁期ニテ平均一人五十圓ノ收入アリ又單ニ一漁期ノミ出稼スルモノアリ

森林 當村ハ昔時檜樺木、椴松等繁茂セシニ初ハ開墾ノ爲次ハ耕作ヨリモ寧ロ伐木ノ利益アリカ爲メ伐採シ今ヤ概テ禿禿ノ地トナリ風防ノ樹林尙乏シキニ至リ農作物ヲシテ益々風害霧害ヲ被ラシム厚別村字米戸賀ニ屯田兵ノ公有地アリ樹木鬱葱一大資産ナリ然ルニ屯田兵中既

マ其樹木ヲ賣却セント欲スル者アリ嘆スベキ哉

牧畜 馬ハ總計二百三十二頭ト稱ス然レトモ實際ノ數ハ之レニ倍セム其内二十頭乃至四十頭ヲ有スルモノ五名アリ村内數所ニ共同牧場アリ牧場ヲ繞ラシテ之レニ放牧シ又落石ノ原野ニ送り放牧スルモノアリ牛ハ四十四頭ニシテ松浦某ノ所有ニ係リ夏期ハ番人ヲ附シテ放牧シ冬ハ舍飼ス

村經濟 明治二十九年年度豫算支出教育費基本財産造成費合計二千三百五十八圓五十錢ニシテ基本財産ノ收入寄附金及雜收入ヲ以テ支辨シ別ニ村民ヨリ賦課徵收セヌ基本財産ハ屯田銀行株券三千二百圓及ヒ土地建物等アリ市街地ノ賃附料ハ一ヶ年九十六圓トス外ニ米戸賀ニ大公有地アリ

風俗人情 第一中隊ハ比較的怠惰ニシテ奢靡ニ傾クノ風アリ第二中隊ハ稍々堅固ニシテ甚々節儉ナリ而シテ風土産業ニ適セス一般ニ貧困ニシテ其土ヲ愛スルノ念薄ク加之各府縣士族ノ集合ニシテ共同事ニ從フ能ハス人心頗ル萎靡セリ

教育 兩中隊各々一個ノ小學校ヲ有シタリシカ明治二十九年合併シテ中央ニ校舎ヲ設ケ尋常高等兩科ヲ並置ス

衛生 明治二十八年マテハ軍醫アリシカ同年限り之ヲ引上ケタルヲ以テ同二十九年軍人恩賜金ノ一部ヲ寄附セシメ之ヲ以テ醫師一名ヲ置ク

社寺 八幡神社アリ社格未定マラス祭典ハ各中隊移住ノ日ヲ紀念トシテ各別ニ舉行シタリシニ明治二十九年協議ノ上八幡社ノ祭日ヲ以テ全村ノ祭祀ヲナスコトニ定ム本願寺説教所

一アリ

村ノ前途 石狩原野ノ屯田兵ハ移住後數年ヲ経レハ家屋ノ増築ヲナシ物置倉庫等ヲ新設シ其進歩觀ルヘキモノアリト雖トモ當村ニハ斯ノ如キ修築ヲナスモノ甚タ稀ニシテ人ヲシテ一見荒涼ヲ感セシム蓋シ屯田兵ハ現役ヨリ後備ニ至ルマテ三十ク年間其土ヲ去ル能ハサルノ義務アリ若シ此義務ナカリセハ當村ノ屯田兵ハ今日ニモ離散スルモノ必ス少ナカラザラン斯ノ如キ情况ナルヲ以テ土着ノ念乏シク唯目前ノ計ニ汲々トシテ各自給與地ノ樹木ハ最早概テ賣却シ了リ次テ公有財産地ニ及ボサントシ又根室牧場ハ實ニ兵村ノ一大資産ナリシニ之ヲ一萬八千圓ニテ山縣某ニ讓渡シ其金ヲ各自ニ分配シテ消費スル等歎息ニ堪ヘサルコト多シ日清戰爭ノ際兵役アルモノ皆召集セラレ數ヶ月ニシテ歸郷シ二十九年ニ至リ一人ニ付手當金十五圓慰勞金二十五圓ヲ恩賜セラレ俄ニ大金ヲ一村内ニ集メタルヲ以テ一時好景氣ヲ呈スト雖トモ此景氣ハ永ク續クヘキニアラス思フニ當村民ハ最初數年間優渥ナル保護ノ下ニ生活シ次テ數年間獨立自營ノ經驗ヲナシ今ヤ永遠ノ計ヲ立ツヘキノ時期ニ際會セリ若シ今日ニシテ之カ計ヲナス能ハサラン歟他日村民ノ多クハ遂ニ離散スルニ至ルモ亦知ル可ラス是ヲ以テ有志ノ士間々之カ方法ヲ講スルモノナキニ非スト雖トモ適當ノ産業ニ乏シク人心萎靡振ハス前途大ニ憂フ可キモノアリ

穂香村

地理 東ハ根室村ニ接シ西ハ幌茂尻村ニ境シ南ハ和田村ニ隣シ北ハ海ニ枕ム小村ナリ穂香ノ名ハアイヌ語ボニオイニテ小蛇多キ處ノ義ナリ高臺地ニシテ昔時樹林ナリシカ現今伐採シ

テ概チ草原トナレリ

沿革 古昔ヨリ好漁場ニシテ番屋倉庫アリ文化年間花咲ニ移リシ色丹嶋アイヌ後復タ此地ニ移リ終ニ永住ス明治七年官試藝園ヲ當村ニ設ケ根室縣ノ時ニ至リテ廢ス和人稍々移住シアイヌト雜居ス

戸口 明治二十八年現住戸數四十人口百五十四ニシテアイヌ及ヒ各地ヨリ移住セル雜業者ナリボニオイ川口ニ部落ヲナス

運輸交通 根室市街ヲ距ル西方二十六町運搬便利ナリ

生計 村民ハ漁期出稼ス又沿海ニテ雜漁ヲ營ミ或ハ蔬菜ヲ作り薪ヲ採ル生計裕ナラス

漁業 沿海ハ根室國中屈指ノ鯨産地ニシテ巨下其漁場ノ數十五ヶ所アリ根室市街人ノ所有ニ係ル鮭鱈ノ漁場ハ各々一ヶ所ノミ又雜魚ヲ産シ生ニテ根室市街ニ販賣シ或ハ粕ニ製ス明治二十八年水産製造品左ノ如シ

品目	産額	單價	總價
鯨 搾 粕	三、七九六	六一八	二二、四四二
雜 魚 搾 粕	五六	三九六	二二二
鹽 鮭	〇、〇三	一、五〇二	五
胴 鯨	三〇	四五五	一三五
身 欠 鯨	六	五三三	三二

計

二三八三六

農業 壯丁ハ概テ漁場ニ出稼シ家ニ在ル老人婦女等僅ニ畑ヲ耕シ蔬菜ヲ作り自家ノ用ニ供ス其作物ヲ市街ニ搬出シテ販賣スルモノハ二名ノミ

商業 需要品ハ概テ各自根室市街ニ至リテ購求ス又小賣商三戸アリ酒烟草其他少許ノ品ヲ賣ル

風俗人情 「アイヌ」ハ概テ雜種トナリ純粹ノモノ少ナシ衣食住トモ皆和人ニ均シク一見其「アイヌ」部落タルヲ識リ難シ酒ヲ嗜ミ貯蓄ノ念ニ乏シ和人モ亦程度低シ

教育 幌茂尻村ニ穗香幌茂尻二村共同ノ學校基本財産アリ小學校ノ設アレトモ當村ヨリハ兒童ノ通學ニ不便ナルヲ以テ未タ就學セス村民分校ノ設立ヲ望ミ居レリ

幌茂尻村

地理 南東ハ和田穗香二村ニ交リ西ハオンテト湖ヲ隔テ、厚別村ニ對シ北西一帶海ニ瀕ス地勢狹ク長ク高原ニシテ海岸概テ段階ヲナシオンテト湖畔僅ニ低濕ノ地ヲ存ス

沿革 幌茂尻ノ原名「ボロモシリ」ハ直譯大嶋ナレトモ島ニアラス大村ノ義蓋シ古昔「アイヌ」ノ大部落アリシ地ナリ根室場所開設以來漁舍ヲ設ケ「アイヌ」ヲ使役シテ漁業ヲ營ミ開拓使ノ時ニ至ル明治十五年廣嶋縣民團結シテ當村ニ移住ス今其顛末ヲ尋ヌルニ其人民ノ鄉國ニ在リシトキハ農業其他種々ノ業務ニ從事シタル貧究者ニシテ單ニ北海道ノ農業漁業其外總テ利潤多キヲ聞キ率先者ノ誘導スルニ任セ北海道送籍移住者渡航手續ニ據リ六十三戸團結シ明治十五年

九月七日日本國ヲ發ス不幸ニシテ途中時疫ニ罹リ數所ニ滯留シ五十餘日ヲ經テ根室港ニ到着セリ然ルニ根室實際ノ景況ハ全ク豫想ニ反シ殊ニ季節漸ク冬天ニ向ヒテ農業漁業ニ就ク能ハス失望落膽言フ可ラス官ノ指揮ニ任セ數戸ヲ根室ニ殘シ餘ハ皆幌茂尻村ニ入り藁藁ヲ聞キ茅舍ヲ造リテ之レニ假居ス當時根室ハ甚タ不景氣ニシテ職業ニ乏シク移民頗ル困難ナリシカ幸ニ官ノ土木工事アリシニヨリ強壯ナル者皆之レニ出稼シ又冬ニ至リ米五十俵金五十圓ヲ官ニ借リ木材ヲ伐出シテ之ヲ納メ纒ニ口ヲ糊ス同十七年移住スルモノ二十餘戸此歲亦官ノ工事ニ出稼シ或ハ木材ヲ伐出シ傍ヲ畑ヲ開キ又始テ北寄貝ヲ採取ス爾後漸次風土ニ慣レ明治二十一年頃ヨリ稍々生計ニ餘裕ヲ生シ全ク安堵シテ今ヤ鄉里ヲ思慕セサルニ至レリ

戸口 明治二十八年現住戸數百六十三人口七百二十廣嶋縣移民最多ク「アイヌ」人之ニ次キ其他各府縣ノ移民相雜ハル

部落 廣嶋縣移民ノ居住地ハオンテト湖口ノ東高臺地ニシテ現今凡六十戸小學校巡査駐在所嚴嶋神社法眞寺及ヒ醫師一人小賣商十二戸宿屋四戸湯屋一戸鍛冶一戸アリ根室國中好部落ノ一ニ數フ可シ又該高臺ト湖口ノ間ナル低地ニ各處ヨリ移リタルモノ凡二十戸アリ「アイヌ」ハ村ノ東部字幌茂尻ニ住シ和人ヲ合セテ凡四十戸アリ部落ノ景況ハ穗香ニ似タリ

運輸交通 根室市街ヲ距ルコト一里乃至二里ニシテ交通便ナリ米一俵ノ運賃廣島移民地マテ七錢

生計 職業ノ重要ナルハ春ハ鯨漁夏ハ昆布採取秋ハ鮭漁ノ出稼ニシテ鯨漁ニハ毎戸平均一人昆布ニハ其四分ノ一鮭漁ニハ其十分ノ四トス各一人一漁期間ニ得ル所ノ賃金二十圓乃至三

十圓ナリ冬季ハ伐木ニ從事ス其他沿海ニテ北寄貝蛸貝及ヒ雜魚等ヲ捕獲シ根室市街ニ販賣ス之ニ從事セハ一人一日平均三十錢乃至五十錢ヲ得ルト云フ傍ヲ自家用ノ蔬菜ヲ作ル廣島縣移民ハ二三戸ヲ除クノ外生計容易ニシテ既ニ七八百圓ノ貯金ヲ有スルモノ二三名アリ字幌茂尻及ヒオンチト一低地ノ民ハ未タ裕ナラス其生計ノ度穂香村ニ髣髴タリ

漁業 當村ハ鯨ノ豊漁地ニシテ其漁場十三ヶ所アリ學校基本財産ニケ所ノ外ハ根室市街人ノ所有ニ屬ス其他種々ノ魚介ヲ産シオンチト一湖口殊ニ介類ニ富ム明治二十八年水産製品左ノ如シ

品目	産額	單價	總價
鯨 搾 粕	六、一〇〇 _石	六八七 _円	四一、九三〇 _円
雜魚 搾 粕	一四	五五〇	七七
厠 鯨	二八	四七五	一三三
身 欠 鯨	六	五三三	三三
計			四二、二七二

農業 各自蔬菜ヲ栽培シ自家用ニ供ス就中馬鈴薯ハ重要ナル品ニシテ間々米七分馬鈴薯三分ノ割合ニ食スル者アリ馬ハ多數ヲ有スルモノナシト雖トモ放牧ノ結果往々農作ト衝突スルヲ免レヌ

商業 小賣商十二戸アリ内一二戸ハ米穀吳服其他諸品ヲ備フ村民ハ其日用品ヲ直接ニ根室

市街ヨリ購入スル者ナキニ非レトモ多クハ村内ノ商家ヨリ購求セリ

地價 宅地ノ價格ハ廣島移民地ニ於テ一戸分九十八坪ニ付道路添最高二十五圓裡通り最低

三圓トス畑ハ一反歩ニ付五圓ヨリ七圓ニ至ル

風俗人情 廣島縣移民ハ明治二十一年頃ヨリ漸次柵屋ヲ新築シ今ハ二三茅屋ノ外悉ク相應ノ家屋ニ住ス概シテ節儉ニシテ能ク勤勞シ飲酒賭博ノ惡弊少ナシ共同事ヲ成スノ心乏シト雖トモ普通ノ漁村中ニ在テハ風俗堅固ナリト評セサルヲ得ス「アイヌ」ハ概シテ雜種ナリ其風俗總テ和人ノ下等ナル者ニ同シ

村經濟 明治廿九年幌茂尻穂香二村聯合村費豫算ハ四百十六圓ニシテ其十分ノ九ハ教育費ナリ學校基本財産トシテ村内ニ鯨海産干場二ヶ所ヲ有シ其坪數合セ二千三百二十八坪一ヶ年貸付料四百圓此外基本金七百九十圓アリ基本財産ノ收入ヲ以テ優ニ村費ヲ支辨シ得ルヲ以テ殊ニ村民ニ賦課スルコトナシ

教育 幌茂尻尋常小學校ハ明治十八年根室ノ花咲小學校分校トシテ創立シ同二十七年獨立ス目下授業料ヲ徴收セス就學生徒男四十二名女十三名大抵廣島移民地附近ノ兒童ニシテ字幌茂尻ヨリ來ルモノ十名厚別村ヨリ來ルモノ四名アリ

衛生 殊ニ記スヘキコトナシ廣島縣ヨリ移住セル醫師一名アリ

社寺 社寺各々一アリ嚴嶋神社ハ明治十五年廣島縣移民カ氏神トシテ祭ル所社格未タ定ラスト雖トモ該移民地ノ背後ナル高丘ニアリテ社殿整備ス法眞寺ハ同二十一年ノ創立ニ係リ眞宗本願寺派ニ屬ス

厚別村

地理 東ハオンチト一湖ヲ隔テ、幌茂尻和田昆布盛三村ニ接シ南ハ落石村及ヒ釧路國厚岸郡ニ隣シ西ハ遙ニ釧路國川上郡ニ至リ北ハ西別村ニ境シ北東ハ風蓮湖ヲ抱キテ走古潭村ニ對シ又海ニ瀕ス風蓮湖ハ周回十六里三十町南東ヨリ北西ニ延ヒ中部綫レテ二部ニ分レ當灰遠太ノ二口ニヨリテ海ニ通シ其水險シ風蓮川ハ村ノ中部ニアリ西境ヨリ發シ厚岸郡ノ境ニ至リ釧路國ノノコベリベツアンチベツ二川ヲ併セ北東ニ流レテ風蓮湖ニ注リ米當賀川ハ村ノ南部ニアリ厚岸郡ヨリ來リ東流シ更ニ北西ニ屈シテ風蓮湖ニ入ルオンチヤウシユベツ川ハ村ノ北西ニアリ亦東流シテ風蓮湖ニ注ク地勢一般高原ニ屬シ河岸及湖畔稍々低地アリ南東ノ高丘ニハ檜松蝦夷松等ノ針葉樹多ク其他ノ高原ニハ檜樺木白楊等ノ雜木繁茂シ低原ニハ楡柳赤楊アリ

原野 當村ハ根室郡ノ大部ヲ占メ地積頗ル廣大ナリ殖民地撰定報文ニハ之ヲ分テ厚別風蓮ヤウシユベツノ三原野トナス厚別原野ハ南方高丘地ノ麓ヨリ北方風蓮湖及ヒ風蓮川ニ至ル地積二千五百四十三萬餘坪其内十分ノ九ハ高原ニシテ乾燥ニ過クト雖トモ清冷ナル河川數多アリテ牧畜ニ適ス餘ノ十分ノ一ハ米當賀川附近ノ樹林濕地及ヒ泥炭地ニシテ膏腴ノ地ハ七八十萬ニ過キス風蓮原野ハ風蓮川ヲ隔テ、厚別原野ノ西北ニ連リ東風蓮湖ヨリ西釧路國境ニ至ル長大ナル原野ニシテ地積三千七百七十萬坪概テ高原ニシテ乾燥スト雖トモ放牧地トナスヲ得ヘク樹林平野ハ二百萬坪ニシテ排水セハ良好ナル土地トナスヲ得ヘシヤウシユベツ原野ハ南ハ高丘ヲ以テ風蓮原野ニ界シ北ハボンヤウシユベツニ至リ東ハ風蓮湖ニ面シ地積千六百三十六萬坪内千四百七十六萬坪ハ高原ニシテ放牧ニ適シ六十四萬坪ハ樹林平野ニシテ地味肥沃九

十六萬坪ハ泥炭地ナリ

沿革

厚別ノ名ハアイヌ語「アツウシユベツ」ニシテ楡川ノ義ナリ此川ハ風蓮湖ノ西畔ニアル細流ニシテ文化年間釧路國厚岸ヨリ通路ヲ此地ニ開ク其以前寛政ノ頃ハヒーデン(厚岸領)又ハアンチベツヨリ船ニテ下リ厚別ニ至リシト云フ幕府支配ノ時アンチベツニ通行屋ヲ置キ文政四年松前家復領ノ後通行屋ヲ厚別ニ移ス古來厚岸「アイヌ」ハ風蓮米當賀兩川ノ上流ニ於テ食料ノ鮭ヲ捕獲シタリシニ文政ノ初頃ヨリ根室場所「アイヌ」其下流ニ於テ留網引網ヲナシ上流ニ鮭ノ溯ラザルニヨリ厚岸「アイヌ」ヨリ訴出テ遂ニ兩川ノ留網引網ヲ禁ス安政年間オンチト一廻リト稱スル新道ヲ設ク然レモ多クハ厚別ヨリ船ニテ根室ニ至ル明治四年厚別ヨリオンチト一湖口ヲ經テ根室ニ至ル新道ヲ開キ漁場持藤野四郎兵衛其雇人大橋某ヲシテ渡守ヲラシム同九年厚別郵便局ヲ設ク同十年藤野柳田二人扶持米ヲ給シテ當灰遠太二處ニ渡守ヲ置キ風蓮湖東ノ往來ヲ通ス同十二年根室厚岸間道路ノ變更ニヨリ厚別驛舍並ニ郵便局ヲ廢ス同十七年遠太驛遞ヲ設ク同二十年頃ヨリ移民年々増殖シ今ヤ數所ニ部落ヲナスニ至ル

戸口 明治二十八年現在戸數七十六人口三百三十一内男百九十女百四十一トス南部仙臺地方ヨリ移リシモノ最多シ

部落

村内部落ノ首ナルチオンチト一湖口ノ西側ニシテ戸數二十餘漁業其他雜業ニ從事ス眞宗說教所等アリ次チ當灰トス風蓮湖口ノ南畔ニシテ戸數職業略ホオンチト一ニ同シ次チ米戸賀トスオンチト一ノ西凡二里ニシテ戸數十餘伐木及ヒ農業ニ從事ス次チ遠太トス驛舍渡守漁家五戸アリアツウシユベツハ今空シク本村ノ名ヲ存スレトモ一人ノ居住者

ナシ
 村ノ北部風蓮湖ノ西ナルウコイキウシ及ヒヤウシユベツニ出稼寄留三十八戸アリ内三十六戸ハ専ラ炭焼ヲ業トシ他ノ二戸ハ農作ヲナス此地ハ便宜上假リニ別海戸長役場ノ支配ニ委ヌ
運輸交通 根室市街ヨリオンチト一ニ至ル一里半遠太ニ至ル四里半ニシテ縣道ヲ通ス當灰ニ橋アリオンチト一湖口モ明治二十九年橋梁ヲ架ス遠太ニ驛舎アリ之ヨリ走古潭村ニ渡ルニハ船ヲ以テス此村又根室港トノ間ニ舟便アリ殊ニ風蓮湖畔ヨリ出ダヌ薪炭ノ如キハ皆船ニヨル根室ヨリオンチト一ニ至ル米一俵ノ運賃八錢乃至十錢其他船便ニヨルノ地ハ十錢トス風蓮川オンチヤウシユベツ川等ハ數里ノ間舟楫ヲ通シ得ヘキヲ以テ他日原野開拓ノ曉ハ其便少ナカラサラン又鐵道當原野ヲ經過スルカ若クハ厚岸及ヒ濱中へ通スル廢道ヲ修築セハ釧路國トノ交通便ナラン

生計

村民ノ職業ハ漁ト樵トニシテ傍テ農業ヲナス生計容易ナリト雖トモ未タ餘裕アラズ

漁業

當村ハ昔時鮭鱒ノ產出甚タ多カリシニ近年著シク減少シ目下鮭漁場四十九ヶ所鱒七ヶ所アレトモ營業スルニ足ルモノ少ナシ鮭ハ明治二十二年頃ヨリ漁獲シ今其漁場七ヶ所アリ各漁場皆根室市街人ノ所有ニ歸ス又「チカ」「コマイ」等ノ雜漁アリ或ハ鮭ニ製シ或ハ生ニテ根室ニ販賣ス明治二十八年水產製品左ノ如シ

品目	產額	單價	價百石	惣價
鮭 搾 粕	二、八〇八		六〇一	一六、八六四
雜 魚 搾 粕	六一		五八五	三五七

品目	產額	單價	價百石	惣價
鹽 鱒	一六		四七五	七六
鹽 鮭	一五一		一、〇六四	一、六〇七
計				一八、九〇四

農牧

蔬菜類ハ各自大抵之ヲ作ル又粟麥等ヲ作ル者數戸アリ一戸最多耕作地一町歩トス馬ハ遠太驛舎ニ數十頭アルノ外之ヲ飼養スルモノ少ナシウコイキウシヤウシユベツニ根室市街ノ放牧スル馬數凡百五六十頭アリ傍ラ炭ノ運搬等ニ使役ス

林業

建築材ハオンチト一米當價炭ハウコイキウシヤウシユベツ薪ハアツウシユベツ其他各所ヨリ出ダシ概ト根室市街ニ漕送ス伐木ハ冬期ノ業ナルヲ以テ此際各地ヨリ入稼キスル者多シ

商業

小賣商數戸アリ村民ハ之ヨリ日用品ヲ購求ス又直接根室市街ヨリ購入スル者アリ

風俗人情

村民數所ニ住居シ且土着年ヲ經ル者少ナキヲ以テ人心ノ統一ヲ欠キ公共事業ノ起ラサルハ止ムヲ得サル次第ナリ冬期入稼人ノ多キ際ハ賭博等ノ惡風行ハル、コトアリト云フ

教育其他

ニ就テハ未ダ設備アラズ唯オンチト一ニ本願寺ノ說教所及ヒ稻荷社アリ又同地ノ兒童數名幌茂尻小學校ニ通學スルノミ

走古潭村

地理

南ハ遠太ノ渡場西ハ風蓮湖ヲ隔テ、厚別村ニ對シ北ハ西別村ニ接シ東ハ海ニ瀕ス南

々東ヨリ北々西ニ亘ル狭長ナル小村ナリ蓋シ此地ハ風蓮湖ノ水ト海水トノ間ニ成レル一砂嘴ニ過キヌ全村砂地ニシテ赤楊、玫瑰、コケモ、等疎生ス

沿革 走古潭ノ名ハアイヌ語アリシコタンニシテ新村ノ義ナリ傳ヘ言フ往昔根室アイヌ酋チンペイト云フモノ威力アリ別海ノアイヌヲ此處ニ移シタルコトアリ依テ名ツク其後アイヌハ再ヒ別海ニ還レリト舊請負人ノ頃ヨリ漁舍アリテ鯨及ヒ鮭ヲ捕フ明治二十二年以來戸口増加ス

戸口 明治二十八年現在戸數三十六人口二百四ニシテ人口ノ三分ノ二ハ入寄留ナリ遠太ニ部落チナスノ外各處ニ散在ス

運輸交通 根室市街ヲ距ルコト四里半ニシテ遠太ハ渡船ヲ以テ通ス平常船舶ノ便アルヲ以テ貨物ハ皆之ニヨリテ漕送シ米一俵ノ運賃十錢トス但冬期ハ馬棧ヲ用ヒ其一臺ノ賃錢一圓二三十錢トス

生計 村民ノ職業ハ漁業雇ヲ主トナス又自ラ雜漁ヲ營ミ或ハ小賣營業等チナス者アリ冬期ハ伐木等ニ從事スルモノアレトモ概テ游手徒食ス生計ニ餘裕ナシ

漁業 鯨漁場二十二ヶ所アリ其漁舍各々數町ヲ隔テ、海岸ニ並列ス鮭漁場十二ヶ所鯨漁場四ヶ所アレトモ其内休業シ居ルモノ少ナカラス營業者ハ概テ根室市街ノ人ナリ明治二十八年水産製品左ノ如シ

品	目	産	額	單	價	百	付	石	總	價
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

鯨	搾	粕	四一三七		六三一				一六、〇八五	
雜	魚	搾	一二五		四四二				五五三	
鹽	鱈	粕	一五六		三七五				五八五	
鹽	鮭	計	二五四		一、一九六				三、〇三九	
									三〇、二六一	

農業

地味頗ル疲瘠ナレトモ各自需用ノ蔬菜ハ大抵之ヲ栽培ス馬ノ所有者數名アリ皆放牧ス

教育衛生

其質甚々惡シ

遠太ニ於テ兒童ヲ集メ讀書習字等ヲ教フル者アリ飲用水ハ井水ヲ用フレトモ

西別村

地理

南ハ走古潭村及ヒ厚別村ニ隣シ又風蓮湖ニ瀕シ北ハ一帯ノ丘陵ヲ以テ野付郡別海村ニ境シ東ハ海ニ面ス地形東西ニ長ク南北ニ狭シ海岸及ヒボンヤウシユベツ附近平地アリ餘ハ

高原ニ屬ス

原野

殖民撰定報文ニ謂フ所ノオチブナイ原野ハ當村ヨリ西別村ニ跨リボンヤウシユベツト西別川トノ間地積凡千二百八十七萬坪アリ其十分ノ六ハ稍々平坦ナル樹林地ニ屬シ他ノ十分ノ四ハ丘陵樹林ト濕地ト相半ハス概シテ放畜ニ適シ且平原ハ耕地トナスヘキ見込ナキニアラス

沿革 西別ノ原名スーウシユベツハ豊漁川ノ義ニシテ其地古來鮭ヲ以テ世ニ著名ナリ然レトモ番屋通行屋等ハ對岸ナル別海ノ方ニアリ今ノ西別村ノ方ニハ根室穂香ノ番入アイヌノ出稼キ番屋倉庫等アルニ過キス安政六年仙臺會津二藩ノ當國ヲ分領スルヤ西別川ハ舊ニ依リテ入會ヒ漁業セシメシニ會津藩ニ於テ出稼人ヨリ役魚ヲ徵セシテ以テ仙臺藩ヨリ訴出テ函館奉行ノ裁斷ヲ仰キタルコトアリ其後別海ハ進歩セシカ西別ハ戸口蕃殖セス唯漁場ノ増加シテ處々ニ漁舍ノ建テルヲ見ルノミ

戸口 明治二十八年現在戸數三人口二十六内男十五女十一ナリ

運輸交通 根室市街ヲ距ル凡七里漁場ノ貨物ハ皆船ヲ以テ出入ス又日用品ハ別海ニ於テ購求シ得ベシ

漁業 鯨漁場十五ヶ所鱒漁場九ヶ所鮭漁場十七ヶ所アリ鮭ト鱒トハ近年大ニ收穫ヲ減ス又雜漁アリ明治二十八年産スル所左ノ如シ

品目	産額	單價	總價
鯨 搾 粕	三、一八八	五九三	一八、八九四
雜 魚 搾 粕	一七一	五〇八	八六九
鹽 鱒	二五三	三四二	八六六
生 鱒	八二	二九九	二四五
鹽 鮭	五〇〇	一一四一	五、七〇七

生 鮭	計
一八四	一一、二〇四
二、二一五	二八、七九六

野付郡

地理 南ハ根室郡ニ隣シ西ハ釧路國川上郡ニ接シ北ハ標津郡ニ境シ東ハ海ニ枕ム野付半島殊ニ奇形ヲナシテ北東海中ニ突出ス野付ノ原名ノツケハ顯ノ義ニシテ此半島ノ岬端顯狀ヲナスヲ以テ名ツケシナリ郡ノ東西十六里半南北九里而積六十九方里アリ西境ニ西別岳アルノ外原野曠漠ニシテ西別川床丹川春別川當幌川チアル川等アリ乾燥ナル高原ノ間ニ濕潤ナル低原ヲ交フ高原ニハ檜、樺木、白楊、榭山櫻、黃蘗ノ類ヲ生シ低原ニハ榆、柳、赤楊等ヲ生ス殖民地撰定報文ニ所謂床丹、春別當幌三原郡ハ當郡ニアリテ尙南ニオチブナイ原野ノ一部北ニ標津原野ノ一部ヲ合ム海岸線ノ長サハ二十六里三十五町ニシテ平系村ノ海岸ハ高原ノ端直ニ海ニ臨ミ野付半島及ヒ別海附近ハ平低ナル砂地ナリ氣候ハ根室半島ニ比スレハ夏季暖ク冬季寒ク霧ハ殆ント其半ナリ冬春ハ北西及北ノ風吹キテ晴天多ク夏秋ハ南東乃至南西ノ風吹キテ曇天多シ郡ヲ分テ別海、平系、野付、茶志骨ノ四村トナス南ヲ別海村、中央ヲ平系村、北ヲ茶志骨村トシ半島東野付村トス

沿革 當郡ハ古來根室場所ニ屬シ別海ハ鮭野付ハ鯨ヲ以テ舊名ナリ寛政十一年幕府ノ東蝦

夷地ヲ支配セシ以來野付ハ千島ニ渡ル要津トナル開拓使ノ時別海ニ病院及ヒ鐘詰所等ヲ設ケ
根室市街ニ次テ發達シ野付ハ全ク衰微ス明治九年漁場大改革以後各處ニ漁場ヲ増シ平系村ハ
近年大ニ戸口ヲ増殖ス同二十八年全郡現住戸數百四十九人口八百九十二

重要産物

明治二十八年産額鯨九千四十一石鮭二千六百六十四石外鱈、海扇等種々ノ魚介
アリ鯨ハ平系野付二村ヲ最トシ鮭ハ平系西別二村ヲ主トシ雜魚ハ平系村ニ多シ其價格ハ鐘詰
ヲ合セ總計十三萬八千餘圓ナリ

概況

別海ハ郡ノ首邑ニシテ漁業及ヒ鐘詰所ノ雇又ハ商業ニ從事シ平系村ハ雜魚ヲ營ミ又一
漁業雇トナリテ生計ス野付村ハ唯漁舍アルノミ茶志骨村ハアイヌ部落ニシテ移民相交リ専ラ
漁業雇ニ從事ス之ヲ要スルニ郡民ニシテ鯨鮭ノ漁場ヲ有スルハ僅ニ數名ニシテ餘ハ皆根室市
街人ノ所有ニ係リ郡民ハ漁期之レガ雇トナリ又ハ各自小漁業ヲ營ムニ過キス故ニ餘資アル者
少ナシト雖モアイヌ人ノ外ハ亦生計ニ困スルヲ見ス

明治二十八年耕地二十二町歩ニシテ居民ハ概テ垣ヲ繞ラセル小畑ニ蔬菜ヲ作り以テ自家ノ用
ニ供ス同年馬數六百三十九頭牛數十九頭實際ノ數ハ之ヨリ多カラシニシテ一人百餘頭ヲ有ス
ルモノアリ各自隨意ニ原野ニ放牧ス樹木多クシテ薪ニ乏シカラス唯針葉樹乏シキヲ根室ノミ

別海村

地理 南ハ根室郡西別村ニ境シ西ハ原野遠ク延ヒテ釧路國境ニ至リ北ハ平系村ニ接シ東ハ
海ニ瀕ス西境ニ西別嶽アリ西別川之ヨリ發シ村ノ中部ヲ流レ蜿蜒三十里西別村ノ境ニ至リ海
ニ注ク水質清澄川口ノ幅三十間アリ別海ノ原名ベツカイエハ破レ川又ハ折レ川ノ義ニシテ其

下流ノ形狀ニ因リテ名ツケタルモノナリト云フ全村概テ高原ニ屬スレトモ下流ノ沿岸ヨリ海
濱ニ連リテ平坦ノ地アリ樹木ハ高原ニハ樺木、檜、白楊等多ク河岸ニハ赤楊、榆、柳多シ

原野

西別川下流ノ南ニオチテナイ原野アリテ西別村ニ跨リ北ニ床丹原野アリテ平系村ニ
跨ル又殖民地撰定報文釧路國ノ部ニ載スル所ノシカルナイ原野オンチベツ原野シツン原野ハ
其實根室國ニ屬シ西別川ノ上流ニ位シテ其大部ハ當村地内ニ在リ其地積廣大ナリト謂フヘシ

沿革

昔時ヨリ別海ト稱スルハ西別川口ノ北岸ニシテ番屋通行屋、上、下、切、庫等アリ明治二
年官野付病院ヲ此地ニ設ケ同六年根室支廳野付出張所ヲ置キ同八年廢ス同九年郵便局ヲ設ケ
同十一年鐘詰所ヲ建テ同十二年野付戸長役場ヲ置キ同十七年巡查派出所ヲ設ケ後警察分署ト
ナス同二十三年電信局ヲ開ク開拓使ノ中頃マテハアイヌ部落ノ外數戸ノ永住者アルニ過キサ
リシカ鐘詰所創立以來戸口増殖シ遂ニ一條ノ市街ヲナス近年其進歩殆ント停止シタレトモ尙
標津ニ次キテ國內ノ名邑タリ

戸口

明治二十八年現在戸數六十六人口四百一トス同二十九年六月警察分署ノ調査ニヨレ
ハ現在職業戸別ハ官吏四、農業二、漁業三、商業十一、工業六、醫師一、金貨一、舟乘一、雇業四十一、賣藥一
牛乳搾取業一、旅人宿六、雇人口入所一、酒造業一、湯屋一、貸座敷一ナリ例年鯨漁期最モ販ヒ鯨鮭ノ
漁期之レニ次キ冬期ハ甚タ寂寥ヲ極メ貸座敷湯屋ノ如キハ皆廢業スルヲ常トス

運輸交通

別海ハ根室市街ヲ距ル七里十五町又根室港トノ間ニ船舶往來シ貨物ヲ出入ス
電信郵便局アリテ通信便利ナリ西別川ハ七八里ノ間舟楫ヲ通シ得ヘキヲ以テ他日原野開拓ノ
曉ニハ該川ノ利用多カラシ又標津ヨリ西別川ノ上ヲ渡リ釧路國標茶ニ達スル小徑アリ上流原

野開拓ノ時ニ至ラハ此道路ノ修築亦緊要ナラン
 生計 村民ハ漁業雇及ヒ鐘詰所雇又ハ商業等ニヨリテ生計ス收利多クテスト雖トモ「アイヌ」
 ノ外困窮スルモノナシ

漁業 鯨漁場六ヶ所鱒漁場三ヶ所鮭漁場十ヶ所アリ此地ノ鮭ハ魚皮斑點ヲ生セス綠色ニシ
 テ腹部白ク頭小ニ肉肥ヘ紅色ヲ帯ヒ味最モ美ニシテ西別鮭ノ名ヲ以テ世ニ知ラル昔時夥シク
 群來セシカ近年大ニ減少ス惜ムヘシ明治二十八年水産品左ノ如シ

品目	産額	單價	百石付	總價
鯨 搾 粕	六一一	五七一		三、四九一
雜 魚 搾 粕	九一	四四七		四〇七
鹽 鮭	三四三	九六九		三、三一五
生 鮭	一七八	九〇二		一、六〇五
生 鱒	六三	三六〇		二二七
計				九、〇四五

製造 藤野鐘詰所ハ明治十一年官ノ設立ニ係リ同二十年藤野ニ拂下ケタルモノニシテ規模
 盛大專ラ近傍河海漁獲スル所ノ鮭鱒ヲ以テ鐘詰ヲ製ス同二十八年製造額鮭鐘詰十三萬二千四
 百二十斤此價一万九千八百六十三圓鱒鐘詰二十一萬二千二百二十一斤此價二萬八千六百五十
 圓其販路ハ海軍省其他各地方ナリ平素雇人十五六名鐘詰製造ノ日數ハ一ヶ年凡百二三十日

シテ此際殊ニ四十名乃至八十名ヲ雇役ス其賃錢ハ一日ニ付職工二十錢ヨリ七十錢普通雇男三
 十錢ヨリ四十錢女十七錢ヨリ二十三錢トス酒造家一戸アリ

農業 各戸概テ蔬菜ヲ作り自家ノ用ニ供ス作物ハ馬鈴薯蘿蔔大角豆葱胡瓜等ナリ間々粟玉
 蜀黍大麥等ヲ耕種スル者アレトモ收穫少ナシ但シ海岸ヲ離レ内部膏腴ノ地ニ入レハ相應ニ成
 熟スト云フ

牧畜 馬ノ總數二百三十頭持主十五名内一人ニテ九十七頭ヲ有スル者アリ皆放牧ナリ牛ハ
 持主三名其一名ハ十七頭ヲ有シ搾乳ヲ兼テ又毎歲二三頭ヲ屠殺シテ販賣ス牛ノ飼育法ハ一月
 ヨリ四月中旬迄舍飼シ枯草酒糟等ヲ與ヘ其他ハ晝ハ番人ヲ附シテ近傍ノ原野ニ放牧シ夜ハ畜
 舍ニ入ル一頭ニ要スル一ヶ年ノ經費ハ飼料及ヒ番人ノ給料ヲ合セ凡ソ十圓許ナリト云フ

開拓使ノ頃官牛數頭ヲ當地ノ「アイヌ」ニ下附シ蕃殖シテ十七頭ニ達セシニ數年前悉ク之ヲ賣却
 セリ其金現今二百四十餘圓アリテ戸長之ヲ管理ス

商業 此地ハ近傍諸村ノ市場ニシテ商家十二戸アリ其内一二戸ハ吳服荒物等種々ノ物品ヲ
 備ヘ店舗ノ体裁稍々觀ルニ足ルト雖モ餘ハ皆些少ノ物品ヲ商フニ過キス

風俗人情 當村ハ根室市街ニ次テ夙ニ開ケ村民多年土着セルヲ以テ人情穩カナリ「アイヌ」
 ハ甚懶惰ニシテ今尙茅屋ニ住シ當國「アイヌ」中最モ貧究ナル状態ヲナス

村經濟 當地ニ戸長役場アリテ別海平系野付西別走古潭五村聯合シテ村ノ經濟ヲナス明治
 二十九年經費豫算千五十二圓教育費其過半ヲ占メ村醫費之ニ次ク收入ハ基本財産收入及ヒ官
 ノ補助アリテ村民ニ賦課スルニ僅ニ二百八十四圓ノミ其賦課法ハ漁業割戸數割ノ二種トシ漁

業割ハ聯合各村ノ地内ニ於テ漁業ヲナスモノ四十三名其收穫高ニヨリテ之ヲ九等ニ分チ最低一圓最高六十三圓ヲ徵收ス戸別割ハ負擔者百四十名之ヲ九等ニ分チ最低四錢ヨリ最高九十四錢ニ至ル

基本財産トシテ海産干場二ヶ所アリ其坪數千五百餘坪ニシテ一ヶ年貸料四十二圓ナリ又別海小學校基本財産トシテ平系村字バラサンニ二千五百坪ノ海産干場ヲ有ス鯨鯨鮓共ニ收穫アリテ一ヶ年貸料六百二十一圓餘ナリ貸附法ハ三ヶ年ヲ以テ一期トナシ入札ニ附ス

教育 別海尋常小學校ハ明治十四年ノ創立ニ係リ生徒凡ソ五十名アリ其基本財産ノ收入ハ經費ヲ支辨シテ餘アルヲ以テ授業料ヲ徵收セス

衛生 明治二年開拓使根室出張所ヨリ醫師ヲ當地ニ派シ後病院ト爲ス同二十二年之ヲ廢シテ村醫ヲ置ク村醫費二百四十圓ニシテ官ヨリ五十六圓ヲ補給セラル

社寺 根室開法寺ノ出張所アリ又神社アレトモ社格未タ定マラズ

孵化場 西別川ノ上流ニ鮭魚人工孵化場アリ明治二十三年ノ創始ニシテ根室漁業組合ノ經營ニ係リ毎歲六七百萬粒ヲ孵化ス

平系村

地理 南ハ別海村ニ接シ北ハ野付茶志骨二村ニ隣シ西ハ漸ク狹ク尖頭ヲナシテ盡キ東ハ海ニ瀕シテ野付半島ヲ望ム全村高原ニシテ其端海ニ臨ミテ斷崖ヲナシ其下ニ概チ狹キ砂地ヲ存ス平系ノ原名「ピラエド」ハ崖鼻ノ義ナリ南部ニ床丹川アリ中部ニ春別川アリ北部ニ當幌川アリ共ニ原野ノ濕地ニ發シ東流シテ海ニ注ク樹木ハ高原ニハ檜樺木白楊ノ三種最多ク河畔ニハ樺

赤楊榆等ヲ生ス氣候ハ海岸ハ別海ヨリ暖カニシテ春季開花ノ期早キコト五六日ナリト云フ

原野 當村ヲ分テ床丹春別當幌ノ三原野トナス床丹原野ハ西別川床丹川ノ中間ニシテ別海村ニ跨リ其面積四千五百九萬餘坪其四分ノ三ハ丘陵樹林地他ノ四分ノ一ハ草原濕地泥炭地及ヒ樹林濕地ナリ春別原野ハ床丹川以北春別川以南ニシテ其面積三千六百八十八萬餘坪其四分ノ三ハ丘陵樹林地四分ノ一ハ樹林濕地ニ屬ス當幌原野ハ春別川トチアル川トノ間ニシテ其面積七千二百四十二萬餘坪其五分ノ四弱ハ高原樹林地五分ノ一強ハ平野樹林濕地ナリ右諸原野ノ高原丘陵ハ概シテ乾燥ニ過クト雖トモ牧畜ヲナスニ適シ河岸低地ニハ間々肥沃ノ地アリ又濕地モ泥炭地ヲ除クノ外ハ排水ヲ改良スルヲ得ベシ

沿革 昔時床丹ニ一二戸ノ「アイヌ」居住ス明治十八年春別ニ驛遞ヲ設ク當時村内ニハ漁舍ノ外床丹ニ一戸ノ雜業者アルニ過キサリシカ同二十三年頃ヨリ年々移住者アリテ急速ノ發達ヲナセリ

戸口及ヒ部落 明治廿八年現住戸數四十六人口三百廿二ニシテ本籍人ト入寄留人トノ割合ハ四ト一男ト女トノ割合ハ三ト二ナリ重ナル居住地ハトリサンケナイヨリ床丹ニ至ル海岸ニシテ凡二十四五戸アリ春別ニ驛舍ヲ始メ五六戸アリ餘ハ各處ノ海岸ニ散在ス

運輸交通 別海ヲ距ルコト北方ピラエドニ二十町床丹ニ二里半春別ニ四里トス縣道ナレトモ道路粗惡ナリ根室港ヨリ時々船舶來リテ貨物ヲ出入スルヲ以テ不便ヲ感セサルモノ、如シ床丹川春別川等ハ其下流舟楫ヲ通シ得ヘキヲ以テ他日原野開拓ノ時ニ至ラハ其利用少ナカラサラン

生計 村民ハ大抵各自雜漁ニ從事シ又鯨鮭ノ漁夫トナリ生計ス冬期業ハ伐木ナリ富者ナシト雖トモ亦生活ニ困セス

漁業 鯨ヲ最トシ鮭之ニ次ク海扇鮭チカ蝦等雜漁ノ多キコト近村ニ冠タリ漁場數ハ鯨十九ヶ所鮭二十五ヶ所鱈九ヶ所雜魚三十四ヶ所ニシテ明治二十八年産スル所左ノ如シ

品目	産額	單價	總價
鯨 搾 粕	五、九七三	六〇四	三六、〇八三
雜 魚 搾 粕	三〇五	四三四	一、三二四
生 鮭	一四〇	三六〇	五〇四
鹽 鱈	三九	四二〇	一六四
生 鮭	八〇	八九八	七一八
鹽 鮭	六三七	九八三	六、二六三
海 扇 身	一九	六、七二六	一、二七八
計			四六、三三四

農牧 自家食用ノ蔬菜ハ各自大抵之ヲ作ル馬數ハ二百六十三頭持主十三人ニシテ春別驛舎ノ所有ハ百二十頭ニ達ス皆原野ニ放牧セリ

林業 雜木多キヲ以テ薪ニ饒ナリ數年前迄ハ盛ンニ炭ヲ燒キテ根室港ニ輸出シタリシカ近年官林木ノ拂下ヲ嚴ニシ炭竈ヲ制限シタルヲ以テ今ハ床丹川畔僅ニ四戸ノ炭燒ヲ存スルノミ

商業 村民ノ日用品ハ根室港ヨリ直接ニ漕送スルモノ多シ又別海及ヒ村内ノ小賣商ヨリ購買スルモノアリ村内小賣商ハ數戸アリテ各處ニ散在ス

教育其他 學校ナク寺社ナシ冬期ニ至レハドリサンケベツニ於テ兒童ヲ集メ讀書習字等ヲ教フルモノアリ

野付村

地理 野付村ハ茶志骨平系二村交界ノ處ヨリ南東海中ニ斗出スル狹長ナル小半島ニシテ其端更ニ西ニ曲リテ平系村ニ對シ其間ニ水淺キ灣ヲ成シテ數個ノ小島ヲ有ス半島ノ外海ニ向ヘル海岸ハ凡六里アリ平滑ニシテ出入ナク北東國後島ト相對ス半島ノ内灣ニ沿ヘル海岸ハ屈曲出入頗ル多シ全村平坦ナル砂地ニシテ檜樺赤楊檜松等アリ蓋シ此奇形ナル半島ノ成生ハ國後島ト本地トノ間ニ於ケル海流ノ動作ニヨリテ此水道ノ海底ニ南北ニ走レル砂ノ堆積ヲ生シ其最モ著シキモノ陸地ニ接シ終ニ此半島ヲ成セルナラン水質甚タ不良ニシテ夏季蚊ノ多キコト他ニ比類稀ナリト云フ

沿革 當村ハ往古鯨ノ豐漁地ニシテ又國後島ヘ渡ル要津タリシヲ以テ番屋通行屋及數多ノ倉庫アリ其渡海ハ厚別ヨリ野付ニ至ル海路十里野付ヨリ國後ニ至ル海路四里トス開拓使以後汽船ノ航海スルニ及ヒ此航路自ラ廢ス明治三年函館産物掛ノ當地ヲ管理スルヤ能登ノ農民十戸二十七人南部津輕ノ大工職二戸五人鍛冶職二戸二人ヲ募リテ此地ニ移シ十八ヶ月間補助シテ漁業及ヒ開墾ニ從事セシメシカ補助ノ期盡ルヤ皆離散シテ別海其他各地ニ移リ爾後移住者ナク唯漁場ノ増加セルノミ

戸口 一人ノ本籍者ナシ漁合海岸處々ニ在リテ春鯨秋鮭ノ季節數百人ノ入稼者アリト雖トモ其止リテ越年スルハ僅ニ漁合ノ番人ノミ

運輸交通 船直接ニ根室港ト往來ス又平系村ヨリ船ヲ以テ渡ル陸路ハ標津ニ至ルヲ以テ便トナス其里程村ノ南東端ヨリ凡七里

漁業 嘉永ノ初頃迄ハ鯨ヲ豊産シ一ケ年凡一萬石ヲ漁獲シタルコトアリシニ其後漸次薄漁トナリ殊ニ近年著シク減少セリ鯨ニ次テ鮭鱈ヲ産ス目下漁場ノ數鯨三十ケ所鮭三十ケ所鱈十三ケ所アリ明治二十八年産スル所左ノ如シ

品	目	産	額	單	價	百石	惣	價
鯨	榨	鮭	一、五五六	石	六〇八	石	九、四六〇	石
鯨	鮭	鮭	一五三		三七八		五七八	
鯨	鮭	鮭	三八七		一、〇四九		四、〇六〇	
計							一四、〇九八	

茶志骨村

地理 南東ハ平系野付二村ニ接シ北ハ標津郡標津村ニ隣シ北東海ニ面ス海岸砂地ニシテ濱ヲ距ル數十間餘ニシテ高原トナルチアル川南西ヨリ來リ海岸ニ近ツキ更ニ南東ニ折レ海岸ニ並行シテ流レ野付灣ニ注シ昔時此海岸ヲ舟行スルモノ往々舟ヲ挽テ此川ニ入レ野付灣ニ下リ以テ野付半島ヲ迂廻スルノ不便ヲ避ケタリト云フ茶志骨ハアイヌ語「チャシコツ」ニシテ岩跡ノ

義ナリ

原野

テアル川ノ南當幌原野チアル川ノ北標津原野ノ各一部ハ當村ニ屬シ河岸ノ地ヲ除クノ外皆高原樹林ニシテ放牧ニ適ス

沿革

當村ニハ昔時ヨリ番屋倉庫及ヒアイヌ部落アリ明治十八年遠藤勇馬ナル者此地ニ土着シ漁業ニ精勵ス爾後年々多少ノ移住者アリ

戸口

明治二十八年現在戸數三十五人口百六十五ニシテ其内八十四人ハアイヌナリ

運輸交通

標津市街ヲ距ルコト南東一里弱ニシテ便利ナリ

生計

村民ノ三分ノ二ハ雇業ニ從事シ漁場ニ出稼ヲ爲シ冬ハ伐木ヲナス概シテ裕ナラズ

漁業

鯨漁場十ヶ所鮭漁場八ヶ所鱈漁場十四ヶ所雜魚漁場三ヶ所アレトモ休業シ居ルモノ少ナカラス明治二十八年水産製品左ノ如シ

品	目	産	額	單	價	百石	惣	價
鯨	榨	鮭	三三五	石	六〇八	石	二、〇三七	石
鯨	鮭	鮭	三六一		三七八		一、三六五	
鯨	鮭	鮭	六〇八		一、〇四九		六、三七八	
計							九、七八〇	

農事

根室縣ノ時アイヌニ農具種子ヲ與ヘ毎戸一反歩ヲ開墾セシム其後彼等ハ之ヲ嫌ヒ概子荒蕪ニ委ヒシガ近年漁利ノ減スルニ從ヒ復々皆多少ノ耕作ヲサシ馬鈴薯蘿蔔ヲ以テ食ヲ補

ヘリ和人モ亦大抵自家用ノ蔬菜ヲ作ル遠藤勇馬ハ凡一町歩ヲ耕作シ粟黍大豆小豆茄子等ヲモ栽培セリ

牧畜 穂香ニ遠藤牧場アリ馬内國種三十五頭牛雜種十二頭牧場ハ四萬坪ニシテ未ダ成功セズ馬ハ牧場外ニ放飼シ唯秋季畑ヲ侵スノ憂アルヲ以テ牧場ニ入ル牛ハ夏期放牧シ冬期舍飼シテ刈菁草蕪等ヲ與フ

商業 村内日用品ハ之ヲ標津市街ニ仰ク又小賣商二戸アリ

風俗人情 「アイヌ」ハ雜種多ク衣食住トモ和人ニ同ウシテ生活ノ度ハ下等ナリ茅屋ニ住スルハ數戸ニ過キズ

教育其他 當村ハ標津ニ隣接シ學校、村醫等皆標津村ニ組合ヘリ故ニ村内ニ其設ケナシト雖トモ大ナル不便ヲ感セス

標津郡

地理 南ハ野付郡ニ接シ西ハ釧路國川上郡ニ境シ北ハ目梨郡及ヒ北見國斜里郡ニ交ハリ東ハ海ニ瀕ス東西十一里三十二町南北ハ中部廣ク兩端狹ク其廣キ所ニテ六里二十七町海岸ハ僅ニ一里十町ノミ地積四十八方里餘アリ其地勢西北境ハ千島帶山脉連亘シ目梨郡トノ境ニベクンチウシヌアリアリ斜里郡トノ境ニサマツケヌアリ標津岳アリ其高何レモ三千餘尺ニ達シ南西ニ赴キ漸ク低ク舊斜里山道ニ至リテ千五百六十餘尺トナルケチウオイカベツマタオチムサ等數多ノ川流山脉ノ南側ニ發シ東南ニ流レテ悉ク標津川ニ合シ東流シテ海ニ注ク又山脉ノ南東側ハ漸ク降リテ高原トナリ南方野付郡ノ高原ニ連續ス殖民地撰定報文ニハ當郡ノ原野ヲ分

テ標津、ムサ、中割ノ三トナス山地ニハ檜樺木、樞松、蝦夷松等繁茂シ高原ニハ檜樺木、楓、樺、槐等多ク河岸ニハ柳、樺、榆、赤楊等混生ス氣候ハ野付郡ニ比シ大差ナシト雖モ夏時稍々温暖ニシテ冬期ハ山地積雪多シ霧ハ根室半島ニ比スレハ著シク減少シ殊ニムサ原野ハ氣候ノ溫和ナルコト根室國中第一ト稱セラル

郡内唯二村ノミ南ニ在ルヲ標津村ト云ヒ北ニアルヲ伊茶仁村ト云フ
根室ヨリ北見ニ通スル縣道ハ當郡ノ海岸ヲ經過ス又根室港ヨリ船舶往來シ運輸便ナリ故ニ旅客ハ陸ニ依リ貨物ハ船ヲ以テ出入ス

沿革 古來根室場所ノ一部ニシテ標津及ヒ伊茶仁ニ番屋倉庫並ニアイヌ部落アリテ鯨鱒ヲ漁獲ス文化年間標津川ニ沿ヒ北見及ヒ釧路ニ通スル徑路ヲ開ク明治九年漁場改革以來漸次移住者アリ同十八年瑠邊斯山道ヲ開キ斜里ニ通シ舊道自ラ廢ス同二十年頃ヨリ數年間著シク進歩セシカ近年躊躇シテ進マス同二十八年現在戸數二百七十五、人口千六百九十六

重要産物 鮭ヲ主トナシ鱒、鯨、鱒、之レニ次ク然レトモ全郡海濱少ナキヲ以テ其産額亦多クラス明治二十八年輸出スル所一萬三千餘圓ニ過キヌ同二十九年鑑詰所ヲ設ク今後主要産物トナラン

概況 當郡ハ根室國北部ノ要地ニシテ且北見國へ通スル衝ニ當ルト雖トモ水産多カラズ今後ノ發達ハ原野開拓ノ時ヲ俟タサル可ラサルノ形狀ナリ全部唯二村ノミニテ殊ニ其概況ヲ記スルノ要ナシ當ニ村ノ部ニ就テ看ルヘシ

標津村

地理

南ハ茶志骨村ニ接シ北ハ伊茶仁村ニ隣リ東ハ海ニ面ス海岸低原ニシテ其西方段階ヲ登レハ高原遠ク連リ千島帶山脉ノ南麓ヲ經テ釧路及ヒ北見ノ國境ニ至ル標津川ハ北見國境ヨリ發シ南東ニ流レ數多ノ河流ヲ集メ村ノ南部ヲ過キ北東流レテ海ニ注キ水勢緩徐舟楫ヲ通スルヲ得ベシ村名シベツハアイヌ語ニテ大川ノ義ナリ植物氣候等ハ郡ノ部ニ説ク所ノ如シ

原野

標津原野ハ南ハチフル川北ハ標津川支流ムサ川西ハマオチ川ヲ限リ標津川ノ左右ニ跨リ地積四千二百十九萬坪内二千八百餘萬坪ハ丘陵七百六十餘萬坪ハ泥炭地五百八十餘萬坪ハ平原ナリムサ原野ハムサ川以北目梨郡界ニ至リ西ハ山嶽ヲ以テ限リ當村ヨリ伊茶仁村ニ跨ル原野ニシテ地積四千二百八十七萬坪弱其大部ハ丘陵ニ屬ス中割原野ハマオチ川以西釧路國境ニ至リ地積三千七百四十八萬坪餘内二千六百五十九萬坪ハ丘陵樹林八百三十三萬坪ハ丘陵草原餘ノ二百五十六萬坪ハ平原樹林又ハ草原ナリ右諸原野ハ概テ乾燥ニ過クト雖トモ清冷ナル河流多ク最モ農牧ノ業ニ適ス河岸ニハ處々肥沃ノ地アリ

沿革

標津ハ古來西別ニ次ケル鯉ノ豊産地ニシテ且斜里山道ノ要衝ニ位シ番屋通行屋ヲ置キ數十戸ノアイヌ部落アリ明治九年郵便局ヲ設ケ同十二年戶長ヲ置キ同二十三年電信局ヲ設ク移民ノ土着セルハ明治九年以後ナリシカ同十三年頃ヨリ稍々繁榮シ遂ニ別海ヲ凌キ同二十二年鯉豐漁ノ際最モ賑ヘリ爾後盛況ヲ呈センコトナシト雖トモ戶口ハ年々増殖セリ

戶口

明治二十八年現住戶數二百二十二人口千三百四十七青森岩手二縣ヨリ移リタル者最多ク新潟石川宮城秋田諸縣ノ人之ニ次ク又之ヲ職業ニヨリテ區別スレハ漁業者ハ他郡ヨリ來リ營業スル者ヲ併セ二十四名ニシテ漁業雇ハ村民ノ三分ノ一ヲ占ム其他商業三十戶工業二十一

戶農業四戶官吏七戶船乘八戶宿屋八戶料理屋飲食店五戶貸座敷五戶金貸三戶醫師一戶代書人一戶雇人受宿一戶湯屋一戶等ナリ

市街

村民ハ標津川ノ下流ニ沿ヒ南北ニ連擔シテ市街ヲナス其他標津巨梨二郡及ヒ野付郡北部ノ中樞ニ當リ又根室ヨリ北見へ通スル道路ノ要衝ニ當ルヲ以テ繁昌シ國中根室市街ニ次ケル名邑ナリ戶長役場警察分署郵便電信局漁業組合事務所村醫小學校藤野雜詰所等アリ

運輸交通

根室市街ヲ距ル十五里十五町アリ此地ヨリ北見國斜里ニ達スル十四里三十三町トス又根室港ヨリ和船往來シ漁船モ亦間々來ルコトアリテ貨物ヲ出入シ其賃錢ハ米一俵ニ付十錢ナリ舊斜里山道ノ細徑アリテ北見釧路兩國ニ通スルヲ以テ他日原野開拓ノ時機ニ至リ之ヲ修築セハ其便利少ナカラザラン

生計

村民ハ漁業商業其他種々ノ業ニ從事シ相應ノ資産ヲ有スル者アリ事業略定リ奇利ノ博スベキモノナシト雖トモ其生計概シテ安固ナリト謂フヲ得ベシ

漁業

漁塲數ハ鯉四ヶ所鱈十ヶ所鯉十六ヶ所アリ明治二十八年水産製品左ノ如シ

品	目	産	額	單	價	總	價
鯉	搾	粕	三六〇	石	五六〇		一一、〇一六
拾	鯉	搾	三七		四四〇		一、七八四
鹽	鯉	鱈	四四六		四〇〇		四、八七七
鹽	鯉	鯉	五一五		九四七		

計

八、八四〇

製造 明治二十九年藤野鐵詰所ノ設立アリ同年ハ鱈ノミヲ以テ鐵詰ヲ製造セシガ以後ハ鱈
 鮭共ニ用フト云フ又酒造ヲナス者アリ

農業 蔬菜類ハ各戸概テ栽培シテ自家ノ用ニ供ス農ヲ以テ本業トナス者ハ僅ニ四戸ニシテ
 一戸七八反歩乃至一町二反歩ヲ耕ス畑ハ市街附近及ヒ標津川岸ニシテ川岸ノ地最モ膏腴ナリ
 作物ハ馬鈴薯蘿蔔ヲ主トシ葱午房甘藍等之ニ次ク又傍ラ大麥蕎麥燕麥玉蜀黍等ヲ作ルモノア
 リ開墾費ハ一反歩凡三圓ニシテ最初ハ肥料ヲ施サスシテ馬鈴薯ヲ作リ次ニ適宜肥料ヲ用テ蔬
 菜ヲ作ル七八年間當地ニテ經驗シタル農家ノ說ニ據レハ雜穀ヲ耕作スルモ相應ノ利益アリ唯
 間々凶歲ニ逢フテ佳良ナル種子ヲ絶ツコトアルモ再ヒ良種ヲ得ルコト容易ナラズ若シ種子供
 給ノ便ヲ得ハ年々繼續シ之ヲ作ルヲ得ヘシト

牧畜 牛ハ三頭ニシテ其所有者二名馬ハ三百六頭ニシテ其所有者十二名ナリ日常使役スル
 モノ、外ハ皆原野ニ放牧シ完全ニ牧畜ヲ營ムモノナシ

商業及ヒ金融 商家三十戸アリ近隣諸村ノ市場トシテ諸種ノ貨物ヲ商ヘリ物價ハ根室市
 街ニ比シ平均一割ヲ増スト云フ金融ハ春練秋鮭ノ季節繁劇ニシテ夏冬ノ二季緩慢ナリ利子ハ
 一ヶ月ニ付二分乃至五分ニ至ル又間々五分以上ノ高利ナキニアラス

雇賃 一日ニ付男四十錢乃至六十錢女二十錢乃至三十錢ニシテ季節ト職業トニヨリテ高
 下アリ月雇男三圓乃至五圓女一圓乃至四圓トス

地價 宅地ノ價ハ市街ニテ一坪ニ付平均四圓畑地ノ價ハ一反歩ニ付平均九圓ナリ

風俗人情 一時ノ寄留者ヲ除クノ外ハ概テ此地ニ安堵シ人心穩カナリアイヌハ總計九十

一人アリ其生活ノ狀和人ノ下等ナルモノニ同シ

村經濟 戸長役場アリテ標津日梨二郡ノ諸村及ヒ野付郡茶志骨村惣計七ヶ村ヲ管轄シ各村
 公共ノ經費ヲ共同支辨セリ明治二十九年年度支出豫算千三百五十二圓ニシテ教育費其半ヲ占メ
 村醫費警備費之ニ次ク支出ニ對スル收入ハ基本財産ヨリ生スルモノ其半ヲ占メ村民ニ賦課ス
 ルハ五百七十一圓ナリ其賦課法ハ戸別割營業割ノ二種ニシテ戸別割ハ之ヲ十五等ニ分チ一戸
 最低十一錢ヨリ最高九圓三十一錢ニ至リ二百八十一戸ニ賦課ス營業割ハ全ク漁業者ニ課シ鯨
 鱈鮭ハ收穫十石ニ付十三錢六厘鯨釣舟ハ一艘ニ付六十五錢トス

標津伊茶仁茶志骨三村ノ普通基本財産及ヒ學校基本財産トシテ海産干場四ヶ所アリ其一ハ標
 津川畔三百五十坪鱈鮭兩漁ノ貸付料一ヶ年三百三圓弱其一ハ伊茶仁川畔百三十九坪鮭漁ノミ
 ニテ貸付料一ヶ年二十六圓其一ハ標津川畔千五百坪鮭漁ノミニテ貸付料一ヶ年百三圓他ノ一
 ハ二百六十坪ニシテ未タ收入アラズ此外宅地建物ヲ所有シ其貸付料一ヶ年三十四圓合計收入
 四百六十六圓弱トス其貸付法ハ特別契約ニヨル者ナキニアラスト雖トモ概テ入札ニ附シ期限
 ナニケ年トシ毎年貸付料ヲ前納セシム此外日梨郡各村基本財産アリ後ニ記スベシ

教育 標津尋常小學校ハ明治十七年ニ創立シ目下生徒凡八十名授業料ハ生徒一名一ヶ月五
 錢乃至二十錢ナリ

衛生 明治十三年標津日梨二郡人民ノ請願ニヨリ官醫員一名ヲ當地ニ派シ患者ヲ治療セシ

同十六年公立病院ヲ設ケ後改テ村醫ヲ置ク其一ヶ月俸給二十圓ニシテ官ヨリ經費ヲ補助ス
 社寺 神社アレトモ社格未タ定ラス寺ハ曹洞宗龍雲寺及ヒ眞宗説教所アリ
 人工孵化場 標津川上流ニ標津漁業組合ノ鮭魚人工孵化場アリ明治二十八年孵化發眼ノ
 數三十八萬五千五百粒トス

伊茶仁村

地理 南ハ標津村ニ接シ北ハ目梨郡忠類村ニ境シ東ハ海ニ枕ム海岸ハ標津ヨリ續ケル平低
 ノ原野ニシテ西ニ距リテ高原トナリ千嶋帶山脉ニ至ル伊茶仁川アリ「イチャニ」ノ名ハ鮭ノ産卵
 場ノ義ナリ

原野 ムサ原野ハ標津村ヨリ當村ニ跨リ大抵高原ニ屬シ最モ農牧ノ業ニ適ス

沿革 伊茶仁川ハ古來鮭ノ豊産地ニシテ番屋倉庫アリ「アイヌ」數戸居住セリ明治二十二年ノ

大漁ニヨリ戸口俄ニ増殖シタリ「シ」ガ其後不漁ノ爲メ毫モ進歩セス去テ國後島其他へ出稼スル
 モノアリテ今ハ却テ衰微セリ

戸口 明治二十八年現在戸數六十三人口三百五十二内「アイヌ」八二十二トス伊茶仁川口ノ兩

側海岸ノ砂地ニ聚落チナス官吏一戸金貸二戸農業一戸漁業十二戸商業七戸工業三戸雇業十七
 戸古物商一戸料理屋飲食店二戸宿屋四戸湯屋一戸アリ

運輸交通 標津村ノ北凡一里目梨郡ニ赴ク海岸道路ト北見國ニ到ル留邊斯山道ト分歧ス

ル處ニ在リ交通便利ナリ

生計 近年漁利ノ減少ニヨリテ生計困難ノ狀アリ

漁業 漁場ハ鮭五ヶ所鱒二ヶ所鮭十九ヶ所雜魚二ヶ所アリ其村民ノ所有ニ屬スルハ僅ニ數
 所ノミ明治二十八年水産製品左ノ如シ

品	目	産	額	單	價	百	付	石	總	價
鮭	計									
鮭	鮭		三三七			九三〇				四、五一
鮭	鮭		六〇			五六〇				三、三三
鮭	鮭		一六八			五六〇				九四一

農業 村民ハ大抵各自食用ノ蔬菜ヲ作ル馬數凡九十頭其所有者四名ナリ

商業 小賣商七戸アレトモ店舗ノ体裁ヲ備フルモノハ二三戸ノミ酒造家一戸アリテ清酒濁

酒四五十石ヲ醸造シテ販賣ス

風俗人情 生計ノ困難ナルニヨリテ大ニ節儉ヲ守リ冬期ノ如キハ馬鈴薯ヲ多ク食スル者

教育 標津小學校ノ分校アリ明治二十五年ノ創立ニシテ現在生徒凡三十名

目梨郡

地理 知床半嶋ノ東側ニ在リ南ハ標津郡ニ隣シ北西ハ千島帶山脉ヲ以テ北見國斜里郡ニ境
 シ東ハ海ニ面ス地形細長ニシテ南北ハ十九里ニ亘リ東西ハ其南部最廣キ所ニ於テ十三里漸ク
 北ニシテ漸ク狹ク知床岬ノ南東ペンケポールニ至リテ盡ク面積五十六方里海岸線ノ長二十三

里二十一町目梨ノ原名「メナシユ」ハ東風ノ義ニシテ其東方海ニ面スルヲ以テ名ツク斜里郡トノ境界ハ高嶺峻岳綿亘シ山脚延キテ海岸ニ至リ斷崖絶壁多シ唯南方一帶ノ高原ヲ存ス殖民擬定報文ニ所謂忠類原野是ナリ山ノ最高キハ長牛岳ニシテ海拔五千九十一尺ニ達ス川流數多アリ皆急流ニシテ舟楫ノ便ナク唯忠類原野諸川木材ヲ流下スルヲ得ベシ樹木ハ樺木檜黃蘗刺楸檜松蝦夷松等繁茂シ忠類コタノカ葦別ノ三官林最モ良材ニ富ム河岸ニハ樺榆赤楊等ヲ生ス原野ハ黑色壤土ニシテ乾燥ニ過シト雖トモ農牧ニ適シ河流ハ原野ヲ侵蝕シ河道低下谿谷ノ狀ヲナス氣候ハ樺津郡ニ似テ冬期雪多シ

郡ヲ分テ忠類葦別崎無異植別ノ四村トナス南ヨリ北ニ並列シ植別村最大ナリ

道路二條アリ一ハ海岸ニ沿テ各村ヲ經過シ其内五里ハ既設道路アリ其以北長牛マテハ測量中ナリ一ハ根室ヨリ北見ニ達スル道路ニテ南方ヲ經過ス海岸ハ冬期ノ外根室港ヨリ和船往來シ貨物ヲ出入スルヲ以テ便利ナリ根室港ヨリ米一俵ノ運賃各村共凡十錢トス

沿革 古來根室場所ニ屬シ數所ニ「アイヌ」部落アリテ鮭鱈ヲ漁ス文化以來太ニ産額ヲ増ス明治九年漁場改革以後年々漁場ノ數ヲ増シ一旦廢絶シタル鮭鱈ハ同十三年ヨリ再興シ同二十年頃ヨリ著シク進歩シ次テ北部雜漁ノ業起リ長牛ノ如キハ俄ニ繁榮ヲ致セリ

重要産物 明治二十八年水産物ハ鮭凡一萬石鱈四千八百石鱈千八百石大鱈二千二百石鱈六百石ニシテ價格惣計十六萬餘圓ニ達ス鮭鱈ハ各村ニ産シ鱈大鱈ハ植別村ニ産ス當郡各村材木ニ富ミ其産額詳カナラスト雖トモ近頃根室港へ輸出スル所一ク年凡一萬五六千石ニ至ル

概況 全郡海岸段階アルヲ以テ人民ハ處々川口ノ低處ニ就キテ部落ヲナス忠類コタノカ葦

別崎無異長牛等はナリ其中稍々勝レルハ葦別ニシテ近頃發達セルハ長牛ナリ沿海長ク漁利裕ナリト雖トモ鮭鱈ノ漁場ハ藤野四郎兵衛佐藤久右衛門其他根室函館人ノ所有ニ歸シ郡民ノ之ヲ有スルハ僅ニ數名ノミ故ニ郡民ハ大抵漁業雇ニ從事シ且各處ニ林業アリ植別村ニハ鱈大鱈等ノ雜漁盛ナルヲ以テ人民ハ之ニ依リテ土着セリ未ダ富裕ナル者アラスト雖トモ亦生計ニ困スル者ナシ植別村ハ漁業尙發達スベキ見込アルヲ以テ近年移民増加シ大ニ活氣ヲ帶ヘリ農作ハ僅ニ各自需要ノ蔬菜ノミニテ全郡耕地二十二町歩餘ニ過キス牛馬ノ數ハ合計二百頭許ナレトモ一ニノ牧畜熱心者アリ樹林ハ濫伐ト野火トノ弊害ニヨリテ急速ニ荒廢スベキ傾向アリト雖トモ能ク注意シテ保護セハ永ク當郡ノ一大産物ヲラシ

人民ハ長キ海岸處々ニ散在スルヲ以テ教育衛生等ニ關スル設備完全ナル能ハス忠類葦別長牛等ノ三所ニ私設小學校アリ葦別長牛ノ二所ニ醫師アリト雖トモ未ダ以テ普ク郡民ヲ利スル能ハサルノ憾アリ戸長役場ハ標津村ニアリテ不便甚ダシ

忠類村

地理 南ハ標津郡伊茶仁村ニ境シ北ハ葦別村ニ隣シ西ハ北見國斜里郡ニ接シ東ハ海ニ枕ム海岸ヨリ直ニ高原トナリ西方千島帶山脈ニ至ル南西境殊ニ高クサマツケヌアリベクンチウシヌアリノ峻嶺アリ全村原野ト山地ト略ホ相半ハス忠類川ハサマツケヌアリニ發シベクンチウシヌアリノ北ヲ過キ原野ヲ東流シテ海ニ注ク其長十一里半アリ「チウルイ」ノ名ハ「アイヌ」語急流川ノ義ナリ該川ノ北一里ヲ隔テ、コタノカ川アリ樹木ハ樺木檜檜松最多シ氣候ハ夏期温和ナレトモ冬期ハ積雪稍々多ク瑠邊斯驛舍ノ邊ハ凡一丈ニ達シ二里塚ノ近傍ハ凡三尺ニシテ海岸

ニ近ツクニ從ヒ漸次減少ス
 原野 忠類原野ハ南ハ標津郡モサ原野ニ連リ北ハ葦別村コタンケシユチ以テ界ヲ限リ面積千五百四十六萬餘坪アリテ其五分ノ四弱ハ樹林地五分ノ一餘ハ草原ニ屬シ總テ乾燥スレトモ地味惡シカラス農牧ノ業ニ適ス

沿革 往古ヨリ忠類ニアイヌ部落アリテ鮭ヲ漁ス明治九年以來漸次漁場ヲ増ス同十三年忠類ヨリ葦別ニ至ル道路ヲ開ク同十八年瑠邊斯山道ヲ開キ驛舎ヲ置キ同二十九年糸櫛別驛舎ヲ設ク明治二十年頃ヨリ年々各處ニ戸口ヲ増加セリ

戸口及ヒ部落 明治二十八年現在戸數六十一人口二百八十一内アイヌ三十八人トス主要ノ部落ハ忠類及ヒコタノカニシテ共ニ同名ノ川口ナル低處ニ在リ忠類ハ二十五六戸コタノカハ十五六戸ナリ又瑠邊斯道路ノ側ニハ二里塚ニ四戸糸櫛別ニ驛舎一戸金山ニ一戸瑠邊斯ニ驛舎一戸アリ

運輸交通 海岸道路ハ標津ヲ距ル忠類ハ二里コタノカハ三里瑠邊斯道路ハ忠類川ノ谿谷ニ沿ヒ西方山ヲ越テ北見國斜里ニ出ツ標津ヨリ糸櫛別へ三里十七町留邊斯へ七里十七町又海岸へハ根室港ヨリ舟便アリテ貨物ノ出入概子之ニ依ル

生計 村民ノ職業ハ漁業雇及ヒ樵夫木挽ノ類ニシテ裕ナラスト雖トモ亦困究スルモノヲ見ス

漁業 鮭ヲ主トシ又少シク鱈及ヒ雜魚ヲ捕フ漁場ハ鮭十四ヶ所鱈七ヶ所鮭二十二ヶ所アリテ概子根室市街人ノ所有ニ係ル明治二十八年水産製品左ノ如シ

品目	産額	單價	總價
鮭	二、二七〇	五六〇	一一、七二二
鱈	一〇	四〇〇	四〇
鮭	九四四	九三二	八、七九八
計			二一、五五〇

農業 蔬菜ハ各自大抵之ヲ作ル其作物ヲ標津ニ搬出シテ販賣スルモノ一戸

牧畜 牛馬ノ所有者ハ僅ニ數名ノミ久保田森次郎ハ牛短角雜種其他二十餘頭ヲ有シテシテニ九萬九千坪ノ牧場アリ既ニ木柵ヲ繞ラセトモ大抵自宅ノ近傍ニ放飼セリ瑠邊斯驛舎ニハ馬

凡四十頭アリ夏期ハ皆近傍ニ放牧シ十一月ヨリ翌年五月迄ハ半數ハ其地ニテ舍飼シ半數ハ雪少ナキ伊茶仁ノ原野ニ送り牧丁一人ヲ附シテ飼養セシム

林業 常村ハ原野ヨリ山地ニ至ルマテ深林ニシテ殊ニ針葉樹ニ富ムヲ以テ建築材ヲ伐採シ

根室港其他ニ輸出ス其額實ニ甚少ナラス忠類ニテ角材百石伐出シ運賃三十五圓根室港マテノ運賃十八圓ナリ最初海岸近キ所ヨリ伐出セシカ今ハ一里乃至三里ノ奥ニ入ラサレハ良材ヲ得

ル能ハスト云フ海岸並ニ留邊斯道路ノ附近野火ノ跡甚多シ嘆スヘキナリ

商業 小賣商四戸アリ村民ハ大概日用品ヲ標津ヨリ購求ス但シ漁舍ノ需用品ハ根室港ヨリ漕送ス

目梨郡各村基本財産 コタノカニ海産干場百二十六坪アリ鮭漁場ニシテ一ヶ年賃料三

百圓ナリ又薰別村コモンケシニニ鮭干場二百二十坪ヲ有シ此貸料一ケ年十圓ナリ
 教育 忠類ニ私設小學校アリ教員一名生徒十二名村費ヨリ教員月俸八圓ヲ支給ス村民數處
 ニ分レ相隔タルヲ以テ普ク兒童ヲ通學セシムル能ハス
 孵化場 忠類川ニ標津漁業組合ノ鮭人工孵化場アリ明治二十五年ノ創設ニ係ル此川昔時鮭
 ノ溯ルコト盛ナリシカ近年著シク減少シ廿八年ニハ親魚ヲ伊茶仁川ニ捕獲シテ不足ヲ補ヒ僅
 ニ百二十九千九百粒ヲ孵化セシム
 温泉 瑠邊斯驛舎ノ南方谿間ニ温泉湧出ス
 薰別村

地理 南ハ忠類村ニ接シ北ハ崎無異村ニ境シ東ハ海ニ枕ミ西ハ千島帶山脉ヲ以テ北見國斜
 里郡ニ隣ス西部ハ悉ク山嶽ニシテ其脚東ニ傾キテ高原トナリ忠類原野ノ一部ヲナシ其階段海
 ニ臨ミテ斷崖ヲナスコト忠類村ニ均シ薰別川西境ヨリ發シ東ニ流レ海ニ注ク薰別ノ原名クシ
 チベツハ黒川ノ義ニシテ此川ニ産スル魚黒キカ故ニ名ツクト云フ
 沿革 昔時アイヌ部落アリテ漁業ヲナス明治九年頃ヨリ移住者ナリ同十三年ヨリ十末年
 テハ鮭ノ大漁ニテ賑ヘリ其後漁獲減少シ戸口ハ稍々増加スト雖トモ復タ以前ノ如キ盛況ヲ呈
 セスト云フ

戸口 明治二十八年現在戸數四十一人口百九十五内アイヌ入二十五トス南部地方ヨリ移
 シモノ最多シ村民皆薰別川口ノ北岸低處ニ住シ郵便局巡査駐在所村醫及ヒ商店數戸旅人宿二
 戸料理屋一戸アリ日梨郡中ノ好部落ナリ

運輸交通

標津ヲ距ルコト四里又根室港ヨリ和船來リテ貨物ヲ出入ス

生計

村民多クハ漁業雇トナリ冬期ハ材木薪ヲ伐採ス生計稍々可ナリ

漁業

漁場ハ鮭五ヶ所鱈三ヶ所鮭十ヶ所アリ概チ根室市街人ノ所有ナリ又少シク雜魚ヲ産
 ス明治二十八年水産製品左ノ如シ

品目	産額	單價	總價
鮭 鮭	二、三三五	五六〇	一三、三〇〇
鮭 鮭	二二	四四〇	九二
鮭 鮭	一	四〇〇	四
鮭 鮭	一三三二	九三二	一、一六二
計			一五、五五八

農牧

居民ハ概チ自家用ノ蔬菜ヲ作ル馬ハ七十餘頭アリテ其所有者ハ四人ナリ

林業

忠類村ニ同シク檜松蝦夷松ニ富メルヲ以テ村民ハ一里乃至三里ノ奥ニ入り冬期之ヲ
 伐採シ角材トナシ根室港ニ輸出ス

商業

米ハ根室港ニ仰キ吳服類ハ多クハ標津ニ赴キテ購求ス又村内數戸ノ商店アリテ雜貨
 ヲ販賣セリ

地價

宅地ハ一坪凡一圓畑ハ一反歩凡九圓ナリ海産干場ノ價ハ詳カナラサレトモ鮭網一統
 ニ付千圓以下ノ漁場ナシト云フ

風俗人情 村民居住稍々久シキヲ以テ人心靜穩ニシテ此地ニ安堵スルモノ、如シ

教育其他 日蓮宗ノ説教所アリ其僧侶村内ノ兒童ヲ集メテ教育シ其報酬トシテ村費ヨリ月俸七圓ヲ給ス又當村外二村共同ノ村醫當地ニ居住シ其月俸十五圓ニシテ官ヨリ一ケ年五十圓補給セラレ

基本財産 當村基本財産トシテ村内ニ海産干場二千坪アリ鯨漁場ニシテ一ケ年貸付料百二十五圓ナリ

孵化場 蕪別川ニ標津漁業組合ノ鮭人工孵化場アリ明治二十八年孵化發眼僅ニ四十萬四千粒ノミ此川昔時ハ鮭魚夥シク湧上セシガ近年著シク減少シ年々豫定ノ親魚ヲ捕フルコト能ハスト云フ

崎無異村

地理 南ハ蕪別村北ハ植別村ニ接シ西ハ千島帶山脉ヲ限リ東ハ海ニ面ス地勢蕪別村ニ均シク唯山ト海トノ間漸ク狭クシテ原野少ナシ西境ニウナベツ岳アリサキベモイ川其東側ヨリ發シ急流七里ニシテ海ニ入ル

沿革 崎無異ノ原名「サキベモイ」ハ鯨灣ノ義ナリ昔時アイヌ部落アリヲ鯨ヲ獲シ鯨漁ノ時ニハ野付ニ赴キ鮭漁ノ時ハ標津ニ到リマルコト舊記ニ見ユ其後鮭鯨ヲ漁シ又鯨ヲ捕フ明治二十年頃ヨリ移住者ヲ増シ同二十三年頃ハ略ボ三十戸トナリシカ其後不漁ニヨリテ稍々戸口ヲ減セリ

戸口 明治二十八年現在戸數二十人口七十五ニシテ「アイヌ」人ハ今僅ニ四名ノミ村民皆崎無

異川口ノ低處ニ住ス

運輸交通 標津ヲ距ル北方五里蕪別ヲ距ル北方一里ナリ根室ヨリ舟便アルコト他村ニ同シ

生計 村民ノ重ナル職業ハ漁業雇ニシテ冬期ハ伐木ニ従事ス生計餘裕ナシト雖トモ亦糊口ニ究スルコトナシ

漁業 漁場ハ鯨九ヶ所鮭六ヶ所鮭十四ヶ所アリ其所有者ニシテ村内ニ現住スルハ一名ノミ大鮭ハ明治二十七年マテハ相應ノ漁獲アリシカ今ハ減少シテ殆ント營業スル能ハス同廿八年

水産製品左ノ如シ

品目	産額	單價	總價
鯨 搾 粕	二、五三六	五六〇	一四、二〇二
鹽 鮭	六六	四〇〇	二六四
鹽 鮭	六六三	九三二	六、一七四
計			二〇、六四五

農牧 各自食用ノ蔬菜ヲ作ル相澤米治ハ漁業ノ傍牧畜ニ熱心シ牛馬各々數十頭牧場七萬坪ヲ有ス牧場ニハ燕麥「チモセー」レツドトツフ等ヲ播種シ且畜舎馬厩等ノ設ケアリ牛馬ハ平常概テ牧場外ニ放牧ス即チ馬ハ毎朝一回招集シ多少ノ飼料ヲ與ヘテ再ヒ放チ冬ハ一歳二歳ノ兒馬及ヒ雜種ニ限リテ舍飼ス牛ハ夏期晝間放牧シ夜間ハ畑ヲ侵スノ患アルヲ以テ舍ニ入レ冬期ハ一切舍飼ス

基本財産 海産干場一千坪アリ鯉漁場ニシテ目下一ヶ年貸付料百八十圓

植別村

地理 根室國ノ北端ニ在リ南ハ崎無異村ニ接シ東ハ海ニ瀕シ北ハ漸ク細クシテ盡キ西ハ千島帶山脉ヲ以テ北見國斜里郡ニ隣リス其境界ニハ北ニウーイヌプリサマツキヌプリ中央ニ長牛岳南ニウナベツ嶽アリ地形東西狭ク南北長ク全村皆山嶺ニシテ南方崎無異村ニ接スル處少許ノ高原アリ沿海線十五六里ニ達シ海岸多クハ絶壁峭立シ北スルニ從ヒ巖巖崎嶇頗ル險惡ナリ植別川ルクシユベツ川シユムカルコタン川長牛川留斜川モイレウシ川等數多ノ川流アリ悉ク急流ニシテ水質清澄飲料ニ適ス樹木ハ郡ノ部ニ記スル所ノ如シ

沿革 植別ノ名ハ村ノ南方ニ在ルウエンベツヨリ起ル即チ惡川ノ義ナリ聞ク此川邊ニアイヌ部落アリシニ疫疾流行シテ其居處ヲ轉シタリト此地最初ハ鱒ヲ主トシ次ニ鮭ヲ漁シ安政ノ頃既ニヨコマフタツカルウシツニシベツチトライニ番屋倉庫アリ明治九年漁場改革以來漸次新ニ漁場ヲ加ヘ同十七八年頃ヨリ鯉鮭ヲ始メ同二十一年ヨリ鱒釣ヲ試ミ次テ大鱒釣ヲナシ何レモ好結果ヲ得テ戸口年々増殖ス蓋シ鯉鮭ノ漁業ハ唯漁期入稼漁夫ヲ招クニ過キサレトモ雜魚ノ漁業ハ小漁民ヲ土着セシムルヲ以テ大ニ其地ヲ發達セシムルヲ得ルナリ

戸口 明治廿八年戸數五十五人口二百三十八ト稱スレトモ其外表面入稼者ニテ内實土着ノ委チナスモノ少ナカラサルヲ以テ實際ノ戸口ハ前記ノ數ヨリ多シ南部仙臺越後秋田加賀等ノ移民相混シ近頃越中ヨリ來ル漁民多シ

部落 部落ノ主要ナルヲ長牛トナス長牛川口ノ低地ニシテ現在戸數凡五十此地明治二十年頃ハ漁舍及ヒ數戸ノ移民アルニ過キサリシニ爾後年々發達シ其初メ茅屋ニ假居シタリシカ同二十七年ヨリ柵屋ヲ建築スルモノアリ今ハ概チ木造家屋トナリ郵便局村醫寺院ヲ設ケ宿屋二戸飲食店四戸小賣商七戸湯屋一戸アリ實ニ急足ノ進歩ヲナセリ長牛以南ハ漁舍ノ外シユムカルコタン近傍ニ凡十戸植別其他各處ニ一二戸乃至四五戸散在ス長牛以北ハ處々漁舍アルノミ

ニテ未タ土着永住スル者アラス

運輸交通 標津ヲ距ルコト植別ハ七里長牛ハ十二里半ニシテ崎無異村ヨリ長牛ニ至ル七里半ノ間ハ既設ノ道路ナク海岸山脚ノ下僅ニ存スル砂礫ノ地ヲ歩スルヲ以テ往來甚タ不便ニシテ目下官開鑿スヘキ線路ヲ測量シ居レリ長牛以北ハ尙幾ニ行クヲ得レトモ知床岬ニ近キ四里ノ間ハ船ノ外通スル能ハスト云フ陸路ノ不便斯ノ如クナレトモ海路ハ根室港ヨリ船舶往來シ

生計 重モナル職業ハ雜魚釣リ及ヒ漁業雇ニシテ冬期ハ漁場需要ノ薪ヲ伐採ス新開地ニシテ未タ生計ニ餘裕テ生セスト雖トモ其生活容易ナリ

漁業 當村ノ漁業ハ南方ヨリ漸次北方ニ及ボシ今ハ知床岬ノ南一里半ノ地ニ至ル漁場數ハ鯉廿七ヶ所鱒十八ヶ所鮭七十二ヶ所ニシテ概チ根室函館漁業家ノ所有ニ係ル鱒大鱒漁ハ多クハ村民ノ營業スル所ニシテ明治二十九年其船數九十九艘ナリ明治二十八年水産製品左ノ如シ

品目	産額	單價	總價
鯉	四、〇八六	百石	二二、八八二
鱒		百石	
鮭		百石	

雜魚	一、五二三	三五〇	八、八三一
棒	一、七七〇	六四〇	一一、三二八
鹽	五二二	四〇〇	二、〇四八
鹽	二、九二六	九三二	二七、二七〇
昆	八	四〇〇	三二
計			七二、三九一

雜漁ノ業ハ當地ヲ繁榮セシムルヲ以テ其景況ヲ概記セン其魚類ハ鱈大鯿ヲ主トシ良牛ノ近傍凡二里ノ間ヲ好漁場トナシ漁家ハシユムカルクダンヨリ良牛ノ北ニ至ル數里ノ間ニ散在シ専ラ配繩ヲ以テ釣獲ス營業船數ハ明治二十四年三艘、二十五年十艘、二十六年二十八艘、二十七年六十六艘、二十八年七十四艘、二十九年九十九艘ニシテ營業者ハ一艘乃至三艘ヲ有シ一艘ニ付七八名ノ人夫ヲ使役ス但シ其内二名ハ婦人ニシテ製造ノ業ニ當リ主人モ亦漁夫ノ内ニ混シテ其業ヲ執ル漁夫ハ給料ヲ以テ雇フモノアリ歩方ヲ以テ利益ヲ配當スルモノアリ歩方ノ法ハ營業者ニ於テ船繩米贈等一切ヲ支辨シ收穫ノ七分ヲ取り餘ノ三分ヲ漁夫ニ配當スルヲ普通トス而シテ其營業者亦資本ニ乏シキヲ以テ十中ノ七八ハ根室商人ヨリ仕込ヲ受クルト云フ漁期ハ三月下旬ヨリ大鯿其他雜魚ヲ釣リ始メ五月六月ハ鱈ヲ主トシ七月以後復タ大鯿ヲ釣リテ十二月ニ至ル鱈ハ乾シテ棒鱈トナシ大鯿其他雜魚ハ粕ニ製ス又十月下旬以後ハ生魚ニ鹽ヲ施シテ根室港ニ輸出スルモノアリ船一艘ニ付一ケ年收穫平均四百圓ナリト云フ

農業

蔬菜類ハ僅ニ之ヲ作ル牛馬ハ之ヲ所有スルモノナシ

林業

薪ハ皆冬期近傍ニテ伐採ス良牛ニテ一敷ノ價一圓二十錢乃至一圓五十錢建築材ハ目下植別近傍ヨリ出スノミ同處ニ造船ヲ業トスル者アリ依頼ニ應ジテ小船ヲ製造ス

商業

米其他重要ノ品ハ各自概テ根室港ニ仰グ村内ノ小賣商ハ大抵些少ノ雜貨ヲ販賣スルニ過キズ

雇賃

一日ニ付日雇人夫四十錢ヨリ五十錢大工五十錢ヨリ六十錢雜漁ノ漁夫ハ食物ヲ給シテ一ケ年凡五十圓

地價

宅地ハ良牛ニテ一反步百五十圓海產干場ノ價ハ詳カナラサレ建網一統ニ要スル鯨鮭ノ干場賃料ハ一漁期ニ付各三百圓雜漁船一艘ニ要スル干場賃料ハ一ケ年ニ付十五圓乃至廿五圓

俗風人情

新開地ノ常トシテ活氣ヲ帶フト雖トモ人心尙着實ナラサル所アリ良牛ニ四戸ノ飲食店アルヲ以テ其一班ヲ知ルニ足ル可シ

教育其他

良牛ニ眞宗ノ寺アリ其寺僧兒童ヲ集メテ教育シ村費ヨリ毎月三圓ヲ給ス

孵化場

良牛川ニ標準漁業組合ノ鮭人工孵化場アリ明治二十五年ノ創立ニシテ廿八年卵數二百十三萬八千粒ヲ孵化ス該組合四個ノ人工孵化場中年々豫定ノ卵數ヲ孵化セシメ得ルハ唯

溫泉

良牛川口ヨリ上凡ソ一里ニ溫泉アリ明治二十一年始テ浴室ヲ設ク其地幽邃以テ俗塵ヲ洗フニ足ル明治十八年溫泉ノ近傍噴裂シ山ヲ崩シ川ヲ遮リテ一湖ヲ生シ同二十七年復タ泥土ヲ噴出ス亦以テ地學研究ノ材料ニ供スヘシ

75
61

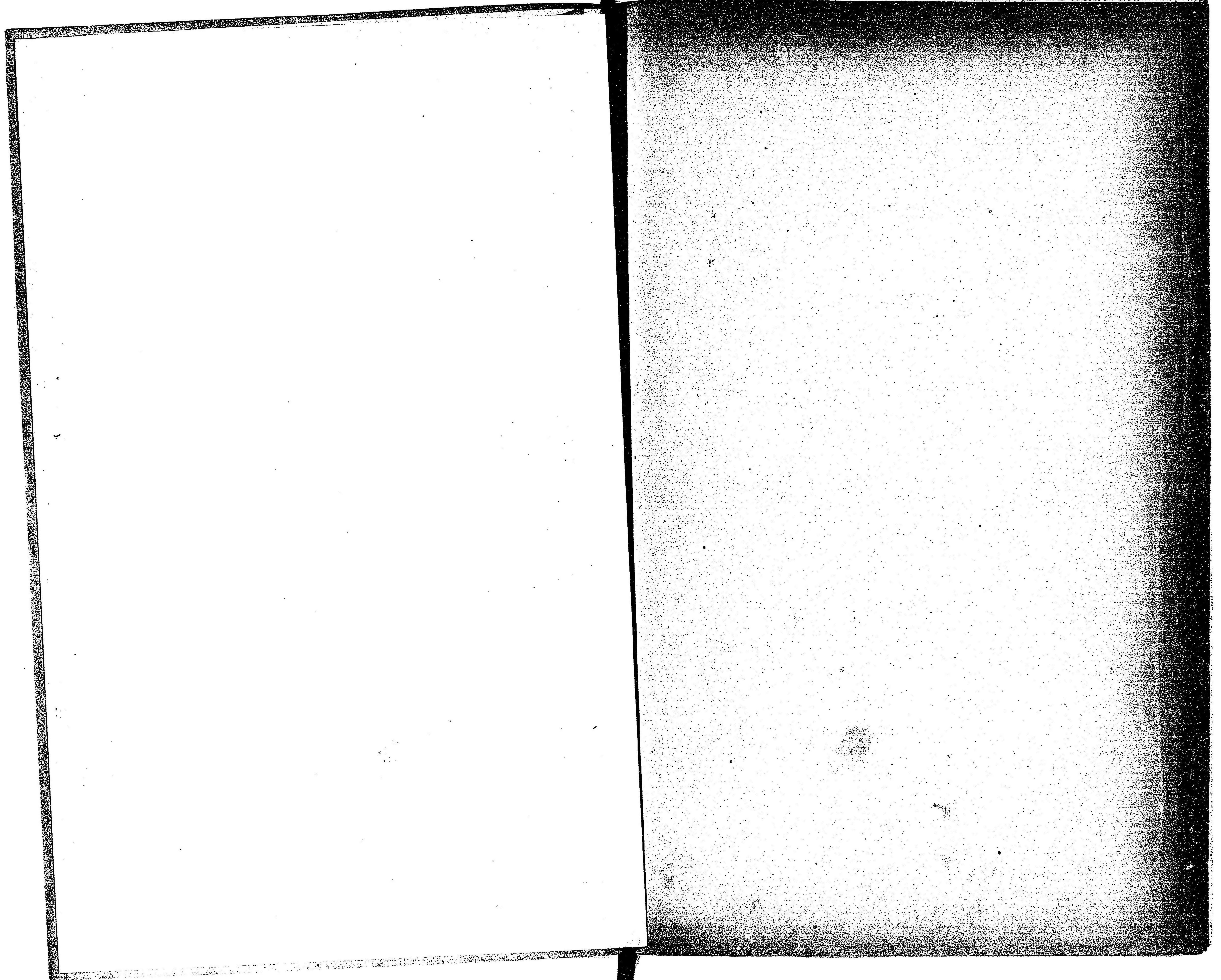
北海道殖民狀況報文

日高國

明治三十一年三月二十五日印刷
明治三十一年三月二十八日發行

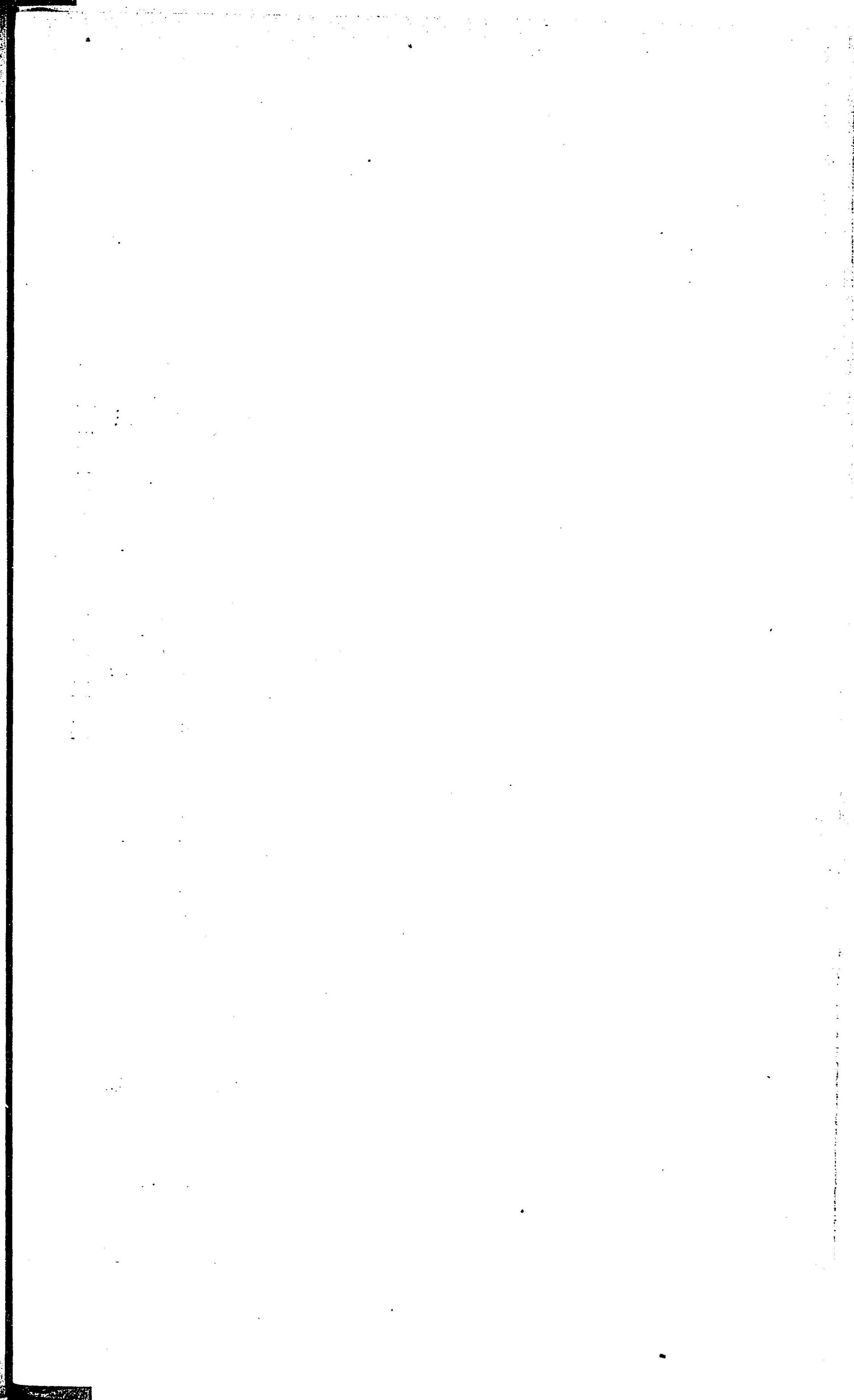
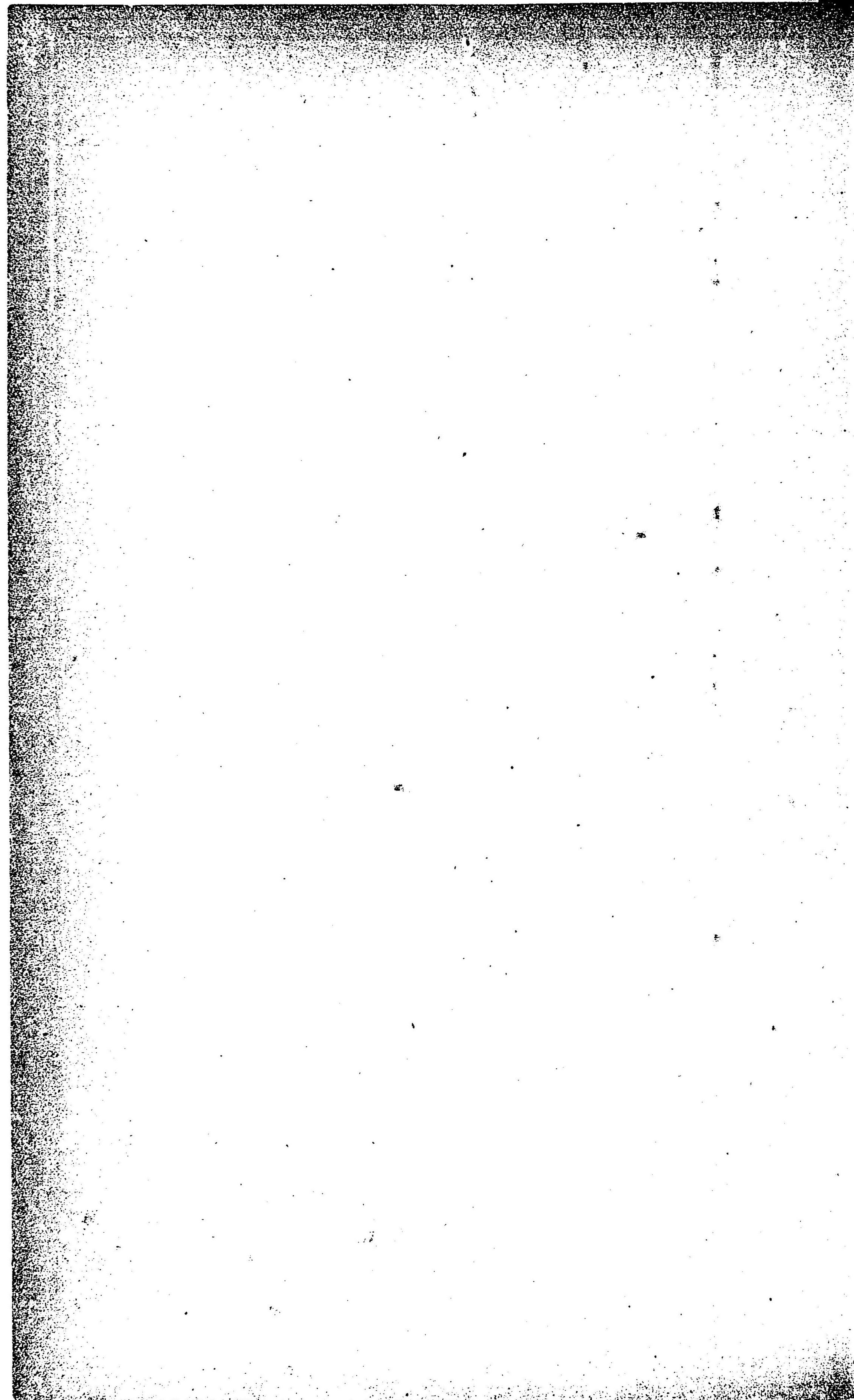
北海道廳殖民部拓殖課

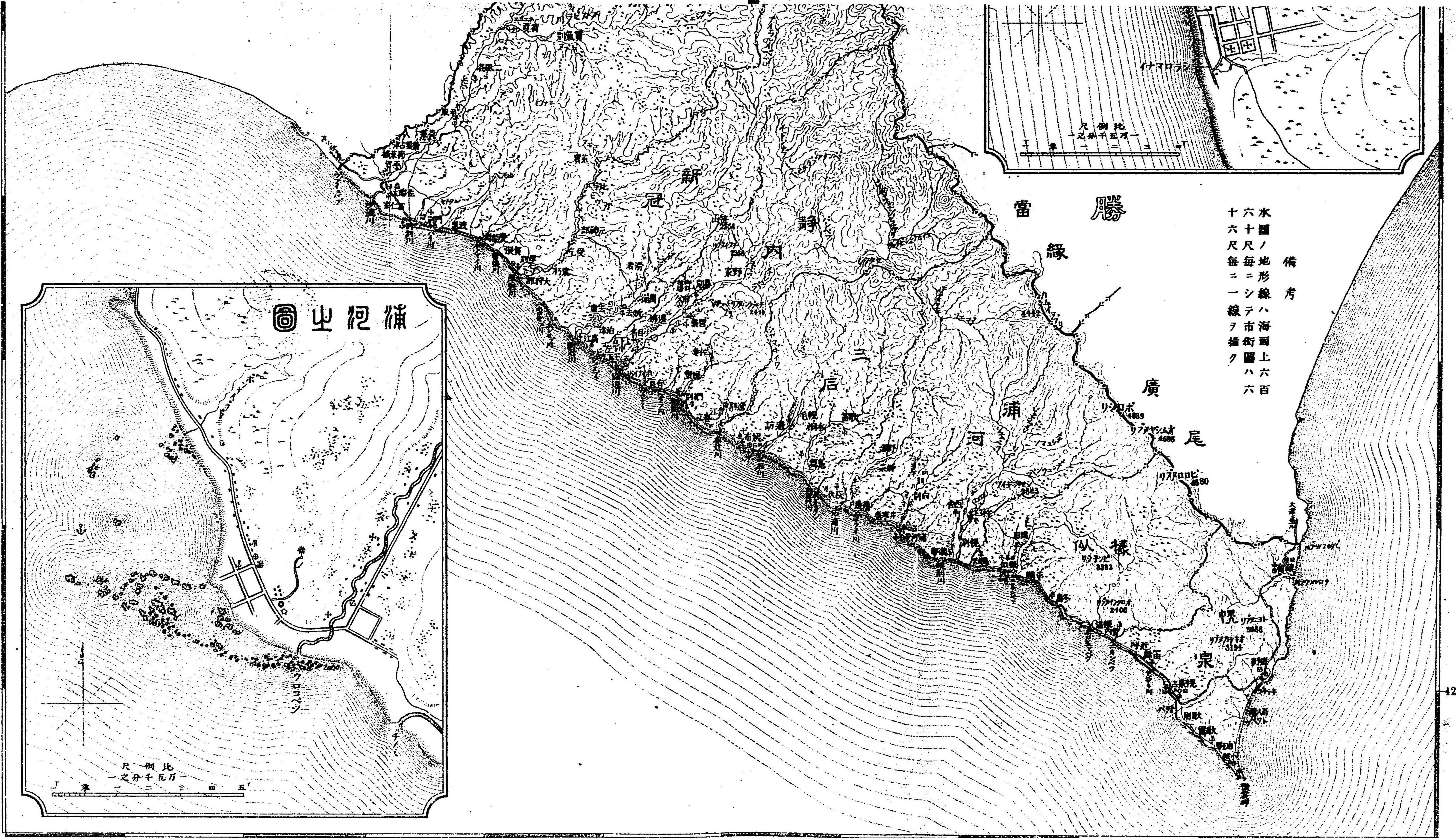
札幌南二條西三丁目一番地文藝堂活版所
印刷者 野 副 又 六



北海道殖民狀況報文日高國正誤

頁行	誤	正	頁行	誤	正	頁行	誤	正
例言一	四關スル	關スル	同五二	宮城産組合	宮城産馬組合	同二六	五靜内	靜謐
前編二	四腕艇	腕艇(以下之レ)	同五二	得ナルモノアラシ	得ザルモノアラシ	同二六	六礎繁	礎繁
同二	高三千八百六尺	(高三千八百六尺)	同五二	砂金	砂金(以下之レ)	同二六	八西岸ニ浴ヒ	西岸ニ浴ヒ
同二	ニトヨニ沼	コトヨニ沼	同五二	石炭、砂金	石炭、砂金	同二六	八幌去	八幌
同三	傾斜	傾斜	同五二	痕跡	痕跡	同二六	三亦レニ	亦之レニ
同三	低	低	同五二	イモン	イモン	同二六	四概松	概松
同三	始ント	殆ント	同五二	欠乏	欠乏	同二六	七來リテ物	來リテ貨物
同四	七壤土	壤土	同五二	搬出シテ	搬出シテ	同二六	七舞舞ニ	舞舞ニ
同四	八存ス所	存スル所	同五二	推茸	推茸	同二六	七稍ニ	稍々
同五	九出類	爬虫類	同五二	商人ヲシテ	商人ヲシテ	同二六	六一反地	一反歩
同五	九濫觸	濫觸	同五二	商業者互ニ	商業者互ニ	同二六	五融群	融解
同六	一駒油	油駒	同五二	於ケル	於ケル	同二六	五粗合	粗食
同六	二鍛治	鍛治(以下之レ)	同五二	取引スルハ、吳服	取引スルハ、吳服	同二六	五粗食	粗食
同六	三ベシトアリ	ベシトカリ	同五二	自作シ	自作シ	同二六	五社負	社員
同六	一ニク所作ル	ニク所作ル	同五二	轆チ	轆チ	同二六	五チヤシコツニ	チヤシコツニ
同七	七三十勝引受	十勝ニ引受	同五二	辱メラル、モノ	辱メラル、モノ	同二六	六岩礁點住	岩礁點在
同七	八緑	緑	同五二	市父分校	市父分校	同二六	四辻回シテ	迂回シテ
同八	二(擔振國)	(擔振國)	同五二	授業料	授業料	同二六	六泥濘	泥濘
同八	五參着	參着	同五二	間歇熱	間歇熱	同二六	五ニ要シ	要シ
同九	七少ナカスラ	少ナカラス	同五二	等樹院(以下之レ)	等樹院(以下之レ)	同二六	三再來	爾來
同九	一往來ノ	往來	同五二	完全	完全	同二六	三再來	爾來
同十	三者ナカシカ	者ナカシカ	同五二	苦小牧(以下之レ)	苦小牧(以下之レ)	同二六	六再後	爾後
同十	五長知苗	長知苗	同五二	兒玉某	兒玉某	同二六	七市街ニハ	市街ニテ
同十	八碧葉	碧葉	同五二	荷葉摘	荷葉摘	同二六	七市街ニハ	市街ニテ
同十一	三萩伏	萩伏	同五二	紫雲古津	紫雲古津	同二六	三正教員四准	正教員四名准
同十一	三姉茶理	姉茶理(以下之レ)	同五二	戶口	戶口	同二六	五郷地	郷地
同十二	七紫雲、古津	紫雲古津	同五二	素朴ノ	素朴ノ	同二六	六時昔	昔時
同十二	三本相	本相	同五二	與リテ	與リテ	同二六	七遭過	遭過
同十三	三後邊、戸井、寒臺	後邊戸、井寒臺	同五二	平取村	平取村	同二六	五小作ト人ノ	小作人トノ
同十三	四件ヒテ	伴ヒテ	同五二	「オサツナイ」ハ、酒川	「オサツナイ」ハ、酒川	同二六	五雜持	維持
同十三	九開墾	開墾	同五二	赤楊、	赤楊、	同二六	五不良馬匹	不良ノ馬匹
同十三	三捐害	損害(以下之レ)	同五二	位スル	位スル	同二六	七質撲	質撲
同十三	八本道中	本道中	同五二	南ニ延テ	南ニ延テ	同二六	七ニ至リニ到リテ	ニ至リニ到リテ
同十三	一冷淡ルナ	冷淡ナル	同五二	丘陵ハ、黑色	丘陵ハ、黑色	同二六	八入ヲル、	入ル、
同十三	四食料ノ	食料	同五二	苦小牧	苦小牧	同二六	三ツトムアンベシ	ツトムアンベシ
同十三	六比スルレハ	比スレハ	同五二	目下	目下	同二六	六喜七	喜七
同十三	三明治三十二年	明治三十一年	同五二	新井田伊織	新井田伊織	同二六	三榆、柳、	榆、柳、
同十三	三宛豆	宛豆	同五二	春立	春立	同二六	四開墾シタル以テ	開墾シタル以テ
同十三	三徵發	徵發	同五二	揚卸	揚卸	同二六	一ホロマンベツ	ホロマンベツ
同十三	七糶賣	糶賣	同五二	連擔(以下之レ)	連擔(以下之レ)	同二六	六牧獲	牧獲
同十三	七至ル海岸	至ル地ハ、海岸	同五二	馬鈴薯	馬鈴薯	同二六	二七万里	十七万里
同十三	五牧擧	牧擧	同五二	「アイヌ」	「アイヌ」	同二六	六佳長シニテ	佳長ニシテ
同十三	五地ノ一部	他ノ一部	同五二	農産物ハ大豆	農産物ハ大豆	同二六	三番人中留チ	番人中留テ
同十三	七地換ヘテ	地ヲ換ヘテ	同五二	無格社	無格社	同二六	二四幕集	幕集
同十三	五周成	周成	同五二	平垣ニシテ	平垣ニシテ	同二六	一住古神社	住古神社
同十三	五九種馬購求	種馬ノ購求	同五二	困難	困難	同二六	三トヨシヌアリ	トヨシヌアリ
同十三	五明治三十年	明治三十一年	同五二	等ニ仰ク	等ニ仰ク	同二六	七昔時番、家	昔時番家





備考
 水圖ノ地形線ハ海面上六百
 十六尺毎ニ一線ヲ描ク

補砲台圖

尺一
 比
 之
 分
 千
 五
 万

142°

148°

42

42

例言

一當報文ハ本廳事業手河野常吉、同吉田卓、同一色藤之助ヲシテ擔當セシメ明治二十九年本廳囑托員成田軍平ノ調査セル所ニ基ツキ明治三十一年十一月五日ヨリ十二月三日ニ至ル二十九日間實地ニ就テ調査シ且官廳ノ書類及ヒ舊記等ヲ參照シテ編纂セル所ナリ

一當報文ハ分テ總說郡村ノ二編トナシ總說ノ部ニ於テ一國ニ關スル概略ヲ說キ郡村ノ部ニ於テ郡村各別ニ之レヲ記ス

一國郡ノ境界、山嶽ノ高、河流ノ長ハ皆本廳實測地形圖ニ據ル村ノ境界ハ概テ明了ナラス其地人民

一人口產本輸出入其他統計ニ關スルモノハ明治三十年末ニ於ケル官廳及ヒ漁業組合事務所等ノ調査ヲ據リ間々其前後ノ調査ヲ交フ其統計タル往々精確ナラサルモノアリト雖モ大體ヲ知ル

一當報文中現今又ハ目下ニ採用セリ
稱スルハ皆實地調査ノ當時ヲ指ス

明治三十二年二月

北海道廳 殖民部



北海道殖民狀況報文日高國之部目次

前編 總說

地理	一頁
氣候	五
動植物	七
沿革	八
運輸交通	一九
戶口	二二
郡村及官衙	二六
漁業	三〇
農業	三八
牧畜	四七
鑛業	五四
製造	五五
山林	五六
商業	五八
風俗人情	六〇
村經濟	六二
教育	六六

目次

六六 六二 六〇 五八 五六 五五 五四 四七 三八 三〇 二六 二二 一九 八 七 五 一頁

衛生

社寺

後編 郡村

沙流郡

佐瑠太村

富仁家村

平賀村

荷葉摘村

紫雲古津村

荷葉村

平取村

二風谷村

荷負村

貫氣別村

長知内村

幌去村

門別村

波惠村

慶能舞村

賀張村

六八

六九

七三

七三

七七

八〇

八〇

八二

八三

八四

八五

八八

八九

九〇

九一

九二

九三

九七

九九

一〇〇

厚別村

菜實村

新冠郡

大狩部村

葉朽村

受乞村

元神部村

比字村

高江村

去童村

泊津村

姉去村

萬揃村

滑若村

新冠御料牧場

静内郡

下々方村

中下方村

上下方村

目名村

一〇二

一〇四

一〇五

一〇七

一〇八

一〇九

一一〇

一一〇

一一二

一一三

一一三

一一四

一一四

一一五

一二〇

一二四

一二八

一二八

一二九

遠佛村	一三〇
碧葉村	一三一
市父村	一三三
幕別村	一三五
野家村	一三五
有良村	一三六
捫別村	一三八
婦蟹村	一三九
佐妻村	一四一
春立村	一四一
音江村	一四二
遠別村	一四三
三石郡	一四三
娵布村	一四四
邊訪村	一四七
幌毛村	一四九
梟舞村	一五〇
本桐村	一五二
歌笛村	一五三
浦河郡	一五四

荻伏村	一六〇
姉茶村	一六三
野深村	一六五
後邊戸村	一六六
井寒臺村	一六八
向別村	一七〇
浦河村	一七二
後鞆村	一七七
幌別村	一七八
西舍村	一七九
杵臼村	一八三
赤心株式會社	一八五
樣似郡	一八八
鵜苔村	一九二
樣似村	一九三
岡田村	一九六
二七村	一九八
平鶺村	一九九
冬嶋村	二〇〇
幌滿村	二〇二

誓内村	二〇三
幌泉郡	二〇四
近呼村	二〇九
笛舞村	二一〇
幌泉村	二一一
歌別村	二一六
歌露村	二一八
油駒村	二一九
小越村	二二〇
庶野村	二二二
猿留村	二二五

北海道殖民狀況報文日高國之部

前編 總說

地理

疆域及地勢

日高國ハ西ハ膽振國ニ接シ北ハ僅ニ石狩國ニ連リ東ハ十勝國ニ界シ南ハ大平洋ニ面ス國ノ最西ヲ沙流郡ウフイエバフ(東經百四十一度五十八分弱)トシ最東ヲ幌泉郡ヒタタヌ(東經百四十二度十九分)トシ最南ヲ襟裳岬北緯四十一度五十四分餘トシ最北ヲ沙流川水源山脈北緯四十三度弱トシ廣長二十八里十七町袤衍三十里三十町面積三百二十方里餘アリ其地形西北ヨリ東南ニ延長シ終ニ海中ニ突出シテ半嶋狀ヲナシ其尖端ヲ襟裳岬ト稱ス本道中渡島ノ國ヲ除クノ外最ニ南ニ位スル國ナリ東境ニ日高山脈連亘シ西南ニ向テ傾斜シ延テ海岸ニ至ル而シテ該山脈ハ海ノ間ハ國ノ西北部ニ廣クシテ東南部ニ狹キヲ以テ河川ノ大小モ亦之ニ準シ河國ヲ分テ沙流、新冠、釧内、三石、浦河、様似、幌泉ノ七郡トナス西北ヨリ東南ニ並列シ様似郡ヲ除クノ外ハ皆南北ニ長ク其地勢各郡トモ北ヨリ南ニ向テ傾斜セリ

山岳

日高山脈ハ蜿蜒トシテ十勝國ノ境ヲ限リ其南端延テ南東海中ニ突出ス此山脈中著名ナルモノヲ北方ヨリ順次列舉スレハメムオロ岳(高五千八百六十一尺)ヒバイロ岳(高六千六百五十六尺)トツタベツ岳(高六千六百九十九尺)ボロシリ岳(高六千四百三十五尺)カムイスプリ(高四千九百四十二尺)ボロシリ岳(高四千三百八十九尺)オムシヤヌプリ(高四千六百六十六尺)ビロロヌプリ(高四千六百八

十尺トヨニ岳高三千八十六尺オキシカヌブリ(高三千九百九十四尺)等トス此山脈ハ頗ル高峻ニシテ東十勝ノ平原ニ向テハ甚々急ニ傾斜スレモ西日高ニ向テハ傾斜稍々緩ニシテ支脈延亘海岸ニ漸降ス而シテ日高國ノ全体ハ實ニ此傾斜地ヨリ成リ海岸ニ至リテハ丘陵高原相連リテ復ターノ高嶺ヲ見ス唯様似郡ノ東部ニピンチシリ山高三千三百三十三尺)オロクンチヌブリ(高二千四百六尺)等アリテ海邊ニ様似山道ヲナシ又幌泉郡ノ東部即チ庶野ヨリ猿留ニ至ルノ間ハ數百尺ノ峰嶺海際ニ聳ヘテ巉巖絶壁ヲナス

河川 當國ハ分水嶺ヲナス所ノ日高山脈ト海トノ間廣カラサルヲ以テ川流皆短ク一モ三十里以上ニ達スルモノナシ沙流川ハ最モ西ニアリ其長二十八里二十町國中第一ノ大河タリ是ヨリ以東門別川(長十二里三十四町)波惠川、慶能舞川、賀張川、厚別川(長十三里五町)新冠川(長十九里八町)染退川(十七里二十一町)捫別川、布辻川、三石川(長九里七町)冕舞川(長十里十九町)元浦河(長十一里二十八町)向別川、幌別川(長九里十九町)様似川(六里二十町)幌滿別川ニカンベツ川猿留川等アリ河流ノ方向ハ北々東ヨリ南々西ニ流レ若クハ北ヨリ南ニ流ル唯襟裳岬以東ニ在リテハ西北ヨリ東南ニ向ヘリ而シテ各河川皆山嶽丘陵ノ間ヲ通過シ其兩岸ヲ崩壞侵蝕シテ谿谷ヲナセモ其谷幅狹クシテ廣大ナル低野ナク且水勢急ニシテ舟楫ノ便乏シク今日僅ニ數個ノ河流ニ於テ丸木舟ヲ上下スルヲ得ルニ過キザルハ惜ムヘキナリ各川概テ海岸ニ於テ西方ニ屈曲シテ海ニ注ク是レ其河水ト海浪トノ衝突ニヨリ其間ニ沙ヲ堆積シテ吐口ヲ屈セシメタルナリ

本道諸國中最も湖沼ノ少ナキハ日高國ニシテ僅ニトヨニ岳ノ半腹ニトヨニ沼アルノミ
海岸 海岸線ハ四十四里十五町ニシテ其大部ハ狹キ砂濱連續シ其上ニ海成段階ヲ負フ段階ノ

崖端ハ傾斜概テ急ニシテ雜草ヲ以テ掩ハレ又屢々絶壁ノ峭立スルニ逢テ様似郡冬嶋ト幌滿トノ間及ヒ幌泉郡庶野ト猿留トノ間ハ巖石磊磊最モ危峻ニシテ古來著名ノ難所タリ川口ノ近傍ハ大低砂丘ヲ生シ殊ニ浦河郡エブイ川口ニ於テハ其高三十尺ニ達スト雖モ亦甚々長ク連續セズ右ノ如ク當國海岸ノ大部ハ狹キ砂濱ヲ通スト雖モ海中ニハ處々岩礁散在シ殊ニ東部ハ之レニ富ミ能ク昆布ヲ饒産ス

當國海岸ハ屈曲甚々少ナク絶テ良港灣ヲ有セス浦河ノ如キ幌泉ノ如キハ重要ノ市場ナレモ安全ニ船舶ヲ碇繫セシムル能ハサルハ一大欠點タリ岬ハ有名ナル襟裳岬アルノ外復々始ント岬ト稱スヘキモノナシ

近海ノ潮流ハ東方ヨリ襟裳岬頭ヲ衝テ來ル所ノ寒流ト西方津輕海峽ヨリ來ル所ノ暖流ノ餘派トノ二流アレモ其勢甚々強カラス風向ニヨリテ時々其方向ヲ異ニスルモノ、如シ

原野 前ニ述ヘタルカ如ク當國ハ一大山脉ノ傾斜ヨリ成リ丘陵高原ハ稍々廣シト雖モ河川沿岸ノ低地ハ何レモ狹クシテ廣大ナル沃野ヲナスニ至ラス沙流川ノ如キハ川口ヨリ十數里ノ奥ニ至ル迄沿岸低地ナキニアラスト雖モ其幅狹キテ以テ其地積廣カラス之レニ次キテ染退、元浦河、門別、厚別、新冠、捫別、三石、冕舞、幌別、様似其他諸川沿岸ニ細ク長キ低原アリ幌泉郡ハ川小ニテ沿岸低原ナシト云フモ可ナリ丘陵高原ハ數多ノ河谷ニヨリテ中斷セラレ所々高低アリ其地積ハ低原ニ倍蓋スト雖モ十勝以東高原ノ廣濶ナルニ比ス可ラズ

當國原野ノ地積ハ未タ精確ノ測量ナキヲ以テ之ヲ知ル能ハス姑ク殖民地撰定第二報文ニ載スル所ヲ記シテ參考ニ供ス

郡	原野	平地	丘陵	陵	總地積
沙	流沙	一七、二四五、〇〇〇	一三、六四一、三〇〇	三〇、八八六、三〇〇	
靜	内門別川沿岸	一、七七五、〇〇〇	五七〇、〇〇〇	二、三四五、〇〇〇	
三	石冕舞三石間	九、七四五、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一〇、八五五、〇〇〇	
浦	河元浦河沿岸	四、六〇〇、〇〇〇	三、五八五、〇〇〇	八、一八五、〇〇〇	
同	幌別川沿岸	五、四七二、五〇〇	二、三二五、〇〇〇	七、七九七、五〇〇	
樣	似樣似仁雁別間	二、二二二、五〇〇	一、三七〇、〇〇〇	三、五九二、五〇〇	
幌	泉笛舞幌泉間	一九二、五〇〇	一、五二〇、〇〇〇	一、七一二、五〇〇	
計		四一、二五二、〇五〇	一四、一二一、三〇〇	六五、三七三、八〇〇	

地質

當國地質ノ構造ハ本道諸國中最も整正ニシテ各種ノ岩石順チ追テ配置セラル即チ日高山脈ハ花岡岩噴出シテ其骨髓ヲナシ古生層ハ花岡岩ノ周縁ヲ包ミテ露出シ其兩岩相接シタル所ニ花岡岩ノ作用ニ因テ接合岩ヲ生ス中生層ハ古生層ニ次テ處々ニ散在露出シ殊ニ浦河附近ニ於テハ海岸ニ露ハレテ種々ノ化石ヲ出シ第三紀層ハ又古生層中生層ニ接シテ海岸ニ至ル迄ノ地ヲ占領シ第四紀層ハ各河川ノ沿岸ニ生シテ低原ヲ成セリ而シテ西境ヨリ浦川ニ至ル地方ハ一般ニ火山灰ヲ以テ被覆セラレ地味ヲ瘠惡ナラシメタルハ輕視スヘカラサル事實ナリ

地味 河畔ノ低原ハ多クハ壤土若クハ砂質壤土ニ屬シ地味肥沃ナリ下流ノ地ハ往々砂土又ハ泥炭地ヲ見ル國ノ西部ハ曾テ火山灰ヲ以テ被レ低原尙其灰砂ヲ存ス所アリト雖モ過半ハ洪水ニヨリテ洗ヒ去ラレ又ハ其上ニ多少ノ土砂ヲ沈積シテ沃土トナレリ之ヲ要スルニ當國ノ農作適地ハ實ニ河畔ニアリト謂ハサルヲ得ス丘陵高原ハ概チ埴土ニシテ國ノ西部ニ在リテハ火山灰

ヲ被覆ス其厚沙流郡ハ凡一尺新冠郡ハ凡五寸、靜内郡ハ凡三寸、元浦河附近ニ至リテ一寸トナリ其上部ニ火山灰ノ分解シテ腐植質ヲ混シタル黑色砂質壤土アリテ其厚平均四五寸トス概シテ地味良好ナラス故ニ丘陵高原ノ一部ハ農耕ヲ營ムヲ得サルニアラスト雖モ一般ニ論スレハ牧場適地ト云ハサルヲ得ス

氣候

日高ハ北東山ヲ負ヒ南西海ニ面シ本道中氣候温和ナル國ノ一ニ數ヘラル今之レヲ說クニ當リ一國ヲ通シテ精確ニ調査シタル氣象表ナク唯襟裳燈臺ニ於テ二等測候所ニ准シ觀測シ來レル材料アルノミナレモ襟裳ノ地タル海中ニ突出シ海上氣象ノ影響ヲ受クルノ最モ甚シキヲ以テ之レニ據リテ全國ノ氣候ヲ推論スルニハ大ニ斟酌ヲ加ヘサル可ラズ

温度 襟裳燈臺ニ於ケル累年ノ觀測ニヨレハ一ケ年平均温度ハ攝氏七度一分ニシテ函館ニ比スレハ低キヲ一度六分札幌ニ比スレハ高キヲ一分ナリ而シテ襟裳ハ海上氣象ノ支配ヲ受クルカ故ニ夏冬温度ノ較差少ナク且夏期ハ海霧多キヲ以テ頗ル低温ナリ其各月ノ平均温度ハ左ノ如シ

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
(一三、二二)	(二二、八二)	(三三、七二)	(四二、二二)	(五一、五二)	(六一、七二)	(七一、〇二)	(八二、一三)	(九二、二四)	(〇二、三五)	(一一、四六)	(二二、五七)	七、一

右ノ如ク襟裳附近ハ割合ニ夏冷カニ冬暖カナリト雖モ其他ノ地ハ夏期温度高ク且濃霧少ナキヲ以テ農作物ノ生育殊ニ佳良ナリ又内部ハ冬期寒威強シト雖モ本道中他ノ地方ニ比スレハ温度高キ方ニシテ山間ニ入ルニ從ヒ漸次寒氣ヲ増セリ

風、 秋冬二期ハ西風最モ多ク三月四月ハ區々ノ風、五月六月ハ南西風、七月八月ハ南東風多シ風力ハ海岸ニ強ク内部ニ弱ク冬期ニ加リ夏期ニ減ス暴風日數ハ襟裳ニ於テ一ケ年百八十九日ニ達

海鼠、海盤車等アリ、鯨、海鱧等ノ海獸ハ近年來ル稀ナリ

植物

河畔ニハ榆、櫟、赤楊、柳、白楊、桂、胡桃「ドスナラ」ノ類生長シ下草ハ劉寄奴、款冬、葶麻、蓬、「クサ」等繁茂シ濕地ニハ殊ニ蘆及ヒ「ヤチボウズ」ノ繁殖スルヲ見ル然レモ河畔ノ樹草ハ開墾ノ進歩ニ從ヒ著シク減少セリ丘陵高原中海岸ニ近キ所ハ櫟最モ多ク海岸ヲ遠サカルニ從ヒテ櫟多シ其他椒「アサダ」赤楊、刺楸、樺等ヲ交フ假松ハ國ノ西部ニ於テハ數里ノ奥ニ入ラサレハ之レヲ見ル能ハス東部ニ至ルニ從ヒテ漸次海岸ニ近ツキ冬鳴官林ハ海岸ヨリ鬱葱タル森林ヲナセリ栗ハ國ノ西部ニ産シ山椒ハ諸處ニ生ス此二種ハ十勝國以東ニナキ所ナリ下草ハ丘陵高原ニハ笹、萩、茅、蕨「カラマツサウ」等多ク山岳ニハ笹繁茂ス海岸ノ沙地ニハ處々玫瑰ノ美花ヲ開クアリ海中ニハ昆布海藻銀杏草等ヲ生シ殊ニ東部ノ地ニ饒産セリ

當國ニ於ケル植物季節ハ大畧左ノ如シ

- 野草ノ萌芽期節 四月上旬
- 潤葉樹ノ萌芽期節 五月中旬
- 原野山林ノ青色ヲ呈スル期節 五月下旬
- 野草ノ最盛シニ生長スル期節 六月中旬
- 楓ノ紅葉ヲ催スル期節 九月中旬
- 全山紅葉ヲ呈スル期節 十月下旬
- 潤葉樹ノ落葉スル期節 十一月上旬

沿革

日高國ハ古ヨリ「アイヌ」ノ部落多ク殊ニ沙流ハ蝦夷創業ノ地ニシテ「アイヌ」ノ都府トナス所ナリ故ニ其戸口ノ蕃キ亦全嶋ニ冠タリ國內ニ和人ノ入りシ年代ハ詳カナラサレモ寛永九年沙流ノ金山ヲ開キシ「舊記」ニ見ユ其後諸處ニ沙金ヲ發見シ年々數多ノ坑夫來リテ之レヲ採收ス寛文八年夏染退ノ酋長シヤムシャイン「亂」ヲ作ス初メシヤムシャイン勢強大ニシテ不軌ノ心ヲ懷ク其地ノ坑首莊太夫「秋田」ノ浪士ナルモノ其女婿トナリ松前ヲ滅シ夷地ノ利ヲ擅ニセント欲シ德憑シテ叛セシム波惠ノ酋長オニビシ勇悍之ニ從ハスシヤムシャイン襲テ之ヲ殺シ又松前ヨリ來ル所ノ商估其他入稼人ヲ殺スト二百七十餘人遂ニ進ンテ國縫「膽振國」ニ至ル松前泰廣救命ヲ奉シ來リ撃テ之ヲ破リシヤムシャインヲ誘降シテ之ヲ殺ス是ヨリ後坑夫ノ東蝦夷地ニ入ルヲ禁シ當國各地ノ鑛場皆廢ス又當國漁業ノ濫觸ハ之レヲ知ルヲ得スト雖モ始テ昆布ヲ採取シテ輸出セシハ寛文年間ニアリト云フ場所ノ數ハ沙流、新冠、染退「二ヶ所」分ル「靜内、三石、浦河、油駒」ノ七ヶ所ニシテ皆松前藩士ノ給地タリ其内染退ノ二場所ハ鹿獵ノ減少ニヨリ「アイヌ」等入合ヒテ遂ニ一場所トナル寛政年間ニ於ケル各場所ノ持主、受負人運上金等ハ左ノ如シ

場所	支配主	受負人	運上金	產物
沙流	小林嘉門	阿部屋傳七	百兩	昆布、煎海鼠、鱈、椎茸等
新冠	工藤平右衛門	同	四十兩	昆布、煎海鼠、鮭、椎茸等
染退	蠣崎伊兵衛	同	二十兩	昆布、煎海鼠等
靜内	太田伊織	同	十八兩	鯨、昆布、煎海鼠等
三石	新井伊織	同	百兩	鯨、昆布、煎海鼠等
浦河	杉村多内	同	百兩	鯨、昆布、煎海鼠等
	北川重次郎	阿部屋金兵衛	百五十兩	昆布、鱈、鮎等

日高國前編 沿革

右ハ東夷周覽、東夷竊々夜話等ニ據ル諸書記スル所多少異同アリ受負人ハ寛政三年東蝦夷道中記ニ據ル

當時「アイヌ」ハ春ハ海邊ニ出テ、鱒鮭ヲ釣リ又椎茸ヲ採リ夏ハ昆布ヲ刈リ海鼠ヲ曳キ秋ハ家ニ歸リ其近傍ノ川ニテ食糧ニ供スル鮭ヲ捕ヘ又ハ出稼シテ之ヲ漁シ餘リアレハ荷物トシテ輸出ス冬ハ家ニ在リテ漁船漁網ヲ製シ棉繩ヲ綯ヒ又獵ニ從事シ女ハ「アツシ」ヲ織リ「キナ」ヲ編ム而シテ春夏漁業ノ餘暇ヲ以テ粟稗ヲ作り或ハ山野ノ草ヲ採リテ食料ニ充ツ鹿ハ舊來一產物タリシカ此頃減少シテ產出セス寛政十一年正月幕府松前藩ニ命シテ浦河以東ノ地ヲ上ラシメ同八月更ニ箱館以東ヲ收メテ之レヲ直轄シ様似猿留ノ山道ヲ開キ様似ニ等樹院ヲ建テ請負人ヲ罷メテ手ツカラ漁業ヲ營ミ染退靜内二場所ヲ合シテ靜内場所トナシ油駒場所ヲ分テ様似幌泉二場所トナシ「アイヌ」ヲ撫恤シ産業ヲ獎勵ス文化四年露國船ノ擇捉利尻ニ寇スルヤ南部藩ヲシテ兵ヲ出シテ浦河ニ屯セシム文化五六年ノ際調査セル所ノ各場所ノ概況左ノ如シ

沙流場所

沙流川筋 船ヲ以テ旅客ヲ渡ス鮭ノ溯上スルコト少シ川筋ノ「アイヌ」ハ沙流太十五戸平賀二十五戸紫雲古津六戸チエツボツナイ十戸荷菜二十五戸平取十七戸二風谷十一戸ビバウシ十戸カンカン二戸ベナコリ十三戸モヒラ八戸ボロケスオマア七戸幌去七戸イケウレイ六戸トス又沙流川支流スカビラ川筋シケレベ五戸貫氣別八戸アリ
シノクイ 新ニ設ケタル番屋及ヒ義經社アリ二月中旬ヨリ八月中旬マテ番人一名「アイヌ」ニ附

添ヒ出張シテ漁業ヲナス

門別 門別川口ノ東ニ會所旅宿所板藏茅藏作事小家稼方居小家鍛治小屋厩及ヒ辨天社アリ
ヲ以テ山水ヲ引キ飲料ニ供ス川筋ノ「アイヌ」ハ「サツナイ」十一戸クツタル六戸

波惠、慶能舞 此兩川各々板橋ヲ架ス

賀張 土橋アリ川筋ニ「アイヌ」十八戸居住

フシモミ 番家アリ春夏ノ候番人一名「アイヌ」ニ差添ヒ來リテ漁業ヲナス

厚別 場所境ニテ新冠ヨリ船ヲ出シ沙流ノ「アイヌ」渡守ヲナス鮭魚少シ川筋ノ「アイヌ」ハ「ボン」ニク十二戸ビウ四戸

當場所ノ產物ハ熊膽、熊皮、干鱒、干鮫、干鮓、魚油、煎海鼠、鯨、鷺羽、椎茸等ニシテ一ケ年ノ產額凡五百石トス「アイヌ」ハ二百三十六戸千十三人アリ戸口多ク產物乏シキヲ以テ生計容易ナラズ故ニ又夏ハ三石、浦河兩場所ニ出稼シテ昆布、ヲ採リ秋ハ勇拂場所千歳ニ赴キテ鮭ヲ漁ス

新冠場所

厚別 渡船ノ事前ニ記ス、休所アリ出張番屋アリ二月中旬ヨリ八月中旬マテ番人一名「アイヌ」ニ差添ヒ出張シテ漁業ヲナス川筋ノ「アイヌ」ハ「サツナイ」四戸受乞六戸リヒラ六戸

新冠 新冠川口ノ西ニ會所、旅宿所、辨天社、板庫、物置小屋、厩、井等アリ會所ノ裏ニ畑ヲ設ケ蔬菜ヲ作ル該川ハ鮭多シ川筋ノ「アイヌ」ハ「タカエサ」十五戸ソリハラエ十戸姉去四戸サトツチャ六戸
アクマフ八戸カククミ四戸シユチナイ八戸

當場所ハ「アイヌ」七十一戸三百二十九人ニシテ漁船ハ會所附二艘蝦夷舟六十艘產物ハ昆布、煎海

鼠、干鱈、干鮫、干鮠、椎茸、「アツシ」樺繩、熊膽、熊皮ニテ一ケ年總額凡六百石トス産物少ナキヲ以テ生計宜シカラス故ニ又夏ハ靜内秋ハ勇拂場所ニ出稼セリ

靜内場所

染退川筋 船渡ナリ、鮭夥シク溯上ス川筋ノ「アイヌ」ハシンフツ五戸下方七戸、目名太二戸、ヘツウトル六戸遠拂五戸タフコサン七戸、碧葉六戸、市交七戸、フ、ルエカ三戸幕別五戸ノヤチヤリ九戸ヲフシユンケナイ二戸

マウタシヤフ 「アイヌ」三戸
ウセナイ 番家晝休所及ヒ厩アリ人馬繼立場ナルカ故ニ番人二名常在ス

有良 「アイヌ」四戸

捫別 「アイヌ」十一戸アリ船渡ナリ鱒鮭共ニ昇ルコト少ナシ川筋シトカブニ四戸ヌプトロチマナイニ六戸ノ「アイヌ」アリ

チノミ 番家及ヒ「アイヌ」八戸アリ毎年四月ヨリ八月マテ番人一名「アイヌ」ニ差添ヒ出張シテ漁業ヲナス

靜内 會所辨天社板藏茅藏及ヒ「アイヌ」七戸アリ井ヲ設ク
ラシユツベ 「アイヌ」十一戸

チアトシマ 番家アリ漁業チノミニ同シ
布辻^{フツツ} 此處ニ新冠出稼番家アリ夏來リテ昆布ヲ取ル川ニ土橋ヲ架ス鮭ノ溯ルコト少シ川筋「アイヌ」三戸アリ

當場所産物ハ鱈、干鮭、干鮫、干鱈、干鮠、魚油、昆布海蘿、熊膽、熊皮ニシテ一ケ年總額凡二千石トス其外雜魚少ナカラサレモ搾粕トナスニ足ラス「アイヌ」ハ惣計百二十三戸五百五十四人ニシテ蝦夷舟七十艘アリ其生計容易ナリ

三石場所

ベシユトアリ 沙流「アイヌ」ノ出張番屋アリ昆布ヲ採ル
テコシ 番家アリ四月ヨリ七月末迄番人一名附添ヒ出張シテ「アイヌ」ニ漁業ヲナサシム

ミツイシ 會所辨天社旅宿所板藏厩アリ
三石川筋 船渡ナリ川筋ノ「アイヌ」ハ邊訪十一戸、シャリシヤマ五戸イマニチ四戸ルベシユベ三戸ヌブシエ十戸

ウラリ 番屋アリ漁事テコシニ同シ
鳧舞 渡船アリ川ニ鮭多シ川筋ノ「アイヌ」ハタフコブ五戸モクラウシ一戸ウエンネチ四戸クト

五戸シヨナイ三戸
當場所「アイヌ」惣數六十戸二百七十一人漁船會所附三艘蝦夷舟四十三艘アリ産物ハ干鮭、干鮫、干鮠、干鮫、煎海鼠、魚油、鱈、椎茸、昆布、熊膽熊皮ニシテ一ケ年惣額凡千石トス「アイヌ」生計宜シ

浦河場所
オニウシ 三石境ニシテ土橋ヲ架ス山上ニ新道ヲ開ク

イカリウシ 番家アリ毎歲四月ヨリ八月迄番人一名「アイヌ」ヲ伴ヒ來リテ漁業ヲナス此處又沙

流出張番家アリテ昆布ヲ取ル

浦河(今ノ元浦河) 晝休所アリ船ヲ以テ渡ス鮭多シ川筋ヌンヘトウ三戸フレトウ四戸ウエンコ
タン二戸ヤトリ五戸トウルケニ三戸クナシトマ、ツ三戸姉茶四戸イカベツ八戸野深^{ワカ}九戸ノ「ア
イヌ」アリ

シリエト 沙流「アイヌ」ノ出稼小家アリ

ニフイ 土橋ヲ架ス是ヨリチヤシコツ迄新道ヲ通ス

井寒臺 番家アリ漁事イカリウニ均シ

向別 船渡ナリ川筋シソリトナイニ「アイヌ」九戸

トマリ(今ノ浦河) 會所辨天社稻荷社旅宿所板藏、井、厩アリ會所ノ東北ニ畑ヲ墾シ蔬菜ヲ作ル

ウロコベツ チヌミ 共ニ假板橋ヲ架シ新道ヲ開ク

ヘシホケ 自分稼小家六軒アリ新道ヲ通ス

チキサブ 假板橋ヲ架ケ新道五町ヲ開ク

シリエンルム 番家アリ漁事イカリウニ同シ假板橋アリ

幌別 船渡ナリ晝休所アリ鮭多シ川筋ノ「アイヌ」ハマツリシメナ三戸ベケレメナ八戸ハラトウ

四戸

ウトマンベツ 浦河様似兩場所境界ノ紛議久シク絶ヘサリシカ文化六年九月此處へ境標ヲ建

ツ但シ幌別川迄ハ様似場所ニテ永久取扱フコト定ム

當所ノ産物ハ干鱈、干鮫、干鮭、煎海鼠、干鮎、魚油、昆布、椎茸ニシテ一ケ年凡千七百石トス「アイヌ」ハ六
十五戸三百七十四人漁船ハ會所附三艘蝦夷舟四十一艘アリ鮭多キヲ以テ「アイヌ」ノ食糧ニ窮ス

ルコナシ

様似場所

ウトマンベツ 番家ヨリ番入一名差添ヒ四月ヨリ八月ヲテ「アイヌ」チシテ漁業ヲナサシム

ウンベツ 土橋ヲ架ス川筋ボンウンベツニ「アイヌ」三戸

様似 會所、觀音堂、船玉社、稻荷社、等樹院、幕吏詰合居宅、雇醫師居宅、板庫、茅藏、酒造藏、漁方居小家、漁

方雇十人) 糶室米搗場、厩、井等アリ會所ノ南北ニヶ所ニ木砲臺ヲ設ケ東北ニ蔬菜畑アリ又水車

ヲ設ク

様似川筋 船渡ナリ川尻ニテ曳網ヲ以テ鮭ヲ漁ス川筋ヲコタヌシ四戸ヲサラツケ四戸ノ「アイ

ヌ」アリ

オソフケウシ 此處ヨリ様似新道ニ入り山中コトニニ小休所アリ

幌満別 番家アリ引越稼方和助ナルモノ住居シテ渡守ヲナス

ニカンベツ 元幌泉領ナリシカ享和二年此川ヲ以テ様似幌泉ノ境トナス土橋ヲ架シ修繕ノ費

用ハ兩場所ノ持トス

當場所「アイヌ」ハ僅ニ二十六戸百三十九人ニ過キス産物多ク且秋ハ幌別川入會ニテ食料ノ鮭ヲ

漁シ生計容易ナリ場所ノ所産ハ干鱈、干鮎、昆布、海蘿、鱒絞粕、鮭絞粕、魚油、鮫等ニテ一ケ年凡二千石トス

幌泉場所

笛舞 小休所アリ

アベヤキ 土橋ヲ架ス

幌泉 會所、辨天社、住吉社、旅宿所、板藏、茅藏、荒物置小家、大工細工小家、厩アリ野菜ハニケ所作ル支配人以下番人マデ十二名此外會所漁方雇人十三名
 コルフル 土橋ヲ架ス是ヨリ猿留山道ニ入ル
 猿留山道ハアブチニ晝休所アリ東猿留ニ出ツ但シ冬ヨリ翌春三月マテハ雪深クシテ通行シ難キヲ以テ海岸ヲ往來ス海岸ノ方ハ左ノ如シ
 オタベツ 小休所アリ
 エンルムヌブカ 漁小屋ニケ所アリ會所直稼場ナリ
 油駒 昆布取小家アリ
 テシユケブ 昆布取小家アリ
 小越 昆布取小家アリ
 庶野 番家アリ廣尾場所(十勝)ノ「アイヌ」年々入稼キシテ昆布ヲ採取ス
 猿留 通行旅宿所及ヒ板藏、茅藏アリ
 ビタ、スンケブ 板橋ヲ架ス修繕ハ幌泉廣尾兩場所隔年持ナリ
 常場所産物ハ鱈、鮎、鮫、海蘿、昆布、鮭、鮭、鮭、魚、赤魚、推茸、鷲尾等ニテ松前藩ノ頃ヨリ享和元年迄ハ年々凡二三千石其後ハ三四千石文化二年ハ昆布四千五百石其他魚類海藻凡四百五十石ヲ産出ス「アイヌ」ノ數ハ四十五月百七十七人ニシテ産物ノ饒多ナルニ比シ戸口稀少ナルヲ以テ松前藩ノ頃ヨリ和人ノ入稼ヲ許シ此人員目下五六百人ニ達ス又廣尾場所「アイヌ」ニ庶野ノ漁業ヲ任セ且廣尾ヨリ年々「アイヌ」三十人ヲ無賃ニテ借入タリ

此ノ如ク幕府ニ於テハ道路橋梁ヲ設ケ産業ヲ奨メ諸事大ニ面目ヲ改メタリ文化九年幕府ノ手捌ヲ罷ン再ヒ入札ヲ以テ場所ヲ請負ハシムルヤ其運上金ハ三千八百二十四兩餘トナル其請負人運上金ハ左ノ如シ

場所	運上金	請負人
沙	流 三百三十分	東屋 甚右工門
新	冠 八百八十五兩	濱田 屋 龜吉
靜	内 六百七十三兩ト永五十文	阿部 屋 傳次
三	石 四百八十九兩三分	松坂 屋 文右衛門
浦	河 九百三十分	萬屋 羽右衛門
樣	似 四百三十分	萬屋 嘉右衛門
幌	泉 九百八十五兩	嶋屋 佐次兵衛

此時幌泉請負人ハ庶野ノ漁業ヲ見込ミ十勝請負人モ亦之レヲ見込ミタルノ故ヲ以テ紛紜ヲ生セシカ文化十一年和談整ヒ庶野濱チ十勝請負人ニ貸與シ其報トシテ猿留番家ヲ十勝引受サセ且十勝ノ「アイヌ」ヲ賃錢ヲ以テ借ルトトナセリ文政四年松前藩ノ支配ニ復ス其頃ノ調査ニヨレバ其運上金請負人ハ左ノ如シ

場所	請負年	運上金	請負人
沙	文政五年ヨリ六ケ年季	二百兩	山田 屋 文右衛門
新	文政二年ヨリ六ケ年季	百十兩	濱田 屋 佐次兵衛
靜	文政二年ヨリ七ケ年季	千四十八兩二分ト永百文	萬屋 專右工門
三	文政二年ヨリ六ケ年季	三百兩	栖原 屋 虎五郎
幌	文政二年ヨリ七ケ年季	八百八兩	高田 屋 金兵衛